

履修要項

2022年度



TEIKYO

帝京大学 医療技術学部

視能矯正学科

看護学科

診療放射線学科

臨床検査学科

スポーツ医療学科救急救命士コース

医療技術学部

(目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー)

教育目的

医療技術学部は、建学の精神に則り、現代医療を担う一員に必要な専門的知識・技能、および教養・倫理を修得し、社会に貢献できるよき人材を育成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

医療技術学部は、高い教養と倫理観を有し現代医療を担える専門技能職として社会に貢献できる人材の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 豊かな人間性・倫理観を有し、コミュニケーションスキルを活用して人間関係が形成できる。
2. 各学科が掲げる基本的医療知識を有し、その医療技術を実践することができる。
3. 医療の高度化と国際化、社会情勢の変化に関心を持ち、生涯学習の自觉を有する。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

学位授与に要求される能力を修得するために、医療技術学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 基礎分野は、豊かな人間性、国際性ならびに医療人として必要な基礎的知識を身につけることを目的とした科目を編成する。
2. 専門基礎分野は、各学科の基本的知識・技術を学ぶ上で必要な基礎医学などを身につけることを目的として各分野の医療系基礎科目を編成する。
3. 専門分野は、現代医療を担う一員として必要な専門的知識・技術を学ぶための科目を編成する。

医療技術学部

(目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー)

教育目的

視能矯正学科

視能矯正学科は、医療技術学部の目的に則り、チーム医療の一員として、国民の目の健康に寄与することができる視能訓練士を育成することを目的とする。

看護学科

看護学科は、医療技術学部の目的に則り、医療の高度化と国際化、変動する社会情勢に対応し、看護の専門性を探求し、理論的、科学的に実践できる人間性溢れる看護職者を育成することを目的とする。

診療放射線学科

診療放射線学科は、医療技術学部の目的に則り、放射線医療に対する技術的な能力を基本として、崇高な倫理観と人間性を身につけ、広く社会に貢献できる診療放射線技師を育成することを目的とする。

臨床検査学科

臨床検査学科は、医療技術学部の目的に則り、臨床検査業務をはじめ衛生、薬事、食品業務などの検査業務を担当できる十分な知識・技術と豊かな人間性を備え、チーム医療の一員として働ける臨床検査技師を育成することを目的とする。

スポーツ医療学科

スポーツ医療学科は、医療技術学部の目的に則り、生命と健康に対して深い理解を示し、基本的な医療関連知識と医療スキルを修得した救急救命士、スポーツ指導者・教育者、トップアスリート、並びに各種分野で幅広く社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

視能矯正学科

視能矯正学科は、本学出身であることに誇りを持って活躍できる視能訓練士の育成を目指している。以下のよう
な能力を身に付け、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 医療に関わる倫理学・心理学・医学の基礎的知識を説明できる。
2. 眼科に関わる基本的知識を説明できる。
3. 眼科の検査知識を有し検査技術を実践できる。
4. 視能矯正・視能訓練、およびロービジョンケアの基本的知識を有し、検査技術を実践できる。
5. 新しい社会に貢献できる能力を備えるとともに、チーム医療の一員として主体的に行動できる。

看護学科

看護学科は、医療の高度化と国際化、変動する社会情勢に対応し、看護の専門性を追求し、理論的、科学的に
実践できる人間性溢れる看護職者の育成を目指している。以下のような能力を身に付け、かつ所定の単位を修め
た者に対して学位を授与する。

1. 人間を総合的にとらえ、人々の健康と生活の質および倫理に関する知識を概説できる。
2. 看護学並びに看護実践に関わる基本的な知識や技術を説明・実践できる。
3. 科学的根拠に基づいて、ヘルスニーズを総合的に判断し、看護実践ができる。
4. 主体的に多職種との連携・協力・調整に取り組むことができる。
5. 新しい社会に貢献しうるように、自己管理能力を備えると共に自己研鑽することができる。

診療放射線学科

診療放射線学科は、放射線医療に対する技術的な能力を基本として、崇高な倫理観と人間性を身に付け、広く
社会に貢献できる診療放射線技師の育成を目指している。以下のような能力を身に付け、かつ所定の単位を修め
た者に対して学位を授与する。

1. 医療人として必要な基礎知識を有し、地域社会、国際社会に貢献する意識を持つ。
2. 放射線に関わる基本的知識を有し、基本的技術を実践できる。
3. 放射線診断の基本的知識を有し、医療技術を実践できる。
4. 放射線治療の基本的知識を有し、医療技術を実践できる。
5. 自己管理能力を備え、チーム医療に繋がる協調性を保ち、将来の役割の変化、技術の進歩に対応できる能力を
実践できる。

臨床検査学科

臨床検査学科は、臨床検査業務をはじめ衛生、薬事、食品業務などの検査業務を担当できる十分な知識・技能
と豊かな人間性を備えチーム医療の一員として働ける臨床検査技師の育成を目指している。以下のような能力を
身に付け、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 医療の基礎となる医学・語学・医の倫理・社会学の基本的知識を説明できる。
2. 臨床検査の基礎となる自然科学の基本的知識を説明できる。
3. 臨床検査で行われる生体材料の検査を実践することができ、そのための専門知識や技術を説明できる。
4. 生理機能検査技術を実践する能力を有するとともに、臨床検査で行われる医療工学の知識を説明できる。
5. 臨床検査の知識をもとにチーム医療の現場に適応していくことができるとともに、社会に貢献するための基礎
となる知識を有し、将来の進歩や変化に対応することができる。

スポーツ医療学科

スポーツ医療学科は、基本的な医療関連知識と医療スキルを修得した救急救命士、スポーツ指導者・教育者、ア
スリート、およびスポーツ・健康理解を通じて社会に貢献できる人材の育成を目指している。以下の3つのコース
においてそれぞれが定めるような能力を身に付け、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

<救急救命士コース>

病院前救護の現場から救急医療に携わる専門家として、十分な知識と技能、人命救助に対する強い使命感と責
任感、豊かな人間性を有し、チーム医療の一員として地域社会に貢献できる救急救命士の育成を目指す。

1. 救急救命士に求められる倫理に関する基礎的知識を有している。
2. 救急救命士として地域社会に貢献する意欲を有している。
3. 病院前救護活動で考慮すべき安全管理の知識や技術を有している。
4. 病院前救護に必要なチームとしての協調性とリーダーシップを有している。
5. 病院前救護で必要な医学的知識・技術を修得し、その専門性を探究し続ける能力を有している。

<健康スポーツコース／トップアスリートコース>

スポーツ・医療や健康・体育の指導教育に関わる専門家として、幅広く国際的な視野を持ち、あらゆる場面に
対応可能な応用力を培い、的確な状況判断の下に指導、教育、実践、マネジメントできる人材の育成を目指す。＜以
下、省略＞

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

視能矯正学科

学位授与に要求される能力を修得するために、視能矯正学科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 基礎分野では、倫理学、心理学、基礎的コミュニケーション能力、外国語の修得、情報、および生命科学など医療の総合基礎能力を高めるための科目を配置する。
2. 専門基礎分野では、眼科医療の基礎を学ぶため「視能保健医療学」、「社会医療学」、「基礎医学」、「視能心理学」、「視能解剖学」、「臨床医学」、「視能病理学」、「視能薬理学」などを、視機能・斜視・眼球運動の基礎を学ぶため「視能生理学」、「視能生理光学」、「視覚生理学」、「神経眼科学」、「基礎光学」などを、低視力者に対する補装具や社会適応の基礎を学ぶため「視能リハビリテーション学」を配置する。
3. 専門分野では、眼科医療を学ぶため「視能障害学」を、視能矯正・視能訓練の理論と技術を修得するため「基礎視能矯正学」、「視能検査学」、「視能訓練学」を配置する。また、現場において医療人としての自覚、検査の実践、チーム医療の理解を深めるため「総合実習」、「臨床実習」を配置する。

看護学科

学位授与に要求される能力を修得するために、看護学科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 基礎分野では、人間を総合的に理解するために、下記の科目群を編成する。
 - i) 人間と社会の在り方や、基礎的コミュニケーションスキルを学ぶため人間科目群を編成する。
 - ii) 人間を取り巻く環境や環境との相互作用を理解する視点を学ぶため環境科目群を編成する。
 - iii) 外国語の修得と異文化理解の視点を学ぶため外国語科目群を編成する。
2. 専門基礎分野では、人の健康と生活ニーズを科学的根拠に基づいて理解するために、基本的な保健・医療系科目を編成する。
3. 専門分野では、看護実践のために不可欠な専門知識、技術、態度および倫理的視点を学ぶとともに、キャリア開発、看護学の発展を視野に入れ、社会の変化に対応できる能力を学ぶ科目を編成する。

診療放射線学科

学位授与に要求される能力を修得するために、診療放射線学科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 基礎分野では、医療に不可欠な倫理観、基礎的コミュニケーション能力、論理的思考力・主体的判断力を身につける科目、物理学、化学などの科目を配置する。
2. 専門基礎分野では、病院見学・学外施設見学などで放射線技師業務の概要を学ぶために基本的医学知識および放射線物理学、放射化学などの理工学系科目を配置する。
3. 専門分野では、実学・技術・国際性・社会対応への実学として下記の科目を編成する。
 - i) 実学的な専門知識を身につけるため、診療画像技術学、核医学検査技術学、放射線治療技術学を配置する。
 - ii) 専門的知識・技術を身につけるため、機器学、画像情報学、放射線管理学、線量計測学などに関する科目を配置する。
 - iii) 医療人としての接遇、チーム医療の理解を深めるため臨床実習を配置する。
 - iv) グローバルな視点で、変化する放射線技術・診療放射線技師の役割・法律改正に対応できる問題解決技法のプロセスを理解し、他の医療分野の知識を身につけ、放射線技術学の向上に資する能力を養うため国際放射線学、医療安全管理学、医療関係論などの科目を配置する。

臨床検査学科

学位授与に要求される能力を修得するために、臨床検査学科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 基礎分野では、医療に不可欠な倫理観、基礎的コミュニケーション能力を身につけるための科目を配置するとともに、自然科学的知識および理系基礎的能力を学ぶため「化学」、「生命科学」、「医療統計学」などを配置する。
2. 専門基礎分野では、臨床検査の基礎を学ぶため「人体の構造と機能」、「生理学実習」、「病理学」、「生化学」、「医用工学概論」、「公衆衛生学」、「認知症検査学」、「臨床栄養学」などを配置する。
3. 専門分野では、検体検査技術を学ぶため「臨床検査総論」、「病理検査学」、「病理検査学実習」、「血液検査学」、「遺伝子・染色体検査学」、「生化学検査学」、「微生物検査学」、「寄生虫検査学」、「免疫検査学」などを、生理機能検査技術を学ぶため「生理検査学」、「生理検査学実習」、「検査機器学」、チーム医療における実践的能力の修得のため「臨床検査総管理理学」、「医療安全管理学」、「病態解析演習」、「臨地実習」などを配置する。

スポーツ医療学科

学位授与に要求される能力を修得するために、スポーツ医療学科は、各コースが定める方針でカリキュラムを編成する。

<救急救命士コース>

1. 基礎分野では、幅広い教養を身につけ、普遍的な原理を探究する能力、様々な現象を多面的にとらえて総合的に判断する能力、国際的視野に立てる能力を学ぶ科目を配置する。
2. 専門基礎分野では、「生理学」、「解剖学」、「薬理学」、「病理学」などの基礎医学ならびに救急医学の基礎を段階的に修得する科目を配置する。
3. 専門分野では、「内科系医学」、「外科系医学」などの臨床医学を学ぶための科目を配置するとともに、「救急救命処置各論」、「臨床実習（シミュレーション教育）」、「救急車同乗実習」、「病院実習」などの救急救命処置技術を修得し、チーム医療の重要性を実践的に学ぶための科目を配置する。

目 次

授業関連および学生生活上の規則について

授業および時間割、履修登録	1
出欠席	1
交通機関の不通と警報による休講	2
単位認定、G P A制度	2
試験の種類など、追試験と再試験	3
受験上の注意、レポート	4
進級、卒業	5
在学年限、休学、復学、退学、除籍	5
オフィスアワー	5
講義内資料	5
修得目標とカリキュラムマップ	6
科目ナンバー	6
国家試験	6

履修要項

視能矯正学科	視1
看護学科	看1
診療放射線学科	放1
臨床検査学科	臨1
スポーツ医療学科救急救命士コース	救1

授業関連および 学生生活上の規則について

授業および時間割

1. 授業時間は以下のとおりです。

授業時限	1 時限目	2 時限目	3 時限目	4 時限目	5 時限
時 間	9:00～10:30	10:45～12:15	13:05～14:35	14:50～16:20	16:35～18:05

2. 学生は各授業の開始時刻までに必ず教室に入室してください。遅刻者は入室を許可されないばかりでなく、欠席扱いになることがあります。
3. 授業中は私語や携帯電話の使用、飲食等をせず、静粛に受講してください。無断退室や授業を妨げるような行為は厳に慎んでください。講義は大学側で撮影するため、ビデオ、カメラ、タブレット等での撮影・録音はしないでください。違背者には厳正に対処いたします。
4. 授業中に病気等やむを得ない事由で退席をするときは、授業担当教員にその旨を話し、指示を受けてください。
5. 時間割の変更、教室の変更、休講等はその都度掲示によりお知らせします。

履修登録

大学の授業には、全員が受講する必修科目と自由に選択することのできる選択科目があります。各学生がどの科目を受講するかについては大学に申告する必要があります。その申告が履修登録です。履修登録をしないと成績評価は勿論、単位が認定されなくなりますので、全員必ず行ってください。1 年間に履修できる単位の上限は、原則として 48 単位とします。（ただし、自由選択科目、国際事情Ⅰ・Ⅱおよび保健師課程科目は除く）成績優秀者には 48 単位を超えた履修を認めることがあります。なお、履修登録期間等についてはガイダンスにてお知らせいたします。

出欠席

単位認定は授業時間数が基準になります。従って授業に出席することが大変重要になりますので、必ず出席してください。また、年度初めのガイダンスや実習等に関する各種ガイダンスにも出席してください。

注）出席の回数、出席すべき授業時間数の 3 分の 2 に満たない場合には、当該科目について評価の対象外となり、定期本試験およびこれに準ずる試験の受験資格を失います。実習・演習等、実技を修得することが必要な科目については、基準が引き上げられる場合があります。

- 講義・実習・演習などへの出欠の調査は、「出席管理システム」のほか、点呼、アンケート、サイン名簿表、レポート、小テスト等によって行います。授業担当者によりその方法は異なります。
- 大学または教員の都合による休講は、出席すべき授業時間数に含まれません。
- 欠席回数については学生各自の自己管理を原則とします。**
- 「出席管理システム」では、講義室・実習室の入退出の際に必ず学生証をカードリーダーにかざしてください。学生証をかざし忘れた場合、欠席扱いになることがあります。また、他人に学生証を預けカードリーダーにかざしてもらい、他人の学生証を預かり代わりにカードリーダーにかざす、講義前後だけカードリーダーにかざして実際には出席しない等の場合は不正行為となります。（6. 参照）やむを得ず学生証の携帯を忘れた場合は、事務部窓口で所定の手続きを行ってください。
- 「出席調査用サイン名簿」を使用する場合、あるいは小テスト、レポート等により調査する場合は、原則として以下の取扱いとなりますので注意してください。
 - 出席調査時に不在の場合は欠席扱いとなります。
 - サイン名簿を使用する場合、所定欄に記入しない場合は欠席扱いとなります。
 - 次のような行為は、不正行為となります。（6. 参照）
 - ①他人に自分の小テスト、レポートまたはサイン名簿の記入を依頼した場合
 - ②小テスト、レポートまたはサイン名簿に他人の氏名等を記入した場合
 - ③途中退席者の小テスト、レポートをその者に代わって提出した場合、および依頼した場合
 - ④サイン名簿に記入された他人の氏名を消去した場合
 - ⑤サイン名簿の巡回を妨害した場合
 - ⑥その他、出席に関する不正行為を行った場合
- 出席に関する不正行為を行った場合は、以下の処分とし、学則に従い懲戒処分を科すこともあります。**
 - （1）当該授業を欠席扱いとする
 - （2）当該科目の定期試験の受験を認めない（本試験における成績評価は不合格とする）

7. 病気、事故等やむを得ない事情で欠席する場合は、原則、診断書を添付のうえ、所定の欠席届を事前に事務部教務課に提出してください。事前に手続きができない場合は登校後 7 日以内に提出してください。届出が提出されても出席扱いとはしませんが、成績評価の参考資料、学生指導上必要ですので必ず提出してください。
8. 交通機関の事故等により遅刻となった場合は、大学に到着後速やかに遅刻届を提出してください。遅刻届には証明書が必要ですので、駅で必ず遅延証明書を受け取ってください。ただし、JR 埼京線の遅延については、JR より大学へ直接連絡が入りますので、遅延証明書の提出は不要です。
9. 試験欠席の場合は、別掲の「試験」の規定に従ってください。
10. 忌引による欠席は出席すべき授業時間数に含まれません。忌引扱い日数は下表のとおりです。ただし、**実習については、忌引扱いはありません**。忌引で授業を欠席した場合は、所定の忌引届に証明となる書類を添えて、忌引扱いの終了する日から数えて 7 日以内に事務部教務課窓口に出提出してください。忌引による試験欠席については別掲の「試験」の規定に従ってください。

学生との関係	忌引扱い日数	備考
一親等（父、母、子）、配偶者	7 日	忌引扱い日数は、死亡日から起算した、日・祝日を含んだ連続の日数
二親等（祖父母、兄弟姉妹）	5 日	
三親等（伯父、叔父、伯母、叔母、曾祖父母）	3 日	

交通機関の不通と警報による休講

交通機関が事故等で不通になった場合や警報が発令された場合の授業・実習の取扱いについては、CAMPUS GUIDE を参照してください。

単位認定

単位は学修時間をもとに決められており、授業の方法および授業の教育効果などを考慮し、1 単位は 45 時間（講義の場合、授業 15 時間、予習 15 時間、復習 15 時間）の学修が基準となっています。

1. 1 つの授業科目につき、出席すべき授業時間数の 3 分の 2 以上の出席と 60 点 (C 評価) 以上の成績評価により、所定の単位を認定します。実習等は時間数が 3 分の 2 以上に引き上げられる場合があります。
2. 成績評価は、90 点以上を S、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C とし、60 点未満を D とします。60 点未満 (D 評価) は不合格とし、単位は認定されません。
3. 原則として認定された単位および成績は取り消すことはできません。

【2017 年度以前入学生】

在学中に、実用英語検定 2 級、TOEFL iBT®45 以上、TOEIC®500 以上のうち、いずれかを取得した場合には、「英語」の 2 単位を本学で修得した単位として認定します。成績評価はすべて 90 点 (S 評価) とします。

【2018 年度以降入学生】

在学中に、実用英語検定準 1 級、TOEFL iBT®72 以上、IELTS 5.5 以上、TOEIC® Listening & Reading Test 785 以上のうちいずれかを取得した場合には、「TOEIC 対策英語」の 2 単位を本学で修得した単位として認定します。成績評価はすべて 90 点 (S 評価) とします。

※いずれの場合も、既に認定された成績評価を変更することができます。該当者は合格証明書等を持参のうえ、事務部教務課窓口に出してください。

4. 進級・卒業判定の会議において進級または卒業が認められなかった者については、原級留置きとし、原則として当該年度の授業科目のすべてを未認定とします。（スポーツ医療学科救急救命士コースを除く）
5. 進級ならびに卒業判定に一切の例外はありません。

GPA 制度

GPA (Grade Point Average) 制度とは、学修の成果を客観的な数値で評価するものです。この制度は、米欧の大学で採用している成績評価制度に概ね準拠しています。

< GPA の算出方法 >

$$4.0 \times S \text{ の修得単位数} + 3.0 \times A \text{ の修得単位数} + 2.0 \times B \text{ の修得単位数} + 1.0 \times C \text{ の修得単位数}$$

総履修登録単位数（「不合格」の単位数を含む）

GPA スコアは 2.5 以上を確保することが望ましく、1.0 以下の者は退学勧告の対象となります。

試験の種類など

- 試験には主に次の種類があります。
 - (1) 定期本試験
 - (2) 中間試験
 - (3) 授業中に行う試験
- 定期本試験は原則として、前期または後期定期試験期間中に実施します。定期本試験の時間割・試験場は原則として**試験開始の2週間前**に掲示します。試験時間は原則として以下のとおりです。試験開始10分前には試験場に集合してください。

時 限	1	2	3	4
試 験 時 間	9:00～10:30	11:00～12:30	13:00～14:30	15:00～16:30

- 中間試験および授業中に行う試験は授業の進捗状況に応じて行うもので、実施については科目担当者の指示によります。
- 次のいずれかに該当する場合、受験を認めません。(成績評価の対象外となります。)
 - (1) 出席回数が、出席すべき授業時間数の**3分の2に満たない科目**。実習・演習等、実技を修得することが必要な科目については、基準が引き上げられる場合があります。
 - (2) 授業料その他必要な学費が**所定の期日までに未納である者**。
- 遅刻者は原則として受験を認めません。ただし、病気、事故その他やむを得ない事情により、**遅刻が試験開始後20分以内**であれば受験を認めます。その場合も原則として試験時間の延長は認めません。なお、遅刻した場合は、試験開始からの経過時間・理由にかかわらず大学到着後速やかに事務部教務課に来てください。

追試験と再試験

I. 試験欠席と追試験

- 病気、事故その他やむを得ない事情により定期本試験を受験できない場合は、午前8時30分以降、試験開始時刻までに電話で事務部教務課に連絡するとともに試験欠席届を提出してください。(試験開始時刻を過ぎた場合は可及的速やかに連絡をしてください。本人が連絡できない場合には家族からの連絡でも構いません。)届出は、**試験日を含む3日以内**に所定の試験欠席届に欠席事由を証明する書類を添付して事務部教務課へ提出してください。期限までに提出しない場合は、**受験を放棄したものとしなす**。提出できないやむを得ない事由がある場合は申し出てください。
- 欠席事由を証明する書類は、病気・事故の場合は診断書・事故証明書等、忌引の場合は会葬礼状・葬儀施行証明書等です。忌引のために試験を欠席した場合は、期限内に試験欠席届と忌引欠席届を一緒に提出してください。
- 所定の手続きを行い、試験欠席の事由がやむを得ない事情であると認められた者は、追試験を受験することができます。
- 追試験を受験する者は、指定された期間内に所定の試験願と証明書発行機による追試験料(1科目につき500円)の入金証明書を事務部教務課へ提出し、科目担当者の許可を得なければなりません。
- 追試験の最高点は90点です。なお、追試験の再試験は行いません。
- 中間試験については原則として追試験を行いません。ただし、科目担当者が必要と認めた場合はその限りではありません。

II. 再試験

- 本試験後の評価が不合格となった者に対しては、再試験を行うことがあります。
- 再試験を受験する者は、指定された期間内に所定の試験願と証明書発行機による再試験料(1科目につき2,000円)の入金証明書を事務部教務課へ提出し、科目担当者の許可を得なければなりません。なお、期間内に受験手続をしなかった者は**受験を放棄したものとしなす**。
- 再試験の最高点は60点です。なお、再試験の追試験は原則として行いません。
- 中間試験については原則として再試験を行いません。ただし、科目担当者が必要と認めた場合はその限りではありません。

受験上の注意

I. 受験における注意事項

1. 試験室においては監督者の指示に従ってください。監督者の指示に従わない者には退場を命ずることがあります。
2. 試験室においては座席表に従い着席してください。
3. 学生証は机上の指定された位置に置いてください。当日学生証を携帯していない者は事務部学生課に申し出て仮学生証の発行申請をしてください。**学生証または仮学生証のない者には受験を許可しません。**
4. 筆記用具（鉛筆・消しゴム）以外の参考書、ノート、メモ類と携帯電話は、試験開始前にカバンの中にしまってください。また、**携帯電話等は必ず電源を切っておいてください。**
5. 参考書、ノート類の持ち込みを許可された場合は、試験開始前にすべて指定された場所に置いてください。書き込み、複写物（コピー）等については、事前に科目担当者の指示に従ってください。
6. 試験開始後 30 分以内の退室は許可しません。また事情によって 30 分以上たっても許可しないことがあります。なお、退室許可以前に退室した場合は受験放棄したものとみなします。ただし、発病や突発事故等やむを得ない場合は監督者の指示に従ってください。
7. 答案は監督者の指示に従って提出し、提出後は速やかに退室してください。

II. 試験における不正行為およびその対処

1. 試験中の次のような行為は不正行為とみなされます。
 - (1) 試験監督者が許可していないものを使用した場合、または机上や机の中に置いたり所持していたりした場合。
 - (2) 受験者同士で私語をした場合、あるいは受験者同士で筆記用具を貸借した場合。
 - (3) 他人の答案を故意に覗いたり、また故意に他人に見せたりした場合。
 - (4) 回収の指示がある試験問題等を試験室外へ持ち出した場合、または内容を記録した場合。
 - (5) その他試験監督者の指示に従わない等、受験態度が不良であった場合。
2. 不正行為を行った者には次のように対処します。
 - (1) 即時受験を停止し、試験室から退室させる。
 - (2) 不正行為を行った場合は、不正行為を行った科目および当該年度中にすでに終了した試験の成績をすべて無効とすると同時に不正行為を行った時点以降当該年度中のすべての試験（追試験、再試験を含む）について受験停止とする。さらに学則および学部規程の定めにより、懲戒処分を行う。

レポート

担当教員の指示により、レポートを提出するときは、次の事項に注意してください。

1. レポート用紙のサイズは特に指定が無い場合は、各自判断してください。
2. 指示された受付期間内に必ず提出してください。受付期間前および締め切りに遅れたレポートは一切受け取れません。事務室前のレポート BOX に提出する場合は指定された BOX 番号を十分確認の上、投函してください。誤って提出しても取り出しは行いません。
3. 郵送および代理人提出は認められません。必ず本人が指定場所（窓口等）へ提出してください。
4. レポートは、必ず表紙をつけて学科、学年、学籍番号、氏名、科目名、担当教員名を記入し、ホチキス等で 1 冊に綴じてください。綴じていないもの、表紙のないものについては、受け取れません。
5. レポート内容の盗用・剽窃は不正行為であるので、処分を科すことがあります。

進級、卒業

各学科履修要項のページで確認してください。

在学年限

医学部および薬学部は12 年、医療技術学部は8 年とします。ただし、スポーツ医療学科救急救命士コースを除き、同一学年における在学年限を2年までとします。（2009年度以前入学生は3年。）

休学

1. 休学は事情により認められます。
2. 休学（3 か月以上欠席の場合）しようとする者は、所定の休学願を事務部教務課へ提出し、学長の許可を得なければなりません。休学願の提出期限は 12 月末日とします。
3. 病気その他やむを得ない事情で休学しようとする者は、所定の休学願に病気の場合は医師の診断書を、その他の場合は事由を明記した書類を添付してください。
4. 休学期間は、休学願が提出された学年末までの 1 年以内ですが、事情によっては 2 年以内まで認めることがあります。その場合は改めて関係書類を提出して願い出なくてはなりません。
5. 休学期間は在学期間に算入しません。ただし、12 月末日までに休学願を提出した場合に限ります。
6. 休学可能な年数は通算して 3 年ですが、連続して休学できるのは 2 年までです。
7. 休学中も指定された学費を納入する必要があります。

復学

1. 休学していた者が復学するときは、所定の復学願を 2 月中旬から 2 月末日までの間に事務部教務課へ提出し、学長の許可を得なければなりません。病気回復により復学する者は、「復学可能である」という医師の診断書を添付してください。
2. 復学した場合は復学した学年と同額の学費を納入する必要があります。

退学

1. 病気その他やむを得ない事由により退学しようとする者は、所定の退学願を事務部教務課に提出し、学長の承認を得なければなりません。退学願には学生証を添付してください。またロッカーの私物も持ち帰ってください。
2. 他の大学に転学しようとする場合は退学願を事務部教務課へ提出し、学長の承認を得た後、転学の手続きをしてください。
3. 退学を願い出る場合は、退学日までの学費を完納していなければなりません。

除籍

1. 以下のいずれかに該当する者は除籍となります。（スポーツ医療学科救急救命士コースは（2）は除く）
 - （1）学則第 17 条に定める在学年限を超えた者（医学部および薬学部 12 年、医療技術学部 8 年）
 - （2）同一学年の在学年数が 2 年を超えた者（2009 年以前入学生は 3 年を超えた者）
 - （3）長期にわたり行方不明の者
 - （4）授業料等を正当な事由なく期日内に納入せず、かつ督促を受けても納入しない者
2. 上記（4）による除籍後、長期にわたらないうちに事由が解消し、学業継続が可能になった者が復籍を願い出たときは許可されることがあります。復籍を希望する者は、学費を納入すると共に、復籍料 5,000 円を添えて所定の復籍願を事務部教務課に提出してください。

オフィスアワー

本学には、オフィスアワー制度が設けられています。オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんの授業履修・学業成績あるいは学生生活についての相談を受けながら、コミュニケーションを深め、アドバイスすることによって、より良い大学生活を送ってもらうために設けられた、授業以外の時間のことをいいます。相談時間については、別途掲示などで周知しますが、該当する時間であっても、出張や会議等の理由から教員が不在となる場合があります。

講義内資料

授業中に使用する資料の中には、様々な文献から引用した図表や日常の診療で経験した画像などが含まれます。これらの資料は、学生が勉学に利用することを目的としていますので、自らの勉学以外に不正に使用することや、どこかに置き忘れて学外者にわたるようなことがないように注意してください。

修得目標とカリキュラムマップ

「学科の修得目標」とは、教育課程を通じて学生が卒業するまでに身に付けるべき資質・能力を定めたものです。修得目標レベル1は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）にあたり、レベル2は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）をより具体的に設定しています。また、「全学の修得目標」は、建学の精神をもとに、本学の全学生が共通して身に付けるべき資質・能力を定めたものです。これらの修得目標と教育課程との関連を示したものがカリキュラムマップです。（2021年度入学生まではディプロマ・ポリシーと科目の関連を示しています。）各学科の履修要項のページに記載があります。

科目ナンバー

シラバスに記載の「科目ナンバー」は、体系的な学修のために、科目を分類したものです。

〈上4桁一下5桁〉の番号で、上4桁は0000固定です。下5桁の分類ルールは以下のとおりです。

学部		分野・課程		水準		連番
A	学部共通	1	基礎分野	1	学士課程1年レベル	01～99
B	視能矯正学科	2	専門基礎分野	2	学士課程2年レベル	
C	看護学科	3	専門分野	3	学士課程3年レベル	
D	診療放射線学科	4	共通専門分野	4	学士課程4年レベル	
E	臨床検査学科	5	保健師課程	5	修士・博士前期課程レベル	
F	スポーツ医療学科			6	博士・博士後期課程レベル	

国家試験

各々の学科を卒業すると、各々の国家試験の受験資格が取得できます。この国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けることによって、医師、薬剤師、視能訓練士、看護師、保健師、診療放射線技師、臨床検査技師、救急救命士になることができます。詳しくは各施行規則等を確認してください。

卒業する学部学科	取得できる国家試験受験資格	関連法令
医学部	医師	医師法 医師法施行規則
薬学部	薬剤師	薬剤師法 薬剤師法施行規則
医療技術学部 視能矯正学科	視能訓練士	視能訓練士法 視能訓練士法施行規則
医療技術学部 看護学科	看護師 保健師※1	保健師助産師看護師法 保健師助産師看護師法施行規則
医療技術学部 診療放射線学科	診療放射線技師	診療放射線技師法 診療放射線技師法施行規則
医療技術学部 臨床検査学科	臨床検査技師	臨床検査技師等に関する法律 臨床検査技師等に関する法律施行規則 臨床検査技師等に関する法律施行令
医療技術学部 スポーツ医療学科 救急救命士コース	救急救命士※2	救急救命士法 救急救命士法施行規則

※1 保健師国家試験受験資格は、看護学科において、卒業に必要な単位の他、保健師課程の単位を修得した場合に取得できます。

※2 救急救命士国家試験受験資格は、スポーツ医療学科救急救命士コースにおいて、救急救命士国家試験受験資格に必要な科目をすべて修得し、卒業要件単位を満たした場合に取得できます。

視能矯正学科履修要項

修得目標・カリキュラムマップ	視 2
主な学修内容	視 5
授業科目履修一覧表	視 6
進級および卒業について	視 8

修得目標 視能矯正学科

学科の修得目標			全学の修得目標	4要素	
レベル1	レベル2				
A	医療に関わる倫理学・心理学・医学の基礎的知識を説明できる	1	人文科学、社会科学、自然科学にわたる幅広い知識を理解した上で専門知識の学びを進めることができる	人文科学、社会科学、自然科学について幅広い関心と知識を有する	知識・理解
		2	視能訓練士の役割と倫理について説明できる	自律・自立して学修できる	態度・志向性
		3	人体の構造と機能、全身疾患の基礎的知識を説明できる		知識・理解
		4	患者の人権、個人情報保護、守秘義務の重要性を説明できる	修得した知識・技術で自分の力として行動し、その結果に責任を持つ	態度・志向性
		5	小児、高齢者、障害者、外国人の心理的特性を踏まえた対応を説明できる	多文化・異文化に関する知識をもって物事を判断することができる	知識・理解
		6	医療・社会的情報を適切に収集し、自己の適切な行動に活用できる	常に情報を収集し、それらを基に自分なりの考えを発信できる	汎用的技能
		7	患者の安全管理を確保し、インシデント、アクシデントについて説明できる	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理することで解決できる	汎用的技能
B	眼科に関わる基本的知識を説明できる	8	視覚器の構造について説明できる		知識・理解
		9	光学の知識を説明できる		知識・理解
		10	薬学の知識を説明できる		知識・理解
		11	視機能について説明できる		知識・理解
		12	眼疾患（全身疾患と関連するものを含む）について説明できる		知識・理解
		13	最新の眼科的知識を海外の文献から学び、説明できる	海外との交流を積極的に行う姿勢を有する	態度・志向性
C	眼科の検査知識を有し検査技術を実践できる	14	視力・屈折の検査技術を説明できる		知識・理解
		15	視野・色覚・光覚の検査技術を説明できる		知識・理解
		16	電気生理・画像診断の検査技術を説明できる		知識・理解
		17	眼科一般検査の検査技術を説明できる		知識・理解
		18	検査知識を基に検査を実践できる	獲得した資質・能力を総合的に活用し、自らが立てた課題にそれらを適用することで解決することができる	統合的な学習経験と創造的思考力
D	視能矯正・視能訓練、およびロービジョンケアの基本的知識を有し、検査技術を実践できる	19	弱視・斜視の基本知識を説明できる		知識・理解
		20	眼球運動の知識を説明できる		知識・理解
		21	両眼視機能の知識を説明できる		知識・理解
		22	視能矯正・視能訓練の知識および理論を基に訓練方針を説明できる		知識・理解
		23	視能障害のリハビリテーションを学びロービジョンの程度に合わせた説明や支援ができる	多様な情報を収集・分析して適正に判断し、効果的に活用できる	汎用的技能
		24	視能矯正の知識を基に検査を実践できる	獲得した資質・能力を総合的に活用し、自らが立てた課題にそれらを適用することで解決することができる	統合的な学習経験と創造的思考力
E	新しい社会に貢献できる能力を備えるとともに、チーム医療の一員として主体的に行動できる	25	国際社会に対応できるようグローバルな視点で視能に関する知識を取得し、説明できる	実社会の出来事について自ら学び、吸収することができる	汎用的技能
		26	患者、家族等と適切なコミュニケーションをとることができる	口頭・書面によるコミュニケーション・プレゼンテーションの能力を有する	汎用的技能
		27	医療スタッフ（多職種含む）と適切なコミュニケーションをとることができる	協働作業によって新たなものを構築することができる	態度・志向性
		28	チーム内の議論に加わり、自分の意見を主張できる	他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる	態度・志向性
		29	新しい社会に対応できるよう自分の得意分野を研鑽し、その知識を説明できる	自分の得意分野を見つけ、個性として昇華させることができる	態度・志向性

視能矯正

[illegible]

カリキュラムマップ

科目区分	科目名	必修・選択 等区分	配当 年次	【視能矯正学科2019年度～2021年度入学生】ディプロマ・ポリシー				
				1 医療に関わる倫理学・心理学・医学の基礎的知識を説明できる	2 眼科基本的検査技術を実践できる	3 視能矯正・視能訓練における基本的理論を説明できる	4 視能矯正・視能訓練の理論を素地とし、医師のもとに斜視・弱視の訓練治療ができる	5 ロービジョンのニーズに対応した基本的ケアができる
基礎分野	生命倫理	必修	1年	○				
	心理学	必修	1年	○				
	生命科学Ⅰ	必修	1年	○				
	生命科学Ⅱ	必修	1年	○				
	医療社会学	必修	1年	○				
	文章表現	必修	1年	○				
	ヒューマンコミュニケーション	必修	1年	○				
	情報科学	必修	1年	○				
専門科目	英語	必修	1年	○				
	基礎医学	必修	1年	○				
	視能心理学	必修	1年	○				
	心身発達学	必修	1年	○				
	視能解剖学	必修	1年		○			
	基礎光学	必修	1年		○			
	臨床医学Ⅰ（内科）	必修	1年	○				
	視能障害学Ⅰ（入門）	必修	1年		○			
	視能生理学（実習含む）	必修	2年		○			
	視能病理学	必修	2年		○			
	視能生理光学（実習含む）	必修	2年		○			
	視能薬理学（実習含む）	必修	2年		○			
	視覚生理学（実習含む）	必修	2年		○			
	神経眼科学	必修	2年		○			
	視能保健医療学	必修	2年	○				
	視能リハビリテーション学	必修	2年					○
	視覚光学理論	必修	2年		○			
	基礎視能矯正学Ⅰ（両眼視機能・眼球運動）	必修	2年			○		
	基礎視能矯正学Ⅱ（斜視総論）	必修	2年			○		
	基礎視能矯正学Ⅲ（弱視・視機能）	必修	2年			○		
	視能障害学Ⅱ（外眼）	必修	2年		○			
	視能障害学Ⅲ（内眼）	必修	2年		○			
	臨床医学Ⅱ（内科系）	必修	3年	○				
	臨床医学Ⅲ（外科系）	必修	3年	○				
	社会医療学	必修	3年	○				○
	視能検査学Ⅰ（眼科検査Ⅰ）	必修	3年		○			
	視能検査学Ⅱ（眼科検査Ⅱ）	必修	3年		○			
	視能検査学Ⅲ（屈折矯正）	必修	3年		○			
	視能検査学実習	必修	3年				○	
	視能訓練学Ⅰ（眼底検査・斜視検査）	必修	3年		○			
	視能訓練学Ⅱ（斜視診断・治療）	必修	3年			○		
	視能訓練学Ⅲ（視能矯正）	必修	3年			○		
	視能訓練学Ⅳ（臨床講義）	必修	3年			○		
	視能訓練学特講	必修	4年				○	
	総合実習Ⅰ	必修	4年				○	
	総合実習Ⅱ	必修	4年				○	
	臨床実習	必修	4年				○	
基礎分野	医療統計学	選択	1年	○				
	ヘルスケアエデュケーション	選択	1年	○				
	社会と医療	選択	1年	○				
	医療とボランティア	選択	1年	○				
	医療経済学	選択	1年	○				
	基礎医療法学	選択	1年	○				
	健康スポーツ	選択	1年	○				
	日本国憲法	選択	1年	○				
	TOEIC対策英語	選択	1年	○				
	生命と物質のサイエンス	選択	1年	○				
	チーム医療論	選択	1年	○				
	医療界のワーク・ライフ学	選択	1年	○				
	コンタクトレンズの基礎	選択	1年	○				
	医療数理科学入門	選択	1年	○				
	地域健康管理学入門	選択	1年	○				
	新薬発見のケーススタディー	選択	1年	○				
	災害からの復活と公衆衛生	選択	1年	○				
	夢の薬物送達システム（DDS）	選択	1年	○				
	世界に羽ばたく医療人	選択	1年	○				
	グラフィック基礎	選択	1年	○				
	アカデミック・イングリッシュ	選択	1年	○				
	イングリッシュ・コミュニケーション	選択	1年	○				
	ヘルス・コミュニケーション	選択	1年	○				
	多文化社会論	選択	1年	○				
	音楽	選択	1年	○				
	研究倫理	選択	1年	○				
	フレホスピタルケア概論	選択	1年	○				

※2018年度以前入学者は、入学時に配付された履修要項に記載のカリキュラムマップで、ディプロマ・ポリシーと科目との関連を確認してください。

主な学修内容

1) 1 学年

今までの受動的学習であった意識を能動的学習に換え、大学生としての自覚を高めること。基礎分野では、科学的思考力を高め国際化情報化社会への対応を学ぶ。医療従事者としての倫理観を養い、人権と生命の尊厳を理解し、教養を身に付け人間性を高める。このために、「生命倫理」「生命科学Ⅰ・Ⅱ」「心理学」「文章表現」「医療社会学」「ヒューマンコミュニケーション」「情報科学」「英語」が必修であるほか、選択できる授業が用意される。専門基礎分野では、医療従事者に必要な医学・医療の概念と基礎を学ぶ。正常な身体についての総合的把握とともに、疾病と障害のメカニズムに関する臨床医学の重要事項を学び、視能訓練士の立場としての観点を養う。これらの「基礎医学」「臨床医学Ⅰ」「心身発達学」のほか「視能心理学」「視能解剖学」「視能障害学Ⅰ」「基礎光学」によって、2 学年へ向けて基礎固めを図る。

2) 2 学年

視能矯正学の講義には「視能保健医療学」「視能障害学Ⅱ・Ⅲ」「視能リハビリテーション学」「神経眼科学」「視能病理学」「視覚光学理論」があり、疾病と障害を理解し保健医療福祉と視機能障害のリハビリテーションの理念を学ぶ。また、「視能生理学」「視能生理光学」「視能薬理学」「視覚生理学」「基礎視能矯正学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、検査機器を知り専門分野の科目を学ぶ基礎とする。これらの座学・実習を通して、視機能のメカニズム・光学の理論をふまえ、知識と視能矯正の基礎技術を結びつけて学修を進めていく。

2 学年で学ぶ科目は、基本的に視能訓練士国家試験の出題範囲である。毎回の講義の内容を確実に理解し、身につける習慣が大切である。

3) 3 学年

専門基礎分野では、疾病と障害に対する一層の理解のために「臨床医学Ⅱ・Ⅲ」、視能訓練士法を含む臨床の場の心構えとして「社会医療学」を学ぶ。

専門分野の「視能検査学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「視能訓練学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「視能検査学実習」は、視能訓練士の技術・理論・実践の中核領域である。これらにより、眼科検査の理解、疾患とのかかわり、視能矯正プランの立案、訓練プログラムの実施、効果判定といった一連の過程を学ぶ。すなわち、知識・手技を深め、医療の現場に対応する観察力・応用力の習得を目指す。

4) 4 学年

視能訓練学特講と学内実習、学外実習から成り立つ。「視能訓練学特講」は、視能訓練士として必要な知識および技能の習得を目指してこれまで教育してきたことを総括して学修する。視能訓練士国家試験合格を目標として準備する。

「総合実習Ⅰ」は学内で、「総合実習Ⅱ」「臨床実習」は学外で、医療人としての常識、チーム医療、眼科一般検査、視能矯正全般を学ぶ。

授業科目履修一覧表 (2016年度以降入学生)

第1学年

	授業科目名	単位数	科目責任者	履修方法
基礎分野 (必修)	生命倫理	2	沖 永 隆 子	9科目17単位必修
	心理学	2	田 代 信 久	
	生命科学Ⅰ	2	佐 藤 一 朗	
	生命科学Ⅱ	2	佐 藤 一 朗	
	医療社会学	2	大 滝 恭 弘	
	文章表現	2	林 弘 美	
	ヒューマンコミュニケーション	2	林 弘 美	
	情報科学	1	難 波 純 也	
	英語	2	齋 藤 智 恵	
基礎分野 (選択)	医療統計学	2	鈴 木 明 日 香	2科目4単位以上を選択
	医療とボランティア	2	西 原 三 佳	
	健康スポーツ	1	中村雅年・津坂佳代	
	社会と医療	2	皆 吉 淳 平	
	医療経済学	2	岩 崎 淳	
	基礎医療法学	2	大 滝 恭 弘	
	日本国憲法	2	大 滝 恭 弘	
	ヘルスケアエデュケーション	2	高 柳 妙 子	
	TOEIC対策英語	2	西 本 公 一	
	生命と物質のサイエンス	2	大 胡 恵 樹	
	※6 チーム医療論	1	楯 直 子	
	※5 医療界のワーク・ライフ学	1	大 久 保 由 美 子	
	コンタクトレンズの基礎	1	佐 々 木 翔	
	※3 医療数理科学入門	2	森 川 馨	
	地域健康管理学入門	2	渡 邊 清 高	
	新薬発見のケーススタディー	1	青 山 晃 治	
	災害からの復活と公衆衛生	2	加 藤 美 生	
	※2 グラフィック基礎	2	恵 晋 一	
	※4 夢の薬物送達システム(DDS)	1	丸 山 一 雄	
	世界に羽ばたく医療人	2	河 内 正 治	
	※2 アカデミック・イングリッシュ	2	山 村 朋 子	
	※2 イングリッシュ・コミュニケーション	2	齋 藤 智 恵	
	※2 ヘルス・コミュニケーション	2	橋 本 章 子	
	※1 多文化社会論	2	齋 藤 智 恵	
	非 開 講	健康づくり演習	2	2015～2016年度入学生向け
		医療数理科学入門Ⅱ	2	2015～2016年度入学生向け
		くすりを理解するための有機化学	2	2015～2018年度入学生向け
		英語演習	2	2016～2018年度入学生向け
		研究倫理	2	—
		音楽	2	—
		プレホスピタルケア概論	1	—
専門基礎 分野 (必修)	基礎医学	2	医 学 部 教 員 等	6科目12単位必修
	視能心理学	2	渡 部 維	
	心身発達学	2	橋 本 章 子	
	視能解剖学	2	金 子 博 行	
	基礎光学	2	小 林 克 彦	
	臨床医学Ⅰ(内科)	2	塚 本 和 久	
専門分野	視能障害学Ⅰ(入門)	2	金 子 博 行	1科目2単位必修
第1学年履修単位数合計				35単位

※1 2019年度入学生より ※2 2017年度入学生より ※3 2016年度入学生までは「医療数理科学入門Ⅰ」 ※4 2018年度入学生までは「夢のDDS」
 ※5 2018年度入学生までは「医療界の男女共同参画社会の構築とキャリアデザイン」 ※6 2018年度以前に修得した場合は2単位

授業科目履修一覧表 (2016年度以降入学生)

第2学年

	授業科目名	単位数	科目責任者	履修方法
専門基礎分野	視能生理学(実習含む)	3	大 鹿 京 子	9科目22単位必修
	視能病理学	2	小 林 義 治	
	視能生理光学(実習含む)	3	三 橋 俊 文	
	視能薬理学(実習含む)	3	大 鹿 京 子	
	視覚生理学(実習含む)	3	松 岡 久 美 子	
	神経眼科学	2	木 田 淳 子	
	視能保健医療学	2	木 田 淳 子	
	視能リハビリテーション学	2	林 弘 美	
	視覚光学理論	2	三 橋 俊 文	
専門分野	基礎視能矯正学Ⅰ (両眼視機能・眼球運動)	4	渡 部 維	5科目16単位必修
	基礎視能矯正学Ⅱ(斜視総論)	4	林 孝 雄	
	基礎視能矯正学Ⅲ(弱視・視機能)	4	池 田 結 佳	
	視能障害学Ⅱ(外眼)	2	林 孝 雄	
	視能障害学Ⅲ(内眼)	2	木 田 淳 子	
第2学年履修単位数合計				38単位

第3学年

	授業科目名	単位数	科目責任者	履修方法
専門基礎分野	臨床医学Ⅱ(内科系)	2	三 牧 正 和	3科目5単位必修
	臨床医学Ⅲ(外科系)	2	川 村 雅 文	
	社会医療学	1	臼 井 千 恵	
専門分野	視能検査学Ⅰ(眼科検査Ⅰ)	2	松 岡 久 美 子	8科目28単位必修
	視能検査学Ⅱ(眼科検査Ⅱ)	4	臼 井 千 恵	
	視能検査学Ⅲ(屈折矯正)	4	三 橋 俊 文	
	視能検査学実習	2	松 岡 久 美 子	
	視能訓練学Ⅰ(眼底検査・斜視検査)	4	小 林 義 治	
	視能訓練学Ⅱ(斜視診断・治療)	4	林 孝 雄	
	視能訓練学Ⅲ(視能矯正)	4	松 岡 久 美 子	
	視能訓練学Ⅳ(臨床講義)	4	池田結佳・林孝雄	
第3学年履修単位数合計				33単位

第4学年

	授業科目名	単位数	科目責任者	履修方法
専門分野	視能訓練学特講	4	小林義治・金子博行	4科目18単位必修
	総合実習Ⅰ	2	松 岡 久 美 子	
	総合実習Ⅱ	2	松 岡 久 美 子	
	臨床実習	10	松 岡 久 美 子	
第4学年履修単位数合計				18単位

卒業に必要な修得単位数合計				124単位
---------------	--	--	--	-------

進級および卒業について

進 級

1. 進級の判定は、学年末に開かれる会議において行われる。
2. 2 学年への進級要件は、1 年次の基礎分野の必修科目 17 単位および選択科目 4 単位以上、専門基礎分野の必修科目 12 単位、専門分野の必修科目 2 単位、合計 35 単位以上を修得していること。
3. 3 学年への進級要件は、2 年次の専門基礎分野の必修科目 22 単位、専門分野の必修科目 16 単位、合計 38 単位（1 年次、2 年次合計 73 単位以上）を修得していること。
4. 4 学年への進級要件は、3 年次の専門基礎分野の必修科目 5 単位、専門分野の 28 単位、合計 33 単位（1 年次、2 年次、3 年次合計 106 単位以上）を修得していること。

卒 業

1. 4 年以上在学し、卒業に必要な単位を修得することにより、学年末に開かれる教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学士(視能矯正学)の学位が授与される。
2. 卒業要件は、基礎分野の必修科目 17 単位および選択科目 4 単位以上、合計 21 単位以上、専門基礎分野の必修科目 39 単位、専門分野の必修科目 64 単位、総合計 124 単位以上を修得していること。

看護学科履修要項

〔2022 年度入学生〕

修得目標・カリキュラムマップ	看 2
主な学修内容	看 5
授業科目履修一覧表	看 6
進級および卒業について	看 9
実習に関する先修要件および取り決め事項	看 10
保健師国家試験受験資格について	看 10
第一種衛生管理者免許について	看 11

修得目標 看護学科

学科の修得目標		全学の修得目標	4要素	
レベル1	レベル2			
A	人間を総合的にとらえ、人々の健康と生活の質および倫理に関する知識を概説できる	1 文化的・社会的存在である人間について、自らの考えを述べることができる	人文科学、社会科学、自然科学について幅広い関心と知識を有する	知識・理解
		2 生物学的存在としての人間の正常な構造と機能を説明できる		知識・理解
		3 人間の心身の変調とそれに伴う心身の反応を説明できる		知識・理解
		4 人間の成長と発達段階の特徴、発達段階に応じた生活の特徴を説明できる		知識・理解
		5 人間の生活と健康との関連について理解し、説明できる		知識・理解
		6 人間の尊厳および人権の意味を理解し、擁護に向けた行動について説明できる	修得した知識・技術で自分の力として行動し、その結果に責任を持つ	態度・志向性
B	看護学並びに看護実践に関わる基本的な知識や技術を説明・実践できる	7 多様な価値観・信条や生活背景を持つ人と関わって対象者の理解に努め、多様なライフスタイルについて説明できる	多文化・異文化に関する知識をもって物事を判断することができる	知識・理解
		8 健康破綻をきたす疾患・外傷による病態をアセスメントし、基本的な看護援助方法が実施できる	多様な情報を収集・分析して適正に判断し、効果的に活用できる	汎用的技能
		9 看護の実施にあたり、看護の根拠（エビデンス）と方法について、人々に合わせた説明や支援ができる	多様な情報を収集・分析して適正に判断し、効果的に活用できる	汎用的技能
		10 看護の対象となる人々（個人・家族・集団・地域）との信頼関係の形成に必要なコミュニケーションを展開できる	修得した知識・技術で自分の力として行動し、その結果に責任を持つ	態度・志向性
		11 医療事故防止対策および感染防止対策について理解し、医療事故発生時の対応および予防策について説明できる	多様な情報を収集・分析して適正に判断し、効果的に活用できる	汎用的技能
		12 療養場所を移行する人と家族の存在を理解したうえで、ケアのあり方について考察し、説明できる	実社会の出来事について自ら学び、吸収することができる	汎用的技能
C	科学的根拠に基づいてヘルスニーズを総合的に判断し、看護実践ができる	13 根拠に基づいた看護を提供するための理論的知識や先行研究の成果を探索し、看護実践への活用について説明できる	多様な情報を収集・分析して適正に判断し、効果的に活用できる	汎用的技能
		14 個人および家族の生活を把握し、健康状態との関連をアセスメントできる	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理することで解決できる	汎用的技能
		15 実習で受け持つ対象者の課題に合わせ、看護計画を立案し、実施することができる	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理することで解決できる	汎用的技能
		16 実施した看護実践を評価し、記録できる	常に情報を収集し、それらを基に自分なりの考えを発信できる	汎用的技能
		17 行動変容を促す看護援助技術などを理解し、指導のもとで実施できる	修得した知識・技術で自分の力として行動し、その結果に責任を持つ	態度・志向性
D	主体的に多職種との連携・協力・調整に取り組むことができる	18 地域で生活しながら療養する人とその家族の健康状態や特性について理解し、在宅療養の環境を踏まえてアセスメントできる	常に情報を収集し、それらを基に自分なりの考えを発信できる	汎用的技能
		19 保健医療福祉における看護サービスを提供する仕組み、看護の機能と看護活動のあり方について説明できる	口頭・書面によるコミュニケーション・プレゼンテーションの能力を有する	汎用的技能
		20 チーム医療における看護および他職種の役割を理解し、対象者を中心とした連携と協働のあり方について説明できる	協働作業によって新たなものを構築することができる	態度・志向性
		21 地域包括ケアを推進する必要性を理解し、地域包括ケアの中の看護の役割と機能について説明できる	他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる	態度・志向性
E	新しい社会に貢献しようように、自己管理能力を備えと共に自己研鑽することができる	22 グローバリゼーション・国際化、疾病構造の変遷、疾病対策、保険医療福祉対策の動向における看護のあり方について説明できる	海外との交流を積極的に行う姿勢を有する	態度・志向性
		23 看護の質向上に向け、看護の専門性を発展させていく重要性について説明できる	自分の得意分野を見つけ、個性として昇華させることができる	態度・志向性
		24 自己の看護を振り返り、自己の課題を明確にして取り組み内容を記述できる	獲得した資質・能力を総合的に活用し、自らが立てた課題にそれらを適用することで解決することができる	統合的な学習経験と創造的思考力
		25 専門職として生涯にわたり学習し続け成長していくために、自己を評価し管理していく重要性について説明できる	自律・自立して学修できる	態度・志向性

カリキュラムマップ

科目区分	科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【看護学科2022年度入学生】修得目標（レベル1：A～E／レベル2：1～25）																								
				A					B					C					D					E				
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
基礎分野	医療社会学	必修	1年					○																				
	ヒューマンコミュニケーション	必修	1年																									
	情報科学	必修	1年					○																				
	英語	必修	1年	○																								
	化学	必修	1年		○																							
	生命科学	必修	1年		○																							
	労働関係法令Ⅰ	選択	4年																	○								
	労働関係法令Ⅱ	選択	4年																	○								
	国際事情Ⅰ	自由	1年	○																								
国際事情Ⅱ	自由	1年	○																									
専門科目	解剖学	必修	1年		○																							
	生理学	必修	1年		○																							
	生化学	必修	1年		○																							
	微生物学	必修	1年		○																							
	薬理学	必修	2年					○																				
	病理学	必修	1年				○																					
	疾病治療論Ⅰ（小児）	必修	2年		○	○					○																	
	疾病治療論Ⅱ（内科系）	必修	2年				○				○																	
	疾病治療論Ⅲ（外科系）	必修	2年				○				○																	
	疾病治療論Ⅳ（精神医学）	必修	2年		○	○					○																	
	疾病治療論Ⅴ（産婦人科学）	必修	2年		○	○					○																	
	疾病と看護Ⅰ	必修	2年		○	○	○	○	○	○	○	○																
	疾病と看護Ⅱ	必修	3年		○	○	○	○	○	○	○	○																
	画像診断学	選択	4年			○					○																	
	リハビリテーション学	選択	4年			○																						
	ストレス論	必修	1年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○													
	生涯発達心理学	選択	1年				○																					
	公衆衛生学	必修	2年						○	○																		
	保健医療情報学	必修	3年						○																			
	臨床栄養学	選択	2年		○	○					○												○					
	看護学概論Ⅰ	必修	1年	○	○	○	○	○	○												○	○	○					
	看護学概論Ⅱ	必修	1年							○		○	○	○	○													
	看護援助論Ⅰ	必修	1年		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○													
	看護援助論Ⅱ	必修	1年		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○													
	看護援助論Ⅲ	必修	2年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○										
	看護過程論	必修	2年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○										
	生活の場と看護	必修	1年	○			○	○		○																		
	在宅看護概論	必修	2年												○													
	在宅看護援助論Ⅰ	必修	2年												○		○						○					
	在宅看護援助論Ⅱ	必修	3年													○		○			○							
	地域看護学概論	必修	2年	○				○		○						○		○				○	○	○	○			
	地域看護援助論	必修	3年										○			○		○			○	○	○	○	○			
	公衆衛生看護展開論	選択	3年								○			○			○	○				○	○	○	○			
	保健福祉行政論（基礎）	必修	2年	○				○	○												○		○	○	○			
	公衆衛生看護管理論	選択	4年										○								○		○	○		○		
	疫学・保健統計学	選択	3年					○								○								○		○		
	学校・産業保健	選択	2年				○	○	○				○															
	精神看護学概論	必修	2年	○		○	○	○		○					○													
	精神看護援助論Ⅰ	必修	2年	○						○	○		○		○	○	○											
	精神看護援助論Ⅱ	必修	3年	○							○	○	○	○	○	○	○	○										
	母性看護学概論	必修	2年	○	○		○	○	○	○						○												
	母性看護援助論Ⅰ	必修	2年				○	○								○		○										
	母性看護援助論Ⅱ	必修	3年				○	○								○		○										
	小児看護学概論	必修	2年				○		○		○			○														
	小児看護援助論Ⅰ	必修	2年								○	○						○										
	小児看護援助論Ⅱ	必修	3年								○						○	○										
	成人看護学急性期概論	必修	2年	○	○	○	○	○	○	○					○		○							○				
	成人看護急性期援助論Ⅰ	必修	2年	○	○	○	○	○	○							○		○					○					
	成人看護急性期援助論Ⅱ	必修	3年	○	○	○	○	○			○	○		○		○	○	○	○			○						
	成人看護学慢性期概論	必修	2年				○	○	○						○													
成人看護慢性期援助論Ⅰ	必修	2年								○	○	○			○		○											
成人看護慢性期援助論Ⅱ	必修	3年								○	○	○	○	○	○	○	○	○										
高齢者看護学概論	必修	2年							○					○														
高齢者看護援助論Ⅰ	必修	2年															○											
高齢者看護援助論Ⅱ	必修	3年																○										
家族看護論	必修	1年							○			○				○	○											
がん看護	必修	3年									○				○	○	○											
感染看護	選択	4年										○																
創傷看護	選択	3年		○	○					○	○					○												
エンドオブライフケア	選択	4年	○					○																				
看護管理学	必修	4年						○					○								○	○	○	○	○	○		
リーダーシップ論	選択	4年																		○								
グローバル看護	選択	1年	○				○	○	○														○		○			
看護教育学	選択	4年	○			○		○																○	○	○		
災害看護	選択	4年																		○								
ライフデザイン演習Ⅰ	必修	1年										○														○		
ライフデザイン演習Ⅱ	必修	2年	○									○																
ライフデザイン演習Ⅲ	必修	3年	○				○	○	○			○																

カリキュラムマップ

科目区分	科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【看護学科2022年度入学生】修得目標（レベル1：A～E／レベル2：1～25）																								
				A					B					C					D					E				
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
専門科目	基礎看護学実習Ⅰ	必修	1年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○													○	
	基礎看護学実習Ⅱ	必修	2年							○	○	○	○	○	○	○	○	○			○					○	○	
	精神看護学実習	必修	3年	○											○	○	○	○	○	○	○							
	母性看護学実習	必修	3年							○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○				○		
	小児看護学実習	必修	3年									○			○	○	○	○			○	○	○					
	成人看護学急性期実習	必修	3年							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○				○		
	成人看護学慢性期実習	必修	3年						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○				○			
	高齢者看護学実習	必修	3年									○				○	○	○				○						
	地域・在宅看護学実習	必修	3年													○		○		○			○					
	看護の統合と実践実習	必修	4年																			○			○	○	○	
	公衆衛生看護学動論Ⅰ	選択	4年												○	○				○								
	公衆衛生看護学動論Ⅱ	選択	4年												○	○			○	○								
	保健福祉行政論（実践）	選択	4年																	○	○	○	○					
	公衆衛生看護学実習	選択	4年															○	○	○	○	○	○					
	産業看護学実習	選択	4年												○	○		○	○	○								

科目区分	科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【1年共通科目2022年度入学生】修得目標 レベル 1：A～E／レベル 2：1～2 5																								
				A					B					C					D					E				
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
基礎分野	チーム医療論	選択	1年	○																	○							
	コンタクトレンズの基礎	選択	1年	○																								
	新薬発見のケーススタディー	選択	1年	○																								
	医療界のワーク・ライフ学	選択	1年	○																								
	夢の薬物送達システム（DDS）	選択	1年	○																								
	医療統計学	選択	1年	○																								
	ヘルスクエアエデュケーション	選択	1年	○																								
	社会と医療	選択	1年	○																								
	医療とボランティア	選択	1年	○																								
	医療経済学	選択	1年	○																								
	基礎医療法学	選択	1年	○																								
	生命と物質のサイエンス	選択	1年	○																								
	地域健康管理学入門	選択	1年	○																								
	災害からの復活と公衆衛生	選択	1年	○																								
	世界に羽ばたく医療人	選択	1年	○																				○				
	TOEIC対策英語	選択	1年	○																								
	ヘルス・コミュニケーション	選択	1年	○																								
	医療数理科学入門	選択	1年	○																								
	グラフィック基礎	選択	1年	○																								
	アカデミック・イングリッシュ	選択	1年	○																				○				
	イングリッシュ・コミュニケーション	選択	1年	○																				○				
	多文化社会論	選択	1年	○																								
	日本国憲法	選択	1年	○																								
	医療心理学	選択	1年	○																								
	臨床心理学	選択	1年	○																								
	スポーツ	選択	1年	○																								

主な学修内容

1) 1 学年

看護の対象となる人間や人間を取り巻く環境等について多様な学問分野の視点から学び、人間のさまざまな営みについて洞察できる幅広い教養を身につけます。また、「看護学概論Ⅰ・Ⅱ」「看護援助論Ⅰ・Ⅱ」では看護の基本を学び、「基礎看護学実習Ⅰ」で体験する臨床場面を通し、看護職として必要な態度や技術を理解するとともに、将来へつなげます。「ヒューマンコミュニケーション」「ライフデザイン演習Ⅰ」では人間関係構築を目指したコミュニケーションスキルを学び、少人数のグループに分かれて自己理解・他者理解をはじめ、大学生として必須な学習技術や倫理的視点を養います。さらにこの科目は学生の学習支援システムとしても機能します。

2) 2 学年

看護職に必要な、さらなる基礎的知識を得るため「薬理学」「疾病治療論Ⅰ～Ⅴ」「疾病と看護Ⅰ」などの専門基礎分野の科目を履修します。また、精神・小児・母性・成人・高齢者・地域に関する看護の専門分野の学習を幅広く行います。授業形態は講義・演習・見学など多様な形態で、さまざまな発達・健康段階にある対象者や生活の場の違う対象者の理解と、その人たちの看護に関する知識・技術を学びます。8月～9月には「基礎看護学実習Ⅱ」が組まれ、臨地での看護実践を通して看護職に求められる知識・技能・態度について考えます。

3) 3 学年

2年次に引き続き、看護の専門分野の学習を進め、さまざまな発達段階、健康段階や生活の場の違う対象者に対する看護のあり方や専門性を追求します。加えて前期には「看護研究方法論」が組まれ、看護の対象を科学的にとらえるための論理的思考を含む基礎的能力を養います。後期からは、長期にわたる実習が組まれており、多様な場で看護を体験しながら、看護実践能力の習得をめざします。また、実習を通してコミュニケーション能力や人間性も磨きます。

4) 4 学年

最終的に「看護の統合と実践実習」で今まで積み上げてきた知識・技能・態度の統合を行い、さらに看護実践能力を高めます。後期は「看護管理学」「看護教育学」「感染看護」「エンドオブライフケア」「災害看護」などの看護特論科目が多く組まれ、最新の看護に関する知識はもとより、多職種チーム内での指導力と調整力を発揮するために必要となる知識・技能・態度を各々の関心に沿って探求します。「ライフデザイン演習Ⅳ」では少人数のグループに分かれ、社会人として必要な知識や態度を育成し、キャリア発達・プランについても考えます。

5) 保健師課程

保健師課程は、保健師になるために必要な知識と技術が得られるように構築しています。

地域看護学分野の科目で得た知識・技能・態度を基盤として、地域で生活する人びとを支援するためにその健康状態を的確に判断し、個人・家族・集団・地域を単位とした看護方法の選択を適切に行うための公衆衛生看護学に必要な専門的な知識・技能・態度を4年次前期に習得します。その後、地域のヘルスケアシステムの中で、多機関・多職種と連携し、住民と協働して地域の健康問題を解決できる実践力を養うために、「公衆衛生看護学実習」において知識・技能・態度を統合して、個人・家族・集団・地域を対象とした公衆衛生看護を展開します。

保健師課程は、保健師国家試験受験資格を得るための必修となっており、履修するためには「保健師課程の履修条件」(看10～11)を満たしていなければなりません。

授業科目履修一覧表(2022年度入学生)

分類	授業科目名	配当 年次	単位数又は 時間数			科目担当責任者	履修方法
			必修	選択	自由		
基 礎 分 野	人 間 科 目 群	医療社会学	1	2		大 滝 恭 弘	必修4単位 ＋ 選択4単位以上
		ヒューマンコミュニケーション	1	2		三木祐子・黒白恵子	
		医療界のワーク・ライフ学	1		1	大 久 保 由 美 子	
		ヘルスケアエデュケーション	1		2	高 柳 妙 子	
		社会と医療	1		2	皆 吉 淳 平	
		医療経済学	1		2	岩 崎 淳	
		基礎医療法学	1		2	大 滝 恭 弘	
		世界に羽ばたく医療人	1		2	河 内 正 治	
		ヘルス・コミュニケーション	1		2	橋 本 章 子	
		多文化社会論	1		2	齋 藤 智 恵	
		◇ 日本国憲法	1		2	大 滝 恭 弘	
		医療心理学	1		2	田 代 信 久	
		臨床心理学	1		2	田 代 信 久	
		労働関係法令Ⅰ	4		2	福田吉治・渋谷克彦	
		労働関係法令Ⅱ	4		2	福田吉治・津田洋子	
	環 境 科 目 群	情報科学	1	2		池田徳正・難波純也・中村肇	必修6単位 ＋ 選択2単位以上
		化学	1	2		渡 部 正 彦	
		生命科学	1	2		渡 部 正 彦	
		チーム医療論	1		1	楯 直 子	
		コンタクトレンズの基礎	1		1	佐 々 木 翔	
		新薬発見のケーススタディー	1		1	青 山 晃 治	
		夢の薬物送達システム（DDS）	1		1	丸 山 一 雄	
		医療統計学	1		2	鈴 木 明 日 香	
		医療とボランティア	1		2	西 原 三 佳	
		生命と物質のサイエンス	1		2	大 胡 恵 樹	
		地域健康管理学入門	1		2	渡 邊 清 高	
		災害からの復活と公衆衛生	1		2	加 藤 美 生	
		医療数理科学入門	1		2	森 川 馨	
		グラフィック基礎	1		2	恵 晋 一	
		◇ スポーツ	1		2	中村雅年・津坂佳代	
	外 国 語 科 目 群	英語	1	2		齋 藤 智 恵	必修2単位
		TOEIC対策英語	1		2	西 本 公 一	
		アカデミック・イングリッシュ	1		2	山 村 朋 子	
		イングリッシュ・コミュニケーション	1		2	齋 藤 智 恵	
		国際事情Ⅰ	1		2	海 外 語 学 研 修	
		国際事情Ⅱ	1		2	海 外 語 学 研 修	

◇は、保健師課程履修者においては必修科目とする。

国際事情Ⅰ・国際事情Ⅱについて

春期休暇や夏期休暇に実施する2週間～3週間のホリデー留学に参加し、所定の成績を修めた者には、単位が付与されます。留学についてはその都度、掲示などでお知らせします。2週間の場合は2単位、3週間以上の場合は4単位が認定されます。（国際事情Ⅰ 2単位、国際事情Ⅱ 2単位）

授業科目履修一覧表(2022年度入学生)

分類	授業科目名	配当年次	単位数又は時間数			科目担当責任者	履修方法
			必修	選択	自由		
専門基礎分野	ヒトの構造・機能と疾病	解剖学	1	2		田中秀幸	必修20単位 ＋ 選択1単位以上
		生理学	1	2		長井孝紀	
		生化学	1	2		藤原優子	
		微生物学	1	1		吉野友祐	
		薬理学	2	2		田村淳	
		病理学	1	1		望月真	
		疾病治療論Ⅰ（小児）	2	1		三牧正和	
		疾病治療論Ⅱ（内科系）	2	2		塚本和久	
		疾病治療論Ⅲ（外科系）	2	1		川村雅文	
		疾病治療論Ⅳ（精神医学）	2	1		功刀浩	
		疾病治療論Ⅴ（産婦人科学）	2	1		綾部琢哉	
		疾病と看護Ⅰ	2	2		石見和世・角田こずえ	
		疾病と看護Ⅱ	3	2		古屋洋子・伊藤文子	
		画像診断学	4		1	藤原政雄	
		リハビリテーション学	4		1	緒方直史	
	生活者の健康	ストレス論	1	1		伊藤文子・松澤和正	必修3単位 ＋ 選択1単位以上
		生涯発達心理学	1		1	栗田明子	
		公衆衛生学	2	1		濱島ちさと	
		保健医療情報学	3	1		加藤美生	
		臨床栄養学	2		1	後田ひろ	
専門分野	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	2		新井直子	必修42単位 ＋ 選択2単位以上
		看護学概論Ⅱ	1	2		新井直子	
		看護援助論Ⅰ	1	1		斉藤倫代	
		看護援助論Ⅱ	1	2		斉藤倫代・清水典子	
		看護援助論Ⅲ	2	2		新井直子	
		看護過程論	2	2		新井直子・斉藤倫代	
	地域看護学	生活の場と看護	1	1		遠藤寛子・山岸貴子	
		在宅看護概論	2	1		遠藤寛子	
		在宅看護援助論Ⅰ	2	1		遠藤寛子	
		在宅看護援助論Ⅱ	3	1		甲州優	
		地域看護学概論	2	2		山崎恭子	
		地域看護援助論	3	1		山崎恭子・山岸貴子	
		◇ 公衆衛生看護展開論	3		2	山崎恭子	
		保健福祉行政論（基礎）	2	2		濱島ちさと	
		◇ 公衆衛生看護管理論	4		2	山崎恭子	
		◇ 疫学・保健統計学	3		2	濱島ちさと	
		◇ 学校・産業保健	2		1	山崎恭子	
	精神看護学	精神看護学概論	2	2		松澤和正・伊藤文子	
		精神看護援助論Ⅰ	2	1		松澤和正	
		精神看護援助論Ⅱ	3	1		松澤和正	
	母性看護学	母性看護学概論	2	2		梶原祥子	
		母性看護援助論Ⅰ	2	1		梶原祥子・寺田由紀子	
		母性看護援助論Ⅱ	3	1		梶原祥子・抜田博子	
	小児看護学	小児看護学概論	2	2		石舘美弥子	
		小児看護援助論Ⅰ	2	1		石舘美弥子・三木祐子	
		小児看護援助論Ⅱ	3	1		石見和世・石舘美弥子	
	成人看護学	成人看護学急性期概論	2	1		林さとみ	
		成人看護急性期援助論Ⅰ	2	1		林さとみ	
		成人看護急性期援助論Ⅱ	3	1		林さとみ	
		成人看護学慢性期概論	2	1		南川雅子	
		成人看護慢性期援助論Ⅰ	2	1		南川雅子	
		成人看護慢性期援助論Ⅱ	3	1		角田こずえ	
	高齢者看護学	高齢者看護学概論	2	2		鈴木久美子	
		高齢者看護援助論Ⅰ	2	1		太田淳子	
		高齢者看護援助論Ⅱ	3	1		黒白恵子	

授業科目履修一覧表(2022年度入学生)

分類	授業科目名	配当 年次	単位数又は 時間数			科目担当責任者	履修方法
			必修	選択	自由		
専門分野	特論Ⅰ	家族看護論	1	1		山 岸 貴 子	必修2単位 ＋ 選択1単位以上
		がん看護	3	1		南 川 雅 子	
		感染看護	4		1	遠 藤 英 子	
		創傷看護	3		1	新 井 直 子	
		エンドオブライフケア	4		1	遠 藤 寛 子	
	特論Ⅱ	看護管理学	4	1		砂 見 緩 子	必修1単位 ＋ 選択2単位以上
		リーダーシップ論	4		1	砂 見 緩 子	
		グローバル看護	1		1	林 さ と み	
		看護教育学	4		1	砂 見 緩 子	
		災害看護	4		1	藤 木 眞 由 美	
	特論Ⅲ	ライフデザイン演習Ⅰ	1	1		三木祐子・抜田博子	必修7単位 ＋ 選択1単位以上
		ライフデザイン演習Ⅱ	2	1		角田こずえ・石見和世	
		ライフデザイン演習Ⅲ	3	1		未 定	
		ライフデザイン演習Ⅳ	4	2		古 屋 洋 子	
		看護研究方法論	3	2		南川雅子・石舘美弥子	
		看護文献検討演習	4		1	南川雅子・石舘美弥子	
		看護研究計画演習	4		1	山 崎 恭 子	
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	1		新 井 直 子	必修23単位
		基礎看護学実習Ⅱ	2	2		新井直子・斉藤倫代	
		精神看護学実習	3	2		松 澤 和 正	
		母性看護学実習	3	2		梶 原 祥 子	
		小児看護学実習	3	2		石 舘 美 弥 子	
		成人看護学急性期実習	3	3		林 さ と み	
		成人看護学慢性期実習	3	3		南 川 雅 子	
		高齢者看護学実習	3	3		鈴 木 久 美 子	
		地域・在宅看護学実習	3	2		遠 藤 寛 子	
		看護の統合と実践実習	4	3		三 木 祐 子	
保健師課程	◇ 公衆衛生看護活動論Ⅰ	4		2		山 岸 貴 子	保健師課程 選択者 必修11単位
	◇ 公衆衛生看護活動論Ⅱ	4		3		山 岸 貴 子	
	◇ 保健福祉行政論（実践）	4		1		山 崎 恭 子	
	◇ 公衆衛生看護学実習	4		4		山 崎 恭 子	
	◇ 産業看護学実習	4		1		山 崎 恭 子	

◇は、保健師課程履修者においては必修科目とする。

進級および卒業について(2022 年度入学生)

進 級

1. 進級の判定は、学年末に開かれる会議において行われる。
2. 2 学年への進級要件は、下表に示す単位を修得していること。

分野・科目群		必修・選択	単位数
基礎分野	人間科目群	必修	4 単位
		選択	4 単位以上
	環境科目群	必修	6 単位
		選択	2 単位以上
	外国語科目群	必修	2 単位
専門基礎分野	ヒトの構造・機能と疾病	必修	8 単位
	生活者の健康	必修	1 単位
専門分野	基礎看護学	必修	7 単位
	地域看護学	必修	1 単位
	特 論 I	必修	1 単位
	特 論 III	必修	1 単位
	臨地実習	必修	1 単位
合 計			38 単位以上

3. 3 学年への進級要件は、2 年次の専門基礎分野の必修科目 11 単位、専門分野の必修科目 29 単位、合計 40 単位を修得していること。
4. 4 学年への進級要件は、3 年次の専門基礎分野の必修科目 3 単位、専門分野の必修科目 29 単位を修得していること。

卒 業

1. 4 年以上在学し、卒業に必要な単位を修得することにより、学年末に開かれる教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学士(看護学)の学位が授与される。
2. 卒業要件は、基礎分野の必修科目 12 単位および選択科目 6 単位以上、合計 18 単位以上、専門基礎分野の必修科目 23 単位、選択 2 単位以上、合計 25 単位以上、専門分野の必修科目 75 単位および選択科目 6 単位以上、合計 81 単位以上、総合計 124 単位以上を修得していること。

実習に関する先修要件および取り決め事項

実習に関する先修要件

1. 2年次の「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するには、2年次前期までに開講されるすべての必修科目を修得または修得見込みであること。ただし、1年次の「基礎看護学実習Ⅰ」の先修要件はない。
2. 「精神看護学実習」「母性看護学実習」「小児看護学実習」「高齢者看護学実習」「成人看護学急性期実習」「成人看護学慢性期実習」「地域・在宅看護学実習」を履修するには、3年次前期までに開講されるすべての必修科目を修得または修得見込みであること。
3. 「看護の統合と実践実習」を履修するには、4年次前期までに開講されるすべての必修科目を修得または修得見込みであること。

実習に関する取り決め事項

1. 実習に関する先修要件がクリアできない者については、実習の履修は一切認めない。
2. 「基礎看護学実習Ⅱ」については実習の先修要件の科目の途中で実習となるため、先修要件の科目の不合格が確定した場合は、実習が合格であっても原則として実習単位は認めない。
3. 再実習は原則として行わない。
4. 実習出席時間数が5分の4に満たず欠席事由がやむを得ない場合、所定の手続きを行い、学科教授会で事情が認められた場合は、追実習を行うことができる。

保健師国家試験受験資格について

卒業に必要な単位を満たすとともに、下表に示す科目の単位を修得すると、保健師の国家試験受験資格が得られる。

科 目 名	単位数	配当年次	備考
公衆衛生看護展開論	2	3年	卒業単位に含まれる
公衆衛生看護管理論	2	4年	卒業単位に含まれる
疫学・保健統計学	2	3年	卒業単位に含まれる
学校・産業保健	1	2年	卒業単位に含まれる
公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	4年	卒業単位に含まれない
公衆衛生看護活動論Ⅱ	3	4年	卒業単位に含まれない
保健福祉行政論（実践）	1	4年	卒業単位に含まれない
公衆衛生看護学実習	4	4年	卒業単位に含まれない
産業看護学実習	1	4年	卒業単位に含まれない
計	18		

保健師課程の履修条件

保健師課程の履修定員は20名であり、3年次に履修者選考を実施する。履修者は以下の①～⑥を総合的に判断して決定する。

- ① 3年次前期までの必修科目の単位を修得、または修得見込みであること。
- ② 3年次前期に「公衆衛生看護展開論」「疫学・保健統計学」の単位を修得または修得見込みであること。

- ③ 「日本国憲法」、「スポーツ」の単位を修得していること。
- ④ 3年前期までの成績及び履修態度(健康で、欠席・遅刻が極めて少ない)、賞罰状況等が良好なこと。
- ⑤ 選考時の試験で所定の評価を得ること。
- ⑥ 卒業後保健師として業務に従事する意志があること。

保健師課程の実習に関する先修要件

「公衆衛生看護学実習」を履修するには、「公衆衛生看護活動論Ⅰ」「公衆衛生看護活動論Ⅱ」の科目を修得または修得見込みであること。

保健師課程の実習に関する取り決め事項

「公衆衛生看護学実習」については先修要件の科目の途中で実習開始となるため、先修要件の科目の不合格が確定した場合は、実習を中止する。

第一種衛生管理者免許について

下表に示す科目の単位を修得して卒業すると、公益財団法人 安全衛生技術試験協会実施の免許試験免除で、厚生労働省都道府県労働局長から第一種衛生管理者免許を受けることができる。免許申請は、卒業後、各自で最寄りの都道府県労働局等で行う。また、登録にかかる費用は自己負担となる。

科 目 名	単位数	配当年次
公衆衛生看護展開論	2	3年
疫学・保健統計学	2	3年
学校・産業保健	1	3年
地域看護援助論	1	3年
労働関係法令Ⅰ	2	4年
労働関係法令Ⅱ	2	4年
計	10	

厚生労働省ホームページ：労働安全衛生法関係免許申請書等手続きの手引き

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/anzen/index.html

問い合わせ先：最寄りの労働局または労働基準監督署の安全衛生担当部署

看護学科履修要項

〔2016～2021 年度入学生〕

カリキュラムマップ・・・・・・・・・・・・・・・・	看 14
主な学修内容・・・・・・・・・・・・・・・・	看 16
授業科目履修一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・	看 17
進級および卒業について・・・・・・・・・・・・・・・・	看 20
実習に関する先修要件および取り決め事項・・・・・・・・	看 21
保健師国家試験受験資格について・・・・・・・・	看 21
第一種衛生管理者免許について・・・・・・・・	看 22

カリキュラムマップ

科目区分	科目名	必修・選択等区分	配当年次	【看護学科2019年度～2021年度入学生】ディプロマ・ポリシー				
				1 人間を総合的にとらえ、人々の健康と生活の質及び倫理に関する知識を概説できる	2 看護学並びに看護実践に関わる基本的な知識や技術を説明・実践できる	3 科学的根拠に基づいて、ヘルスニーズを総合的に判断し、看護実践ができる	4 主体的に多職種との連携・協力・調整に取り組むことができる	5 新しい社会に貢献するように、自己管理能力を備えと共に自己研鑽をすることができる
基礎分野	医療社会学	必修	1年	○				
	ヒューマンコミュニケーション	必修	1年	○			○	
	労働関係法令Ⅰ	選択	3年	○				
	労働関係法令Ⅱ	選択	3年	○				
	情報科学	必修	1年	○				
	化学	必修	1年	○				
	生命科学	必修	1年	○				
	英語	必修	1年	○				
専門科目	解剖学Ⅰ	必修	1年		○			
	解剖学Ⅱ	必修	1年		○			
	生理学	必修	1年		○			
	生化学	必修	1年		○			
	微生物学	必修	1年		○			
	薬理学	必修	2年		○			
	病理学	必修	2年		○			
	法医学	選択	4年		○			
	疾病治療論Ⅰ（小児）	必修	2年		○			
	疾病治療論Ⅱ（内科系）	必修	2年		○			
	疾病治療論Ⅲ（外科系）	必修	2年		○			
	疾病治療論Ⅳ（精神医学）	必修	2年		○			
	疾病治療論Ⅴ（産婦人科学）	必修	2年		○			
	画像診断学	選択	4年		○			
	放射線医学	選択	4年		○			
	リハビリテーション学	選択	3年		○			
	ストレス論	選択	2年		○			
	発達心理学	選択	1年	○				
	公衆衛生学	必修	2年	○				
	保健医療情報学	必修	2年	○				
	健康政策論	必修	2年	○				
	社会福祉援助論	選択	3年	○				
	フレッシュセミナーⅠ	必修	1年	○				
	フレッシュセミナーⅡ	必修	2年		○			
	看護学概論Ⅰ	必修	1年		○			
	看護学概論Ⅱ	必修	1年		○			
	看護援助論Ⅰ	必修	1年		○			
	看護援助論Ⅱ	必修	2年		○			
	看護援助論Ⅲ	必修	2年		○			
	精神看護学概論	必修	2年		○			
	精神看護援助論Ⅰ	必修	2年			○		
	精神看護援助論Ⅱ	必修	3年			○		
	母性看護学概論	必修	2年		○			
	母性看護援助論Ⅰ	必修	2年			○		
	母性看護援助論Ⅱ	必修	3年			○		
	小児看護学概論	必修	2年		○			
	小児看護援助論Ⅰ	必修	2年			○		
	小児看護援助論Ⅱ	必修	3年			○		
	成人看護学概論	必修	2年		○			
	成人看護援助論Ⅰ	必修	2年			○		
	成人看護援助論Ⅱ	必修	3年			○		
	高齢者看護学概論	必修	2年		○			
	高齢者看護援助論Ⅰ	必修	2年			○		
	高齢者看護援助論Ⅱ	必修	3年			○		
	在宅看護学概論	必修	2年		○			
	在宅看護援助論	必修	3年			○		
	地域看護学概論	必修	2年		○			
	地域看護援助論	自由	3年			○		
	公衆衛生看護展開論	選択	3年			○		
	保健福祉行政論	選択	4年		○			
	公衆衛生看護管理論	選択	4年		○			
	疫学・保健統計学	選択	3年		○			
	学校・産業保健	選択	3年		○			
	看護管理学	必修	4年				○	
	看護教育学	選択	4年		○			
	チームケア	選択	4年				○	
	当事者論	選択	4年	○				
	家族看護論	必修	2年		○			
	国際看護	選択	4年					○
	がん看護	選択	4年			○		
	死生学	選択	4年	○				
	災害看護	選択	4年					○
	感染看護	選択	4年			○		
	創傷看護	選択	4年			○		
	アドバンス・セミナー	必修	4年					○
	看護研究方法論Ⅰ	必修	3年					○
	看護研究方法論Ⅱ	自由	4年					○

カリキュラムマップ

科目区分	科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【看護学科2019年度～2021年度入学生】ディプロマ・ポリシー				
				1 人間を総合的にとらえ、人々の 健康と生活の質及び倫理に関 する知識を概説できる	2 看護学並びに看護実践に関 わる基本的な知識や技術を 説明・実践できる	3 科学的根拠に基づいて、ヘル スニーズを総合的に判断し、 看護実践ができる	4 主体的に多職種との連携・ 協力・調整に取り組むことが できる	5 新しい社会に貢献するように、 自己管理能力を備えると共に自 己研鑽をすることができる
専門科目	基礎看護学実習Ⅰ	必修	1年		○			
	基礎看護学実習Ⅱ	必修	2年		○			
	精神看護学実習	必修	3～4年					
	母性看護学実習	必修	3～4年			○		
	小児看護学実習	必修	3～4年			○		
	成人看護学実習Ⅰ	必修	3～4年			○		
	成人看護学実習Ⅱ	必修	3～4年			○		
	高齢者看護学実習	必修	3～4年			○		
	地域・在宅看護学実習	必修	3～4年			○		
	看護の統合と実践実習	必修	4年				○	
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	選択	4年		○			
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	選択	4年			○		
	公衆衛生看護学実習	選択	4年			○		
基礎分野	生命倫理	選択	1年	○				
	医療統計学	選択	1年	○				
	ヘルスケアエデュケーション	選択	1年	○				
	医療心理学	選択	1年	○				
	臨床心理学	選択	1年	○				○
	社会と医療	選択	1年	○				
	医療とボランティア	選択	1年					○
	医療経済学	選択	1年	○				
	基礎医療法学	選択	1年	○				
	スポーツ	選択	1年	○				
	日本国憲法	選択	1年	○				
	TOEIC対策英語	選択	1年	○				
	生命と物質のサイエンス	選択	1年	○				
	チーム医療論	選択	1年				○	
	医療界のワーク・ライフ学	選択	1年					○
	コンタクトレンズの基礎	選択	1年	○				
	医療数理学入門	選択	1年	○				
	地域健康管理学入門	選択	1年				○	
	新薬発見のケーススタディー	選択	1年	○				
	災害からの復活と公衆衛生	選択	1年					○
	夢の薬物送達システム（DDS）	選択	1年	○				
	世界に羽ばたく医療人	選択	1年					○
	グラフィック基礎	選択	1年	○				
	アカデミック・イングリッシュ	選択	1年	○				
	イングリッシュ・コミュニケーション	選択	1年	○				
	ヘルス・コミュニケーション	選択	1年	○				
	多文化社会論	選択	1年	○				
	音楽	選択	1年	○				
	研究倫理	選択	1年					○
	フレホスピタルケア概論	選択	1年					○

※2018年度以前入学者は、入学時に配付された履修要項に記載のカリキュラムマップで、ディプロマ・ポリシーと科目との関連を確認してください。

主な学修内容

1) 1 学年

看護の対象となる人間や人間を取り巻く環境等について多様な学問分野の視点から学び、人間のさまざまな営みについて洞察できる幅広い教養を身につけます。また、「看護学概論Ⅰ・Ⅱ」「看護援助論Ⅰ」では看護の基本を学び、「基礎看護学実習Ⅰ」で体験する臨床場面を通し、看護職として必要な態度や技術を理解するとともに、将来へつなげます。「ヒューマンコミュニケーション」「フレッシュセミナーⅠ」では人間関係構築を目指したコミュニケーションスキルを学び、少人数のグループに分かれて自己理解・他者理解をはじめ、大学生として必須な学習技術や倫理的視点を養います。さらにこの科目は学生の学習支援システムとしても機能します。

2) 2 学年

看護職に必要な、さらなる基礎的知識を得るため「薬理学」「病理学」「疾病治療論Ⅰ～Ⅴ」などの専門基礎分野の科目を履修します。また、精神・小児・母性・成人・高齢者・地域に関する看護の専門分野の学習を幅広く行います。授業形態は講義・演習・見学など多様な形態で、さまざまな発達・健康段階にある対象者や生活の場の違う対象者の理解と、その人たちの看護に関する知識・技術を学びます。8月～9月には「基礎看護学実習Ⅱ」が組まれ、臨地での看護実践を通して看護職に求められる知識・技能・態度について考えます。

3) 3 学年

2年次に引き続き、看護の専門分野の学習を進め、さまざまな発達段階、健康段階や生活の場の違う対象者に対する看護のあり方や専門性を追求します。加えて前期には「看護研究方法論Ⅰ」が組まれ、看護の対象を科学的にとらえるための論理的思考を含む基礎的能力を養います。後期からは、長期にわたる実習が組まれており、多様な場で看護を体験しながら、看護実践能力の習得をめざします。また、実習を通してコミュニケーション能力や人間性も磨きます。

4) 4 学年

最終的に「看護の統合と実践実習」で今まで積み上げてきた知識・技能・態度の統合を行い、さらに看護実践能力を高めます。後期は「看護管理学」「がん看護」「感染看護」「国際看護」「災害看護」などの看護特論科目が多く組まれ、最新の看護に関する知識はもとより、多職種チーム内での指導力と調整力を発揮するために必要となる知識・技能・態度を各々の関心に沿って探求します。「アドバンスセミナー」では少人数のグループに分かれ、社会人として必要な知識や態度を育成し、キャリア発達・プランについても考えます。

5) 保健師課程

保健師課程は、保健師になるために必要な知識と技術が得られるように構築しています。

地域看護学分野の科目で得た知識・技能・態度を基盤として、地域で生活する人びとを支援するためにその健康状態を的確に判断し、個人・家族・集団・地域を単位とした看護方法の選択を適切に行うための公衆衛生看護学に必要な専門的な知識・技能・態度を4年次前期に習得します。その後、地域のヘルスケアシステムの中で、多機関・多職種と連携し、住民と協働して地域の健康問題を解決できる実践力を養うために、「公衆衛生看護学実習」において知識・技能・態度を統合して、個人・家族・集団・地域を対象とした公衆衛生看護を展開します。

保健師課程は、保健師国家試験受験資格を得るための必修となっており、履修するためには「保健師課程の履修条件」(看21～22)を満たしていなければなりません。

授業科目履修一覧表(2016～2021年度入学生)

分類	授業科目名	配当年次	単位数又は時間数			科目担当責任者	履修方法
			必修	選択	自由		
基 礎 分 野	人 間 科 目 群	医療社会学	1	2		大 滝 恭 弘	必修4単位 + 選択6単位以上
		ヒューマンコミュニケーション	1	2		遠藤寛子・三木祐子	
		非開講 生命倫理	1		2	沖 永 隆 子	
		医療心理学	1		2	田 代 信 久	
		※2 臨床心理学	1		2	田 代 信 久	
		ヘルスケアエデュケーション	1		2	高 柳 妙 子	
		社会と医療	1		2	皆 吉 淳 平	
		医療経済学	1		2	岩 崎 淳	
		基礎医療法学	1		2	大 滝 恭 弘	
		◇ 日本国憲法	1		2	大 滝 恭 弘	
		※5 医療界のワーク・ライフ学	1	1		大久保由美子	
		世界に羽ばたく医療人	1		2	河 内 正 治	
		非開講 研究倫理	1		2	—	
		※2 ヘルス・コミュニケーション	1		2	橋 本 章 子	
		※1 多文化社会論	1		2	齋 藤 智 恵	
		※2 労働関係法令Ⅰ	3		2	福田吉治・渋谷克彦	
		※2 労働関係法令Ⅱ	3		2	福田吉治・津田洋子	
	環 境 科 目 群	情報科学	1	2		池田徳正・難波純也・中村肇	必修6単位 + 選択4単位以上
		化学	1	2		渡 部 正 彦	
		生命科学	1	2		渡 部 正 彦	
		医療統計学	1		2	宮 田 敏	
		◇ スポーツ	1		2	中村雅年・津坂佳代	
		医療とボランティア	1		2	崎 坂 香 屋 子	
		生命と物質のサイエンス	1		2	大 胡 恵 樹	
		非開講 くすりを理解するための有機化学	1		2	2016～2018年度入学生向け	
		※6 チーム医療論	1		1	楯 直 子	
		コンタクトレンズの基礎	1		1	佐 々 木 翔	
		※3 医療数理学入門	1		2	森 川 馨	
		地域健康管理学入門	1		2	渡 邊 清 高	
		新薬発見のケーススタディー	1		1	青 山 晃 治	
		災害からの復活と公衆衛生	1		2	加 藤 美 生	
		非開講 プレホスピタルケア概論	1		1	—	
		※4 夢の薬物送達システム(DDS)	1		1	丸 山 一 雄	
		※2 グラフィック基礎	1		2	恵 晋 一	
		※1 音楽	1		2	小 出 英 樹	
		非開講 医療数理学入門Ⅱ	1		2	2016年度入学生向け	
		健康づくり演習	1		2	2016年度入学生向け	
	外 国 語 科 目 群	英語	1	2		齋 藤 智 恵	必修2単位
		TOEIC対策英語	1		2	クロージャーきよみ	
		非開講 英語演習	1		2	2016～2018年度入学生向け	
		※2 アカデミック・イングリッシュ	1		2	山 村 朋 子	
		※2 イングリッシュ・コミュニケーション	1		2	齋 藤 智 恵	
		国際事情Ⅰ	1		2	海 外 語 学 研 修	
		国際事情Ⅱ	1		2	海 外 語 学 研 修	

※1 2019年度入学生より ※2 2017年度入学生より ※3 2016年度入学生までは「医療数理学入門Ⅰ」 ※4 2018年度入学生までは「夢のDDS」
 ※5 2018年度入学生までは「医療界の男女共同参画社会の構築とキャリアデザイン」 ※6 2018年度以前に修得した場合は2単位
 ◇は、保健師課程履修者においては必修科目とする。

国際事情Ⅰ・国際事情Ⅱについて

春期休暇や夏期休暇に実施する2週間～3週間のホリデー留学に参加し、所定の成績を修めた者には、単位が付与されます。留学についてはその都度、掲示などでお知らせします。2週間の場合は2単位、3週間以上の場合は4単位が認定されます。(国際事情Ⅰ 2単位、国際事情Ⅱ 2単位)

授業科目履修一覧表(2016～2021年度入学生)

分類	授業科目名		配当 年次	単位数又は 時間数			科目担当責任者	履修方法
				必修	選択	自由		
専門基礎分野	ヒトの構造・機能と疾病	解剖学Ⅰ	1	2			田 中 秀 幸	必修21単位 + 選択2単位以上
		解剖学Ⅱ	1	2			田 中 秀 幸	
		生理学	1	2			長 井 孝 紀	
		生化学	1	2			鈴 木 利 宙	
		微生物学	1	2			吉 野 友 祐	
		薬理学	2	2			田 村 淳	
		病理学	2	2			望 月 眞	
		法医学	4		1		野 上 誠	
		疾病治療論Ⅰ（小児）	2	1			三 牧 正 和	
		疾病治療論Ⅱ（内科系）	2	2			塚 本 和 久	
		疾病治療論Ⅲ（外科系）	2	2			川 村 雅 文	
		疾病治療論Ⅳ（精神医学）	2	1			功 刀 浩	
		疾病治療論Ⅴ（産婦人科学）	2	1			綾 部 琢 哉	
		画像診断学	4		1		藤 原 政 雄	
		放射線医学	4		1		菱 木 清	
		リハビリテーション学	3		1		緒 方 直 史	
	生活者の健康	ストレス論	2		1		伊藤文子・松澤和正	必修3単位 + 選択2単位以上
		発達心理学	1		1		栗 田 明 子	
		公衆衛生学	2	1			濱 島 ち さ と	
		保健医療情報学	2	1			加 藤 美 生	
		健康政策論	2	1			濱 島 ち さ と	
		社会福祉援助論	3		1		濱 島 ち さ と	
専門分野	看護の基本	基礎	フレッシュセミナーⅠ	1	1		遠藤寛子・三木祐子	必修34単位
		基礎	フレッシュセミナーⅡ	2	1		角田こずえ・石見和世	
		基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	2		新井直子・砂見緩子	
		基礎看護学	看護学概論Ⅱ	1	1		新井直子・砂見緩子	
		基礎看護学	看護援助論Ⅰ	1	2		斉 藤 倫 代	
		基礎看護学	看護援助論Ⅱ	2	3		新井直子・平田美和	
		基礎看護学	看護援助論Ⅲ	2	2		新井直子・斉藤倫代	
		精神看護学	精神看護学概論	2	2		松澤和正・伊藤文子	
		精神看護学	精神看護援助論Ⅰ	2	1		松 澤 和 正	
		精神看護学	精神看護援助論Ⅱ	3	1		松 澤 和 正	
	ライフサイクルと看護	性と生殖の看護	母性看護学概論	2	2		梶 原 祥 子	
		性と生殖の看護	母性看護援助論Ⅰ	2	1		梶原祥子・寺田由紀子	
		性と生殖の看護	母性看護援助論Ⅱ	3	1		梶原祥子・抜田博子	
		小児看護学	小児看護学概論	2	2		石 舘 美 弥 子	
		小児看護学	小児看護援助論Ⅰ	2	1		石舘美弥子・三木祐子	
		小児看護学	小児看護援助論Ⅱ	3	1		石見和世・石舘美弥子	
		成人看護学	成人看護学概論	2	2		南川雅子・林さとみ	
		成人看護学	成人看護援助論Ⅰ	2	2		林さとみ・南川雅子	
		成人看護学	成人看護援助論Ⅱ	3	2		古屋洋子・角田こずえ	
		高齢者看護学	高齢者看護学概論	2	2		鈴 木 久 美 子	
		高齢者看護学	高齢者看護援助論Ⅰ	2	1		太 田 淳 子	
		高齢者看護学	高齢者看護援助論Ⅱ	3	1		黒 白 恵 子	

授業科目履修一覧表(2016～2021年度入学生)

分類			授業科目名	配当 年次	単位数又は 時間数			科目担当責任者	履修方法	
					必修	選択	自由			
専門分野	看護の統合と実践	地域・在宅看護学	在宅看護学概論	2	1			遠 藤 寛 子	必修4単位	
			在宅看護援助論	3	1			遠藤寛子・甲州 優		
			地域看護学概論	2	2			山 崎 恭 子		
			◇ 地域看護援助論	3			1	山崎恭子・山岸貴子		
		特論Ⅰ	◇ 公衆衛生看護展開論	3		2		山 崎 恭 子	選択1単位以上	
			◇ 保健福祉行政論	4		2		濱 島 ち さ と		
			◇ 公衆衛生看護管理論	4		2		山 崎 恭 子		
			◇ 疫学・保健統計学	3		2		濱 島 ち さ と		
			◇ 学校・産業保健	3		1		山 崎 恭 子		
			特論Ⅱ	看護管理学	4	2				砂 見 緩 子
		看護教育学		4		1		砂 見 緩 子		
		チームケア		4		1		鈴 木 久 美 子		
		当事者論		4		1		松 澤 和 正		
		家族看護論		2	1			山 岸 貴 子		
		特論Ⅲ	国際看護	4		1		白 井 美 帆 子	選択4単位以上	
			がん看護	4		1		南 川 雅 子		
			死生学	4		1		遠 藤 寛 子		
			災害看護	4		1		藤 木 眞 由 美		
			感染看護	4		1		遠 藤 英 子		
			創傷看護	4		1		新 井 直 子		
		特論Ⅳ	アドバンス・セミナー	4	1			古 屋 洋 子	必修3単位	
			看護研究方法論Ⅰ	3	2			南川雅子・石舘美弥子		
			看護研究方法論Ⅱ	4			2	山 崎 恭 子		
		臨地実習		基礎看護学実習Ⅰ	1	1			砂 見 緩 子	必修23単位
				基礎看護学実習Ⅱ	2	2			新井直子・斉藤倫代	
				精神看護学実習	3～4	2			松 澤 和 正	
				母性看護学実習	3～4	2			梶 原 祥 子	
				小児看護学実習	3～4	2			石 舘 美 弥 子	
				成人看護学実習Ⅰ	3～4	3			南 川 雅 子	
				成人看護学実習Ⅱ	3～4	3			林 さ と み	
				高齢者看護学実習	3～4	4			上 野 公 子	
☆ 地域・在宅看護学実習				3～4	2			遠 藤 寛 子		
看護の統合と実践実習				4	2			古 屋 洋 子		
保健師課程			◇ 公衆衛生看護活動論Ⅰ	4		1		山 岸 貴 子	保健師課程 選択者必修 8単位	
			◇ 公衆衛生看護活動論Ⅱ	4		2		山 岸 貴 子		
			◇ 公衆衛生看護学実習	4		5		山 崎 恭 子		

◇は、保健師課程履修者においては必修科目とする。☆は、2016年度入学生は3学年

進級および卒業について(2016～2021 年度入学生)

進 級

1. 進級の判定は、学年末に開かれる会議において行われる。
2. 2 学年への進級要件は、下表に示す単位を修得していること。

分野・科目群		必修・選択	単位数
基礎分野	人間科目群	必修	4 単位
		選択	6 単位以上
	環境科目群	必修	6 単位
		選択	4 単位以上
	外国語科目群	必修	2 単位
専門基礎	ヒトの構造・機能と疾病	必修	10 単位
専門分野	看護の基本	必修	6 単位
	臨地実習	必修	1 単位
合 計			39 単位以上

3. 3 学年への進級要件は、2 年次に専門基礎分野の必修科目 14 単位、専門分野の必修科目 28 単位(基礎看護学実習Ⅱの必修 2 単位を含む)、合計 42 単位を修得していること。
4. 4 学年への進級要件は、3 年次に専門分野の必修科目 9 単位を修得していること。

卒 業

1. 4 年以上在学し、卒業に必要な単位を修得することにより、学年末に開かれる教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学士(看護学)の学位が授与される。
2. 卒業要件は、基礎分野の必修科目 12 単位および選択 10 単位以上、合計 22 単位以上、専門基礎分野の必修科目 24 単位および選択科目 4 単位以上、合計 28 単位以上、専門分野の必修科目 67 単位および選択科目 7 単位以上、合計 51 単位以上、総合計 124 単位以上を修得していること。

実習に関する先修要件および取り決め事項

実習に関する先修要件

1. 2年次の「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するには、2年次前期までに開講されるすべての必修科目を修得または修得見込みであること。ただし、1年次の「基礎看護学実習Ⅰ」の先修要件はない。
2. 「精神看護学実習」「母性看護学実習」「小児看護学実習」「高齢者看護学実習」「成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ」「地域・在宅看護学実習」を履修するには、3年次前期までに開講されるすべての必修科目を修得または修得見込みであること。
3. 「看護の統合と実践実習」を履修するには、4年次前期までに開講されるすべての必修科目を修得または修得見込みであること。

実習に関する取り決め事項

1. 実習に関する先修要件がクリアできない者については、実習の履修は一切認めない。
2. 「基礎看護学実習Ⅱ」については実習の先修要件の科目の途中で実習となるため、先修要件の科目の不合格が確定した場合は、実習が合格であっても原則として実習単位は認めない。
3. 再実習は原則として行わない。
4. 実習出席時間数が5分の4に満たず欠席事由がやむを得ない場合、所定の手続きを行い、学科教授会で事情が認められた場合は、追実習を行うことができる。

保健師国家試験受験資格について

卒業に必要な単位を満たすとともに、下表に示す科目の単位を修得すると、保健師の国家試験受験資格が得られる。

科 目 名	単位数	配当年次	備 考
地 域 看 護 援 助 論	1	3 年	卒業単位に含まれない
公衆衛生看護展開論	2	3 年	卒業単位に含まれる
保 健 福 祉 行 政 論	2	4 年	卒業単位に含まれる
公衆衛生看護管理論	2	4 年	卒業単位に含まれる
疫 学 ・ 保 健 統 計 学	2	3 年	卒業単位に含まれる
学 校 ・ 産 業 保 健	1	3 年	卒業単位に含まれる
公衆衛生看護活動論Ⅰ	1	4 年	卒業単位に含まれない
公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	4 年	卒業単位に含まれない
公衆衛生看護学実習	5	4 年	卒業単位に含まれない
計	18		

保健師課程の履修条件

保健師課程の履修定員は20名であり、3年次に履修者選考を実施する。履修者は以下の①～⑥を総合的に判断して決定する。

- ① 3年次前期までの必修科目の単位を修得、または修得見込みであること。
- ② 3年次前期に「地域看護援助論」「公衆衛生看護展開論」「疫学・保健統計学」「学校・産業保健」の単位を修得または修得見込みであること。
- ③ 「日本国憲法」、「スポーツ」の単位を修得していること。

- ④ 3 年前期までの成績及び履修態度(健康で、欠席・遅刻が極めて少ない)、賞罰状況等が良好なこと。
- ⑤ 選考時の試験で所定の評価を得ること。
- ⑥ 卒業後保健師として業務に従事する意志があること。

保健師課程の実習に関する先修要件

「公衆衛生看護学実習」を履修するには、「公衆衛生看護活動論Ⅰ」「公衆衛生看護活動論Ⅱ」の科目を修得または修得見込みであること。

保健師課程の実習に関する取り決め事項

「公衆衛生看護学実習」については先修要件の科目の途中で実習開始となるため、先修要件の科目の不合格が確定した場合は、実習を中止する。

第一種衛生管理者免許について

2017～2021 年度入学生は、下表に示す科目の単位を修得して卒業すると、公益財団法人 安全衛生技術試験協会実施の免許試験免除で、厚生労働省都道府県労働局長から第一種衛生管理者免許を受けることができる。免許申請は、卒業後、各自で最寄りの都道府県労働局等で行う。また、登録にかかる費用は自己負担となる。

科 目 名	単位数	配当年次	備 考
公衆衛生看護展開論	2	3 年	
疫学・保健統計学	2	3 年	
学校・産業保健	1	3 年	
地域看護援助論	1	3 年	
労働関係法令Ⅰ	2	3 年	※4 年次開講
労働関係法令Ⅱ	2	3 年	※4 年次開講
計	10		

厚生労働省ホームページ：労働安全衛生法関係免許申請書等手続きの手引き

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/anzen/index.html

問い合わせ先：最寄りの労働局または労働基準監督署の安全衛生担当部署

診療放射線学科履修要項

〔2022 年度入学生〕

修得目標・カリキュラムマップ……………	放 2
主な学修内容……………	放 5
授業科目履修一覧表……………	放 7
進級および卒業について……………	放 11

修得目標 診療放射線学科

学科の修得目標		全学の修得目標	4要素	
レベル1	レベル2			
A	医療人として必要な基礎知識を有し、地域社会に貢献する意識を持つ	1 人文科学、社会科学、自然科学にわたる幅広い知識を理解した上で専門知識の学びを進めることができる	人文科学、社会科学、自然科学について幅広い関心と知識を有する	知識・理解
		2 医療倫理の基本に沿って学習し説明ができる	自律・自立して学修できる	態度・志向性
		3 医療従事者としてのプロフェッショナリズムを理解し、社会での放射線技師の役割を理解できる	自分の得意分野を見つけ、個性として昇華させることができる	態度・志向性
		4 医療従事者として必要な保健、福祉制度に対する知識を有している	自律・自立して学修できる	態度・志向性
		5 放射線と地域社会の関わりについて理解する	修得した知識・技術で自分の力として行動し、その結果に責任を持つ	態度・志向性
B	放射線に関わる基本的知識を有し、基本的技術を実践できる	6 放射線診療に必要な医学基礎の知識を有している		知識・理解
		7 放射線診療に必要な物理、化学、生物の知識を有している		知識・理解
		8 放射線画像の基本特性を理解し、画像構成理論の知識を有している		知識・理解
		9 放射線検査および治療における安全管理を理解している		知識・理解
		10 放射線の管理に必要な法律の知識を有している		知識・理解
C	放射線診断の基本的知識を有し、医療技術を実践できる	11 診断画像の成り立ちが理解できる		知識・理解
		12 X線検査およびMRIの撮像方法、画像を論理的に理解することができる	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理することで解決できる	汎用的技能
		13 造影X線検査の意義、画像を理解し安全管理に関する知識を有する		知識・理解
		14 放射性同位元素の適切な取り扱いができる	実社会の出来事について自ら学び、吸収することができる	汎用的技能
		15 検査時の患者心理に対応した説明ができる	口頭・書面によるコミュニケーション・プレゼンテーションの能力を有する	汎用的技能
D	放射線治療の基本的知識を有し、医療技術を実践できる	16 放射線治療に関しての医学的知識を有している		知識・理解
		17 放射線治療に関しての物理、生物学的な知識を有する		知識・理解
		18 放射線治療に関しての技術の基本を理解している	常に情報を収集し、それらを基に自分なりの考えを発信できる	汎用的技能
		19 治療時の患者の尊厳を尊重した説明ができる	多様な情報を収集・分析して適正に判断し、効果的に活用できる	汎用的技能
E	自己管理能力を備え、チーム医療に繋がる協調性を保ちつつ、ときに応じてリーダーシップを発揮することができる	20 チーム医療を理解し、メンバーとしての責任を果たせる	協働作業によって新たなものを構築することができる	態度・志向性
		21 患者、他の医療従事者の尊厳を尊重しコミュニケーションを取ることができる	口頭・書面によるコミュニケーション・プレゼンテーションの能力を有する	汎用的技能
		22 チーム医療において、対人関係の心理的要因に関する知識を活用できる	他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる	態度・志向性
		23 グローバルな視点に立って、放射線診療に関する知識を有している	多文化・異文化に関する知識をもって物事を判断することができる	知識・理解
		24 国際社会の一員として学生の視点で社会に貢献できる	海外との交流を積極的に行う姿勢を有する	態度・志向性
		25 科学的な根拠に基づいた、問題解決の手法を提案できる	獲得した資質・能力を総合的に活用し、自らが立てた課題にそれらを適用することで解決することができる	統合的な学習経験と創造的思考力

カリキュラムマップ

科目区分	科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【診療放射線学科2022年度入学生】修得目標 レベル1：A～E／レベル2：1～25																								
				A					B					C					D					E				
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
基礎分野	基礎化学	必修	1年																									
	基礎物理学	必修	1年								○																○	
	数学	必修	1年																								○	
	基礎科学実験	必修	1年								○																○	
	英語	必修	1年																					○	○			
	情報科学	必修	1年																						○	○		
	医療社会学	必修	1年		○	○	○	○	○				○															
	ヒューマンコミュニケーション	必修	1年		○	○															○	○	○					
	数学基礎	自由	1年	○																		○	○				○	
医学英語	自由	1年																					○	○	○			
専門科目	基礎医学一般	必修	1年							○	○								○									
	医用工学Ⅰ（情報科学）	必修	1年								○	○			○													
	医療基礎論	必修	1年				○		○	○	○	○	○															
	解剖生理学	必修	1年						○	○					○	○				○								
	放射線生物学Ⅰ	必修	1年							○	○									○								
	放射化学Ⅰ	必修	1年							○	○									○								
	放射線物理学Ⅰ	必修	1年							○	○									○								
	診療画像技術学Ⅰ（基礎）	必修	1年							○	○	○			○					○								
	診療画像技術学Ⅱ（単純撮影法）	必修	1年							○	○	○			○													
	診療画像機器学Ⅰ	必修	1年							○	○	○				○				○	○							
	医用画像情報学Ⅰ（アナログ画像）	必修	1年							○	○	○			○													
	ライフデザイン演習Ⅰ	必修	1年			○	○	○	○	○					○													
	医療関係論	必修	2年																			○	○	○				
	医学概論	必修	2年							○									○									
	病理学	必修	2年							○	○																	
	医用工学Ⅱ（電気工学・電子工学）	必修	2年								○	○				○												
	医用工学実験	必修	2年								○	○				○												
	放射線計測学Ⅰ	必修	2年								○		○							○								
	放射線生物学Ⅱ	必修	2年								○									○								
	放射化学Ⅱ	必修	2年								○									○								
	放射線物理学Ⅱ	必修	2年								○									○								
	放射線計測学Ⅱ	必修	2年								○		○							○								
	総合放射線技術学基礎演習	必修	2年							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
	診療画像技術学Ⅲ（特殊検査法）	必修	2年							○	○	○			○													
	診療画像技術学Ⅳ（CT・MRI）	必修	2年												○	○	○											
	基礎診療画像技術学実習	必修	2年												○	○	○											
	放射線治療技術学Ⅰ	必修	2年																○	○	○	○	○					
	診療画像機器学Ⅱ	必修	2年								○	○				○				○	○							
	ライフデザイン演習Ⅱ	必修	2年			○	○	○	○	○																		
	国際放射線技術学	自由	2～4年				○	○	○	○													○	○	○	○	○	
	総合放射線技術学応用演習	必修	3年							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
	臨床画像解剖学	必修	3年							○		○			○				○									
	核医学検査技術学	必修	3年								○				○				○									
	放射線管理学	必修	3年										○				○											
	放射線管理学実験	必修	3年										○			○												
	診療画像技術学実習Ⅰ（特殊検査）	必修	3年								○	○	○			○												
	核医学検査機器学	必修	3年								○				○			○										
	放射線治療技術学Ⅱ	必修	3年															○	○	○	○							
	放射線治療機器学	必修	3年											○				○	○									
	治療線量計測学	必修	3年										○				○		○	○	○							
	医用画像情報学Ⅱ（デジタル画像）	必修	3年								○	○	○			○												
	医用画像情報学実習	必修	3年								○	○	○			○												
	放射線計測学実験	必修	3年								○			○				○		○								
	関係法規	必修	3年			○	○	○					○	○														
	画像診断技術学実習（臨床実習）	必修	3年							○		○			○				○									
	医療安全管理学	必修	3年			○	○	○						○				○				○						
	ライフデザイン演習Ⅲ	必修	3年			○	○	○	○																			
	基礎分野	小論文概論	必修	4年			○	○	○	○																		○
専門科目	総合科学実験	必修	4年								○								○									
	基礎医学大要演習（含む、公衆衛生）	必修	4年							○	○								○									
	放射線生物学演習	必修	4年								○								○									
	放射化学演習	必修	4年								○								○									
	放射線物理学演習	必修	4年								○								○									
	医用工学・画像工学演習	必修	4年								○	○			○	○												
	放射線計測学演習	必修	4年								○								○									
	実践臨床画像学	必修	4年			○					○								○									
	ライフデザイン演習Ⅳ	必修	4年			○	○	○	○	○																		
	X線撮影技術学演習	必修	4年								○	○	○			○												
	診療画像検査学演習	必修	4年								○	○	○			○												
	診療画像機器学演習	必修	4年								○	○	○			○												
	核医学検査技術学演習	必修	4年								○	○	○			○												
	放射線治療技術学演習	必修	4年																○	○	○	○	○					
	医用画像情報学演習	必修	4年								○	○	○			○												
	放射線安全管理学演習	必修	4年			○									○			○										
	放射線医学総合演習	必修	4年			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
	核医学・放射線治療学実習（臨床実習）	必修	4年			○	○	○	○	○							○		○	○	○	○						
	診療画像技術学実習Ⅱ（医療安全）	必修	4年			○											○	○										
特別研究	自由	4年			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							

カリキュラムマップ

科目区分	科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【1年共通科目2022年度入学生】修得目標 レベル1：A～E／レベル2：1～2 5																								
				A					B					C					D					E				
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
基礎分野	チーム医療論	選択	1年	○																	○							
	コンタクトレンズの基礎	選択	1年	○																								
	新薬発見のケーススタディー	選択	1年	○																								
	医療界のワーク・ライフ学	選択	1年	○																								
	夢の薬物送達システム（DDS）	選択	1年	○																								
	医療統計学	選択	1年	○																								
	ヘルスクアエデュケーション	選択	1年	○																								
	社会と医療	選択	1年	○																								
	医療とボランティア	選択	1年	○																								
	医療経済学	選択	1年	○																								
	基礎医療法学	選択	1年	○																								
	生命と物質のサイエンス	選択	1年	○																								
	地域健康管理学入門	選択	1年	○																								
	災害からの復活と公衆衛生	選択	1年	○																								
	世界に羽ばたく医療人	選択	1年	○																							○	
	TOEIC対策英語	選択	1年	○																								
	ヘルス・コミュニケーション	選択	1年	○																								
	医療数理科学入門	選択	1年	○																								
	グラフィック基礎	選択	1年	○																								
	アカデミック・イングリッシュ	選択	1年	○																							○	
イングリッシュ・コミュニケーション	選択	1年	○																							○		
多文化社会論	選択	1年	○																									
日本国憲法	選択	1年	○																									
医療心理学	選択	1年	○																									
臨床心理学	選択	1年	○																									
健康スポーツ	選択	1年	○																									

主な学修内容(2022 年度入学生)

1) 1 学年

我が国では安心で安全な医療の提供が昨今、国民から求められており、「医療の質の向上」が提言され、質の高い医療スタッフを医療現場に配置することの必要性が謳われています。このため医療技術の高度化にともなう高度先進医療やチーム医療の定着などに対して、より質の高い医療スタッフの養成が求められています。

放射線医療の領域においても医療の高度化、多様化が進むなかで、医療機器や医療技術の進展がなされる一方、医療事故が問題視されていますが、これらに対しても医療に対する技術面は勿論のこと、問題解決能力の育成、また患者に対する医療を志す者としての高い倫理観、ならびに国際的情報化時代への対応など、この領域における高度な学識、素養を身につけた専門家としての高い資質を有した診療放射線技師の養成が必要とされています。

このような社会背景を踏まえ、1 年次には基礎分野の「基礎化学」「基礎物理学」「数学」「ヒューマンコミュニケーション」などの科目を通して、理論的思考力や自由で主体的な判断力、また医療従事者に不可欠な医療倫理観と生命の尊厳についての理解を育み、さらに「医療社会学」や「情報科学」などを通して国際化、および情報化社会に対応できる能力を幅広く養うことを目標とします。さらに、選択科目を履修することにより幅広い教養を身に付け、豊かな人間性を育みます。また、「基礎医学一般」「医療基礎論」「解剖生理学」「医用工学Ⅰ」「診療画像技術学Ⅰ・Ⅱ」「医用画像情報学Ⅰ」などの科目では、専門基礎分野・専門分野の学修の第一歩を踏み出すこととなります。

このように 1 年次に医療従事者を目指す大学生としての自覚、目的意識を持って教養課程を修学することにより、2 年次からの修学体制を整えてください。

2) 2 学年

本学年より医療技術の背景となる知識、さらなる技術を修得すべく、専門基礎分野・専門分野の科目を履修します。

専門基礎分野としては、医学一般の知識を修得すべく「医学概論」を履修するとともに、その基礎となる「病理学」、ならびに救命救急医療、看護学、その他、関連医療領域について学ぶ「医療関係論」を履修します。さらに 1 年次で履修した「放射線生物学」、「放射化学」「放射線物理学」「医用工学」などの理工学的科目を引き続き学修します。実験科目としては「医用工学実験」が設けられています。

専門分野としては、診療放射線技師にとって必要不可欠な科目である「診療画像技術学」「診療画像機器学」、「放射線治療技術学」および「基礎診療画像技術学実習」などの講義、ならびに実習が設けられています。

これら医学、理工学、ならびに医療技術学全般に有用となる専門基礎分野科目として「総合放射線技術学基礎演習」も本学年に設けられています。

本学年は、診療放射線技師として学修すべき主要科目が多数設けられていることを念頭に置き、目的意識をもって講義、実習に臨んでください。

3) 3 学年

本学年は診療放射線技師としての基礎的学問の修得、さらにそれを深めて応用できるように努力する学年です。

専門分野では、臨床医学の導入となる科目を履修します。健康な身体に関する知識を修得し、診療放射線技師が扱う各種映像手法(モダリティ)の理論を修得する「臨床画像解剖学」を学びます。

理工学科目としては、実験科目として「放射線計測学実験」が設けられています。

専門分野としては、1 年次、2 年次でも履修した「放射線治療技術学」「医用画像情報学」、実験科目としては「放射線管理学実験」が設けられています。新たに「核医学検査技術学」「核医学検査機器学」「放射線治療機器学」「治療線量計測学」が加わり、実習科目としては、診療放射線技師にとって重要な分野に位置づけられる「診療画像技術学実習」「医用画像情報学実習」を学びます。診療放射線技師として遵守しなければならない法律と管理に関する科目として「関係法規」「医療安全管理学」が設けられています。上記の中で、実験・実習科目については診療放射線技師になるための『実学』として、大変重要です。

特に、本学年では座学の重要性もさることながら、放射線診断部門に関する病院での『診療画像技術学としての臨床実習』が用意されていることが 2 年次までにはなかった重要な点です。臨床実習では、学内実習では得られない現場での実践の他、患者様への応対、さらにチーム医療に関する理解を深め、医療従事者としての心構えを身に付けることを目標とします。その一方で、各教科の理解や臨床実習での経験が、国家試験のための学修効果をより高めることは明白であり、相乗効果として座学と実学が融合し、放射線技術学全体の理解がより深まることが期待されます。

以上のように、本学年は診療放射線技師としての実学の核になる大切な学年であることを常に念頭において行動するよう心がけてください。

4) 4 学年

本学年は 4 年制大学としての最終学年にあたり、診療放射線技師になるために必要不可欠である技師免許を取得すべく設けられている『診療放射線技師国家試験』が、また診療放射線技師として病院等に勤務するための『就職試験』が待ち受けており重要な年度と位置づけられます。

さらには、診療放射線技師職の集大成ともいえる 3 年次に実施された『診療画像技術学としての臨地実習』に加えて、当学年では『核医学検査・放射線治療学としての臨床実習』が準備されています。

これらのことを視野に入れ、本学年では就職試験時などで有用となる「小論文概論」、専門基礎分野の「基礎医学大要演習」をはじめとする 7 科目、専門分野の「X 線撮影技術学演習」をはじめとした 12 科目の計 20 科目が必修となっています。

これらの科目は『国家試験』、『就職試験』を確実に突破するために必要となること、また将来の研究活動に参考となります。

2 年次、3 年次と学修してきたことに加えて、当学年でしっかりと研鑽することにより診療放射線技師として、医療従事者としての技術、知識を高めてください。

授業科目履修一覧表 (2022年度入学生)

第1学年

	授業科目名	単位数	科目責任者	履修方法
基礎分野	基礎化学	2	吉岡昇	8科目15単位必修
	基礎物理学	2	古徳純一	
	数学	2	三橋俊文	
	基礎科学実験	1	富沢比呂之	
	英語	2	齋藤智恵	
	情報科学	2	水上拓哉・中村肇	
	医療社会学	2	大滝恭弘	
	ヒューマンコミュニケーション	2	菱木清	
	チーム医療論	1	楯直子	2科目4単位以上選択
	コンタクトレンズの基礎	1	佐々木翔	
	新薬発見のケーススタディー	1	青山晃治	
	医療界のワーク・ライフ学	1	大久保由美子	
	夢の薬物送達システム(DDS)	1	丸山一雄	
	医療統計学	2	鈴木明日香	
	ヘルスケアエデュケーション	2	高柳妙子	
	社会と医療	2	皆吉淳平	
	医療とボランティア	2	西原三佳	
	医療経済学	2	岩崎淳	
	基礎医療法学	2	大滝恭弘	
	生命と物質のサイエンス	2	大胡恵樹	
	地域健康管理学入門	2	渡邊清高	
	災害からの復活と公衆衛生	2	加藤美生	
	世界に羽ばたく医療人	2	河内正治	
	TOEIC対策英語	2	西本公一	
	ヘルス・コミュニケーション	2	橋本章子	
	医療数理学入門	2	森川馨	
	グラフィック基礎	2	恵晋一	
	アカデミック・イングリッシュ	2	山村朋子	
	イングリッシュ・コミュニケーション	2	齋藤智恵	
	多文化社会論	2	齋藤智恵	
	日本国憲法	2	大滝恭弘	
	医療心理学	2	田代信久	
	臨床心理学	2	田代信久	
	健康スポーツ	1	中村雅年	
	数学基礎	1	林達也	自由選択
	医学英語	1	井谷善恵	
専門基礎分野	基礎医学一般	1	山崎丘	7科目8単位必修
	医用工学Ⅰ(情報科学)	1	石橋徹	
	医療基礎論	1	菱木清	
	解剖生理学	2	太田樹	
	放射線生物学Ⅰ	1	鈴木崇彦	
	放射化学Ⅰ	1	富沢比呂之	
	放射線物理学Ⅰ	1	小林毅範	
専門分野	ライフデザイン演習Ⅰ	1	大谷浩樹	5科目8単位必修
	診療画像技術学Ⅰ(基礎)	2	松島明里	
	診療画像技術学Ⅱ(単純撮影法)	2	伊東利宗	
	診療画像機器学Ⅰ	2	大松将彦	
	医用画像情報学Ⅰ(アナログ画像)	1	松島明里	
第1学年履修単位数合計				35単位

授業科目履修一覧表 (2022年度入学生)

第2学年

	授業科目名	単位数	科目責任者	履修方法
専門基礎分野	医療関係論	1	岡 本 孝 英	11科目18単位必修
	医学概論	2	太 田 樹	
	病理学	1	望 月 眞	
	医用工学Ⅱ(電気工学・電子工学)	2	大 松 将 彦	
	医用工学実験	1	小 林 毅 範	
	放射線計測学Ⅰ	2	大 谷 浩 樹	
	放射線生物学Ⅱ	2	鈴 木 崇 彦	
	放射化学Ⅱ	2	富 沢 比 呂 之	
	放射線物理学Ⅱ	2	小 林 毅 範	
	放射線計測学Ⅱ	2	大 谷 浩 樹	
	総合放射線技術学基礎演習	1	伊 東 利 宗	
専門分野	ライフデザイン演習Ⅱ	1	伊 東 利 宗	6科目16単位必修
	診療画像技術学Ⅲ(特殊検査法)	4	曾 我 部 和 美	
	診療画像技術学Ⅳ(CT・MRI)	4	藤 原 政 雄	
	放射線治療技術学Ⅰ	1	菱 木 清	
	診療画像機器学Ⅱ	4	大 松 将 彦	
	基礎診療画像技術学実習	2	大 谷 浩 樹	
	※ 国際放射線技術学	1	岡 本 孝 英	自由選択
第2学年履修単位数合計				34単位

※国際放射線技術学は、短期海外研修です。2・3・4年いずれかで履修可能

授業科目履修一覧表 (2022年度入学生)

第3学年

	授業科目名	単位数	科目責任者	履修方法
専門基礎分野	総合放射線技術学応用演習	1	小 島 慎 也	1科目1単位必修
専門分野	ライフデザイン演習Ⅲ	1	菱 木 清	16科目30単位必修
	臨床画像解剖学	2	宇 都 宮 英 綱	
	核医学検査技術学	2	横 塚 記 代	
	放射線管理学	1	高 橋 信 喜	
	放射線管理学実験	1	藤 原 政 雄	
	診療画像技術学実習Ⅰ(特殊検査)	1	林 達 也	
	核医学検査機器学	2	平 木 仁 史	
	放射線治療技術学Ⅱ	2	菱 木 清	
	放射線治療機器学	2	大 谷 浩 樹	
	治療線量計測学	2	古 徳 純 一	
	医用画像情報学Ⅱ(デジタル画像)	2	岡 本 孝 英	
	医用画像情報学実習	2	小 島 慎 也	
	放射線計測学実験	1	大 谷 浩 樹	
	関係法規	1	高 橋 信 喜	
	画像診断技術学実習(臨床実習)	6	菱 木 清	
	医療安全管理学	2	松 島 明 里	
	※ 国際放射線技術学	1	岡 本 孝 英	自由選択
第3学年履修単位数合計				31単位

※国際放射線技術学は、短期海外研修です。2・3・4年いずれかで履修可能

授業科目履修一覧表 (2022年度入学生)

第4学年

	授業科目名	単位数	科目責任者	履修方法
基礎分野	小論文概論	1	加 藤 健 司	1科目 1単位必修
専門基礎分野	総合科学実験	1	富 沢 比 呂 之	7科目7単位必修
	基礎医学大要演習(含む、公衆衛生)	1	大 澤 美 由 紀	
	放射線生物学演習	1	鈴 木 崇 彦	
	放射化学演習	1	富 沢 比 呂 之	
	放射線物理学演習	1	小 林 毅 範	
	医用工学・画像工学演習	1	大 松 将 彦	
	放射線計測学演習	1	大 谷 浩 樹	
専門分野	ライフデザイン演習Ⅳ	1	小 島 慎 也	12科目16単位必修
	実践臨床画像学	2	太 田 樹	
	X線撮影技術学演習	1	曾 我 部 和 美	
	診療画像検査学演習	1	林 達 也	
	診療画像機器学演習	1	小 林 毅 範	
	核医学検査技術学演習	1	横 塚 記 代	
	放射線治療技術学演習	1	菱 木 清	
	医用画像情報学演習	1	石 橋 徹	
	放射線安全管理学演習	1	高 橋 信 喜	
	放射線医学総合演習	1	岡 本 孝 英	
	核医学・放射線治療学実習(臨床実習)	4	大 松 将 彦	
	診療画像技術学実習Ⅱ(医療安全)	1	岡 本 孝 英	
	特別研究	4	岡 本 孝 英	自由選択
	※ 国際放射線技術学	1	岡 本 孝 英	
第4学年履修単位数合計				24単位

※国際放射線技術学は、短期海外研修です。2・3・4年いずれかで履修可能

卒業に必要な修得単位数	124単位
-------------	-------

進級および卒業について(2022 年度入学生)

進 級

1. 進級の判定は、学年末に開かれる会議において行われる。
2. 2 学年への進級要件は、1 年次の基礎分野の必修科目 15 単位、選択科目 4 単位以上、専門基礎分野の必修科目 8 単位、専門分野の必修科目 8 単位、合計 35 単位以上を修得していること。
3. 3 学年への進級要件は、2 年次の専門基礎分野の必修科目 18 単位、専門分野の必修科目 16 単位、合計 34 単位以上（1 年次、2 年次合計 69 単位以上）を修得していること。
4. 4 学年への進級要件は、3 年次の専門基礎分野の必修科目 1 単位、専門分野の必修科目 30 単位、合計 31 単位以上（1 年次、2 年次、3 年次までの合計 100 単位以上）を修得していること。

卒 業

1. 4 年以上在学し、卒業に必要な単位を修得することにより、学年末に開かれる教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学士(医療技術学)の学位が授与される。
2. 卒業要件は、基礎分野の必修科目 16 単位および選択科目 4 単位以上、合計 20 単位以上、専門基礎分野の必修科目 34 単位、専門分野の必修科目 70 単位、総合計 124 単位以上を修得していること。

診療放射線学科履修要項

[2016～2021 年度入学生]

カリキュラムマップ・・・・・・・・・・・・・・・・	放 14
主な学修内容・・・・・・・・・・・・・・・・	放 16
授業科目履修一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・	放 18
進級および卒業について・・・・・・・・・・・・	放 22

カリキュラムマップ

科目区分	科目名	必修・選択等 区分	配当年次	【診療放射線学科2019年度～2021年度入学生】ディプロマ・ポリシー				
				1 医療人として必要な基礎 知識を有し、地域社会に 貢献する意識を持つ。	2 放射線に関わる基本的 知識を有し、基本的技術 を実践できる。	3 放射線診断の基本的知識 を有し、医療技術を実 践できる。	4 放射線治療の基本的知識 を有し、医療技術を実 践できる。	5 自己管理能力を備え、 チーム医療に繋がる協 力を保ちつつ、ときに リーダーシップを発 揮することができる。
基礎分野	化学Ⅰ	選択必修	1年	○				
	化学Ⅱ	選択必修	1年	○				
	物理学Ⅰ	選択必修	1年	○				
	物理学Ⅱ	選択必修	1年	○				
	数学Ⅰ	選択必修	1年	○				
	数学Ⅱ	選択必修	1年	○				
	化学実験	必修	1年	○				
	物理学実験	必修	1年	○				
	医学英語	必修	1年					○
	英語	必修	1年	○				
	情報科学	必修	1年	○				
専門科目	医療社会学	必修	1年	○				
	ヒューマンコミュニケーション	必修	1年					○
	基礎医学一般	必修	1年			○		
	医療基礎論	必修	1年		○			
	医用工学Ⅰ（情報科学）	必修	1年	○				
	解剖生理学	必修	1年			○		
	診療画像技術Ⅰ（基礎）	必修	1年		○	○		
基礎分野	診療画像技術Ⅱ（単純撮影法）	必修	1年		○	○		
	医用画像情報Ⅰ（アナログ画像）	必修	1年		○			
専門科目	医用数学演習	必修	2年	○				
	医療関係論	必修	2年					○
	医学概論	必修	2年		○	○		
	病理学	必修	2年			○		
	放射線生物学Ⅰ	必修	2年		○			
	放射化学Ⅰ	必修	2年		○			
	放射線物理学Ⅰ	必修	2年		○			
	放射線物理学Ⅱ	必修	2年		○			
	医用工学Ⅱ（電気工学・電子工学）	必修	2年	○				
	医用工学実験	必修	2年	○				
	放射線計測学Ⅰ	必修	2年		○			
	診療画像技術Ⅲ（造影検査法）	必修	2年		○	○		
	診療画像技術Ⅳ（CT・MRI）	必修	2年		○	○		
	診療画像機器学Ⅰ	必修	2年		○			
	基礎診療画像技術学実習	必修	2年		○	○		○
	核医学検査技術学Ⅰ	必修	2年		○	○		
	放射線治療技術学Ⅰ	必修	2年				○	
	放射線管理学	必修	2年		○			
	放射線管理学実験Ⅰ	必修	2年		○			○
	臨床医学概論	必修	3年			○		
	臨床画像解剖学	必修	3年			○		
	放射線生物学Ⅱ	必修	3年		○			
	放射化学Ⅱ	必修	3年		○			
	放射線計測学Ⅱ	必修	3年		○			
	放射線計測学実験	必修	3年		○			○
	放射線物理学実験	必修	3年		○			○
	診療画像技術学実習Ⅰ	必修	3年		○	○		
	診療画像機器学Ⅱ	必修	3年		○			
	核医学検査技術学Ⅱ	必修	3年		○	○		
	核医学検査機器学	必修	3年		○	○		
	放射線治療技術学Ⅱ	必修	3年				○	
	放射線治療機器学	必修	3年				○	
	治療線量計測学	必修	3年				○	
	医用画像情報学Ⅱ（デジタル画像）	必修	3年		○	○		
	医用画像情報学実習	必修	3年		○			
	放射線管理学実験Ⅱ	必修	3年		○			
	関係法規	必修	3年		○			
	管理学・関係法規	必修	3年		○			
	診療画像技術学実習Ⅱ	必修	3年		○	○		○
	医療安全管理学	必修	3年		○			○
基礎分野	小論文概論	必修	4年					○
	基礎医学大要演習	必修	4年			○		○
専門科目	放射線生物学演習	必修	4年		○			
	放射化学演習	必修	4年		○			
	放射線物理学演習	必修	4年		○			
	医用工学演習	必修	4年	○				
	放射線計測学演習	必修	4年				○	
	医療基礎総合演習（含、公衆衛生）	必修	4年					○
	X線撮影技術学演習	必修	4年		○			
	診療画像検査学演習	必修	4年		○			
	診療画像機器学演習	必修	4年		○			
	核医学検査技術学演習	必修	4年			○		
	核医学検査機器学演習	必修	4年			○		
	放射線治療技術学演習	必修	4年				○	
	治療線量計測学演習	必修	4年				○	
	医用画像情報学演習	必修	4年		○			
	画像・放射線医学総合演習	必修	4年			○	○	
	管理学・関係法規演習	必修	4年		○			
	核医学・放射線治療学（臨床実習）	必修	4年			○	○	○
	特別研究	自由	4年					○

カリキュラムマップ

科目区分	科目名	必修・選択等 区分	配当年次	【診療放射線学科2019年度～2021年度入学生】ディプロマ・ポリシー				
				1 医療人として必要な基礎 知識を有し、地域社会に 貢献する意識を持つ。	2 放射線に関わる基本的知 識を有し、基本的技術を 実践できる。	3 放射線診断の基本的知識 を有し、医療技術を実践 できる。	4 放射線治療の基本的知識 を有し、医療技術を実践 できる。	5 自己管理能力を備え、 チーム医療に繋がる協働 性を保ちつつ、ときに リーダーシップを発 揮することができる。
基礎分野	生命倫理	選択	1年	○				
	医療統計学	選択	1年	○				
	ヘルスケアエデュケーション	選択	1年	○				
	医療心理学	選択	1年	○				○
	臨床心理学	選択	1年					○
	社会と医療	選択	1年	○				
	医療とボランティア	選択	1年	○				
	医療経済学	選択	1年	○				
	基礎医療法学	選択	1年	○				
	健康スポーツ	選択	1年	○				
	日本国憲法	選択	1年	○				
	TOEIC対策英語	選択	1年	○				
	生命と物質のサイエンス	選択	1年	○				
	チーム医療論	選択	1年	○				○
	医療界のワーク・ライフ学	選択	1年	○				
	コンタクトレンズの基礎	選択	1年	○				
	医療数理科学入門	選択	1年	○				
	地域健康管理学入門	選択	1年	○				
	新薬発見のケーススタディー	選択	1年	○				
	災害からの復活と公衆衛生	選択	1年	○				
	夢の薬物送達システム（DDS）	選択	1年	○				
	世界に羽ばたく医療人	選択	1年	○				
	グラフィック基礎	選択	1年	○				
	アカデミック・イングリッシュ	選択	1年	○				
	イングリッシュ・コミュニケーション	選択	1年	○				
	ヘルス・コミュニケーション	選択	1年	○				
	多文化社会論	選択	1年	○				
	音楽	選択	1年	○				
	研究倫理	選択	1年					○
	プレホスピタルケア概論	選択	1年	○				

主な学修内容(2016～2021 年度入学生)

1) 1 学年

我が国では安心して安全な医療の提供が昨今、国民から求められており、「医療の質の向上」が提言され、質の高い医療スタッフを医療現場に配置することの必要性が謳われています。このため医療技術の高度化にともなう高度先進医療やチーム医療の定着などに対して、より質の高い医療スタッフの養成が求められています。

放射線医療の領域においても医療の高度化、多様化が進むなかで、医療機器や医療技術の進展がなされる一方、医療事故が問題視されていますが、これらに対しても医療に対する技術面は勿論のこと、問題解決能力の育成、また患者に対する医療を志す者としての高い倫理観、ならびに国際的情報化時代への対応など、この領域における高度な学識、素養を身につけた専門家としての高い資質を有した診療放射線技師の養成が必要とされています。

このような社会背景を踏まえ、1 年次には基礎分野の「化学」「物理学」「数学」「生命倫理」「ヒューマンコミュニケーション」などの科目を通して、理論的思考力や自由で主体的な判断力、また医療従事者に不可欠な医療倫理観と生命の尊厳についての理解を育み、さらに「医療社会学」や「情報科学」などを通して国際化、および情報化社会に対応できる能力を幅広く養うことを目標とします。さらに、選択科目を履修することにより幅広い教養を身に付け、豊かな人間性を育みます。また、「基礎医学一般」「医療基礎論」「解剖生理学」「医用工学Ⅰ」「診療画像技術学Ⅰ・Ⅱ」「医用画像情報学」などの科目では、専門基礎分野・専門分野の学修の第一歩を踏み出すこととなります。

このように 1 年次に医療従事者を目指す大学生としての自覚、目的意識を持って教養課程を修学することにより、2 年次から学ぶ専門基礎課程、専門課程への修学体制を整えてください。

2) 2 学年

本学年より医療技術の背景となる知識、さらなる技術を修得すべく、専門基礎分野・専門分野の科目を履修します。

専門基礎分野としては、医学一般の知識を修得すべく「医学概論」を履修するとともに、その基礎となる「病理学」、ならびに救命救急医療、看護学、その他、関連医療領域について学ぶ「医療関係論」を履修します。さらに「放射線生物学」「放射化学」「放射線物理学」「医用工学」「放射線計測学」などの理工学的科目を引き続き学修します。実験科目としては「医用工学実験」が設けられています。

専門分野としては、診療放射線技師にとって必要不可欠な科目である「診療画像技術学」、「診療画像機器学」「核医学検査技術学」「放射線治療技術学」および「放射線管理学」などの講義、ならびに実習が設けられています。

これら医学、理工学、ならびに医療技術学全般に有用となるであろう基礎分野科目として「医用数学演習」も本学年に設けられています。

本学年は、診療放射線技師として修学すべき主要科目が多数設けられていることを念頭に置き、目的意識をもって講義、実習に臨んでください。

3) 3 学年

本学年は診療放射線技師としての基礎的学問の修得、さらにそれを深めて応用できるように努力する学年です。

専門基礎分野では、臨床医学の導入となる科目を履修します。健康な身体に関する知識を修得し、病態に対する理解力、観察力および判断力を養う「臨床医学概論」、診療放射線技師が扱う各種映像手法(モダリティ)の理論を修得する「臨床画像解剖学」を学びます。

理工学科目としては、2 年次で履修した「放射線生物学」「放射化学」「放射線計測学」を引き続き学修します。新たに実験科目として「放射線計測学実験」「放射線物理学実験」が設けられています。

専門分野としては、2 年次でも履修した「診療画像機器学」「核医学検査技術学」「放射線治療技術学」「医用画像情報学」、実験科目としては「放射線管理学実験」を引き続き学修します。新たに「核医学検査機器学」「放射線治療機器学」「治療線量計測学」が加わり、実習科目としては、診療放射線技師にとって重要な分野に位置づけられる「診療画像技術学実習」「医用画像情報学実習」を学びます。診療放射線技師として遵守しなければならない法律と管理に関する科目として「関係法規」「管理学・関係法規」が設けられています。上記の中で、実験・実習科目については、診療放射線技師になるための『実学』として大変重要です。

特に、本学年では座学の重要性もさることながら、放射線診断部門に関する病院での『診療画像技術学としての臨床実習』が用意されていることが2 年次までにはなかった重要な点です。臨床実習では、学内実習では得られない現場での実践の他、患者様への応対、さらにチーム医療に関する理解を深め、医療従事者としての心構えを身に付けることを目標とします。その一方で、各教科の理解や臨床実習での経験が、国家試験のための学修効果をより高めることは明白であり、相乗効果として座学と実学が融合し、放射線技術学全体の理解がより深まることが期待されます。

以上のように、本学年は診療放射線技師としての実学の核になる大切な学年であることを常に念頭において行動するよう心がけてください。

4) 4 学年

本学年は4 年制大学としての最終学年にあたり、診療放射線技師になるために必要不可欠である技師免許を取得すべく設けられている『診療放射線技師国家試験』が、また診療放射線技師として病院等に勤務するための『就職試験』が待ち受けており重要な年度と位置づけられます。

さらには、診療放射線技師職の集大成ともいえる3 年次に実施された『診療画像技術学としての臨地実習』に加えて、当学年では『核医学検査・放射線治療学としての臨床実習』が準備されています。

これらのことを視野に入れ、本学年では就職試験時などで有用となる「小論文概論」、専門基礎分野の「基礎医学大要演習」をはじめとする7 科目、専門分野の「X線撮影技術学演習」をはじめとした11 科目の計19 科目が必修となっています。

これらの科目は『国家試験』、『就職試験』を確実に突破するために必要となること、また将来の研究活動に参考となります。

2 年次、3 年次と学修してきたことに加えて、当学年でしっかりと研鑽することにより診療放射線技師として、医療従事者としての技術、知識を高めてください。

授業科目履修一覧表 (2016～2021年度以降入学生)

第1学年

	授業科目名	単位数	科目責任者	履修方法
基 礎 分 野	化学Ⅰ	2	渡 部 正 彦	1科目2単位以上 選択必修
	化学Ⅱ	2	渡 部 正 彦	
	物理学Ⅰ	2	古徳純一・藤代尚文	1科目2単位以上 選択必修
	物理学Ⅱ	2	古徳純一・藤代尚文	
	数学Ⅰ	2	三 橋 俊 文	1科目2単位以上 選択必修
	数学Ⅱ	2	三 橋 俊 文	
	化学実験	1	押 鐘 浩 之	7科目11単位必修
	物理学実験	1	伊 藤 健 吾	
	医学英語	1	井 谷 善 恵	
	英語	2	齋 藤 智 恵	
	情報科学	2	水上拓哉・中村肇	
	医療社会学	2	大 滝 恭 弘	
	ヒューマンコミュニケーション	2	菱 木 清	
	医療統計学	2	宮 田 敏	2科目4単位以上選択
	ヘルスケアエデュケーション	2	高 柳 妙 子	
	医療心理学	2	田 代 信 久	
	※2 臨床心理学	2	田 代 信 久	
	社会と医療	2	皆 吉 淳 平	
	医療とボランティア	2	崎 坂 香 屋 子	
	医療経済学	2	岩 崎 淳	
	基礎医療法学	2	大 滝 恭 弘	
	健康スポーツ	1	中村雅年・津坂佳代	
	日本国憲法	2	大滝恭弘・加藤大裕	
	TOEIC対策英語	2	クロージャーきよみ	
	生命と物質のサイエンス	2	大 胡 恵 樹	
	※6 チーム医療論	1	楯 直 子	
	※5 医療界のワーク・ライフ学	1	大 久 保 由 美 子	
	コンタクトレンズの基礎	1	佐 々 木 翔	
	※3 医療数理科学入門	2	森 川 馨	
	地域健康管理学入門	2	渡 邊 清 高	
	新薬発見のケーススタディー	1	青 山 晃 治	
	災害からの復活と公衆衛生	2	加 藤 美 生	
	※4 夢の薬物送達システム(DDS)	1	丸 山 一 雄	
	世界に羽ばたく医療人	2	河 内 正 治	
	※2 グラフィック基礎	2	恵 晋 一	
	※2 アカデミック・イングリッシュ	2	山 村 朋 子	
	※2 イングリッシュ・コミュニケーション	2	齋 藤 智 恵	
	※2 ヘルス・コミュニケーション	2	橋 本 章 子	
	※1 多文化社会論	2	齋 藤 智 恵	
	※1 音楽	2	小 出 英 樹	
非 開 講	健康づくり演習	2	2015～2016年度入学生向け	
	医療数理科学入門Ⅱ	2	2015～2016年度入学生向け	
	くすりを理解するための有機化学	2	2015～2018年度入学生向け	
	英語演習	2	2016～2018年度入学生向け	
	生命倫理	2	—	
	研究倫理	2	—	
	プレホスピタルケア概論	1	—	
専門基礎 分野	基礎医学一般	1	山 崎 丘	4科目5単位必修
	医療基礎論	1	菱 木 清	
	医用工学Ⅰ(情報科学)	1	石 橋 徹	
	解剖生理学	2	太 田 樹	
専門分野	診療画像技術学Ⅰ(基礎)	2	曾 我 部 和 美	3科目5単位必修
	診療画像技術学Ⅱ(単純撮影法)	2	伊 東 利 宗	
	医用画像情報学Ⅰ(アナログ画像)	1	小 島 慎 也	
第1学年履修単位数合計				31単位

※1 2019年度入学生より ※2 2017年度入学生より ※3 2016年度入学生までは「医療数理科学入門Ⅰ」 ※4 2018年度入学生までは「夢のDDS」
 ※5 2018年度入学生までは「医療界の男女共同参画社会の構築とキャリアデザイン」 ※6 2018年度以前に修得した場合は2単位

授業科目履修一覽表 (2016～2021年度以降入学生)

第2学年

	授業科目名	単位数	科目責任者	履修方法
基礎分野	医用数学演習	1	小 島 慎 也	1科目1単位必修
専門基礎分野	医療関係論	1	岡 本 孝 英	10科目13単位必修
	医学概論	2	太 田 樹	
	病理学	1	望 月 眞	
	放射線生物学 I	1	鈴 木 崇 彦	
	放射化学 I	1	富 沢 比 呂 之	
	放射線物理学 I	1	小 林 毅 範	
	放射線物理学 II	2	小 林 毅 範	
	医用工学 II (電気工学・電子工学)	2	大 松 将 彦	
	医用工学実験	1	小 林 毅 範	
	放射線計測学 I	1	大 谷 浩 樹	
専門分野	診療画像技術学Ⅲ(造影検査法)	4	曾 我 部 和 美	8科目21単位必修
	診療画像技術学Ⅳ(CT・MRI)	4	藤 原 政 雄	
	診療画像機器学 I	4	大 松 将 彦	
	核医学検査技術学 I	4	神長達郎・横塚記代	
	放射線治療技術学 I	1	菱 木 清	
	放射線管理学	1	高 橋 信 喜	
	放射線管理学実験 I	1	藤 原 政 雄	
	基礎診療画像技術学実習	2	大 谷 浩 樹	
第2学年履修単位数合計				35単位

診療放射線

授業科目履修一覧表 (2016～2021年度以降入学生)

第3学年

	授業科目名	単位数	科目責任者	履修方法
専門基礎分野	臨床医学概論	2	太田 樹	7科目12単位必修
	臨床画像解剖学	2	林 達也	
	放射線生物学Ⅱ	2	鈴木 崇彦	
	放射化学Ⅱ	2	富沢 比呂之	
	放射線計測学Ⅱ	2	古徳 純一	
	放射線計測学実験	1	大谷 浩樹	
	放射線物理学実験	1	小林 毅範	
専門分野	診療画像技術学実習Ⅰ	1	林 達也	14科目24単位必修
	診療画像機器学Ⅱ	2	大松 将彦	
	核医学検査技術学Ⅱ	2	平木 仁史	
	核医学検査機器学	1	平木 仁史	
	放射線治療技術学Ⅱ	2	菱木 清	
	放射線治療機器学	2	大谷 浩樹	
	治療線量計測学	2	古徳 純一	
	医用画像情報学Ⅱ(デジタル画像)	2	岡本 孝英	
	医用画像情報学実習	2	小島 慎也	
	放射線管理学実験Ⅱ	1	高橋 信喜	
	関係法規	1	高橋 信喜	
	管理学・関係法規	1	高橋 信喜	
	診療画像技術学実習Ⅱ	4	菱木 清	
	医療安全管理学	1	松島 明里	
第3学年履修単位数合計				36単位

授業科目履修一覧表 (2016～2021年度以降入学生)

第4学年

	授業科目名	単位数	科目責任者	履修方法
基礎分野	小論文概論	1	加 藤 健 司	1科目 1単位必修
専門基礎分野	基礎医学大要演習	1	大 澤 美 由 紀	7科目7単位必修
	放射線生物学演習	1	鈴 木 崇 彦	
	放射化学演習	1	富 沢 比 呂 之	
	放射線物理学演習	1	小 林 毅 範	
	医用工学演習	1	大 松 将 彦	
	放射線計測学演習	1	大 谷 浩 樹	
	医療基礎総合演習(含、公衆衛生)	1	太 田 樹	
専門分野	X線撮影技術学演習	2	曾 我 部 和 美	11科目15単位必修
	診療画像検査学演習	1	林 達 也	
	診療画像機器学演習	1	小 林 毅 範	
	核医学検査技術学演習	1	横 塚 記 代	
	核医学検査機器学演習	1	横 塚 記 代	
	放射線治療技術学演習	1	菱 木 清	
	治療線量計測学演習	1	古 徳 純 一	
	医用画像情報学演習	1	石 橋 徹	
	画像・放射線医学総合演習	1	岡 本 孝 英	
	管理学・関係法規演習	1	高 橋 信 喜	
	核医学・放射線治療学(臨床実習)	4	大 松 将 彦	
	特別研究	4	岡 本 孝 英	自由選択
第4学年履修単位数合計				23単位

卒業に必要な修得単位数	125単位
-------------	-------

進級および卒業について(2016～2021 年度入学生)

進 級

1. 進級の判定は、学年末に開かれる会議において行われる。
2. 2 学年への進級要件は、1 年次の基礎分野の必修科目 11 単位、選択必修科目 6 単位以上および選択科目 4 単位以上、専門基礎分野の必修科目 5 単位、専門分野の必修科目 5 単位、合計 31 単位以上を修得していること。
3. 3 学年への進級要件は、2 年次の基礎分野の必修科目 1 単位、専門基礎分野の必修科目 13 単位、専門分野の必修科目 21 単位、合計 35 単位以上（1 年次、2 年次合計 66 単位以上）を修得していること。
4. 4 学年への進級要件は、3 年次の専門基礎分野の必修科目 12 単位、専門分野の必修科目 24 単位、合計 36 単位以上（1 年次、2 年次、3 年次までの合計 102 単位以上）を修得していること。

卒 業

1. 4 年以上在学し、卒業に必要な単位を修得することにより、学年末に開かれる教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学士(医療技術学)の学位が授与される。
2. 卒業要件は、基礎分野の必修科目 13 単位、選択必修科目 6 単位以上および選択科目 4 単位以上、合計 23 単位以上、専門基礎分野の必修科目 37 単位、専門分野の必修科目 65 単位、総合計 125 単位以上を修得していること。

臨床検査学科履修要項

〔2022 年度入学生〕

修得目標・カリキュラムマップ	臨 2
主な学修内容	臨 5
授業科目履修一覧表	臨 7
進級および卒業について	臨 11
臨地実習の履修条件	臨 11

修得目標 臨床検査学科

学科の修得目標		全学の修得目標	4要素
レベル1	レベル2		
A 医療の基礎となる医学・語学・医の倫理・社会学の基本的知識を説明できる	1 医療人としての倫理的問題を認識し、倫理的原則に基づいての意見が主張できる	自律・自立して学修できる	態度・志向性
	2 他者の個人、文化、社会的背景を説明できる	海外との交流を積極的に行う姿勢を有する	態度・志向性
	3 社会的、環境的要因や生活習慣と疾病の関係に関する知識を有している		知識・理解
	4 医療人に必要な保健、医療、福祉と介護の制度に関する知識を有している	修得した知識・技術で自分の力として行動し、その結果に責任を持つ	態度・志向性
	5 人の死に関する法規や臨床検査技師の業務に関する法規や制度の知識を有している	修得した知識・技術で自分の力として行動し、その結果に責任を持つ	態度・志向性
	6 医学英語を活用した情報収集ができ、その情報を説明できる	多様な情報を収集・分析して適正に判断し、効果的に活用できる	汎用的技能
	7 多文化・異文化を踏まえて共感、支援的態度を示す論議ができる	多文化・異文化に関する知識をもって物事を判断することができる	知識・理解
B 臨床検査の基礎となる自然科学の基本的知識を説明できる	8 人文科学、社会科学、自然科学にわたる幅広い知識を理解した上で専門知識の学びを進める	人文科学、社会科学、自然科学について幅広い関心と知識を有する	知識・理解
	9 環境の健康への影響を科学的に説明できる		知識・理解
	10 代表的な疾患の原因を科学的に説明できる	常に情報を収集し、それらを基に自分なりの考えを発信できる	汎用的技能
	11 重要な病原微生物についての知識を有している		知識・理解
	12 臨床検査で用いる化学物質とその安全な取り扱いについての知識を有している		知識・理解
	13 統計学に関する基本的知識を有しており、医療統計解析や精度管理に活用できる	常に情報を収集し、それらを基に自分なりの考えを発信できる	汎用的技能
C 臨床検査で行われる生体材料の検査を実践することができ、そのための専門知識や技術を説明できる	14 適切な検体の採取、取り扱い、標本の作成ができる		知識・理解
	15 臨床検査で行われる代表的な検体検査ができる		知識・理解
	16 臨床検査に必要な病原微生物の取り扱いができる		知識・理解
	17 検体検査で必要となる機器、器具を取り扱うことができる		知識・理解
	18 代表的な疾患と診断に必要な検体検査および検体検査所見との関連性を説明できる	自分の得意分野を見つけ、個性として昇華させることができる	態度・志向性
D 生理機能検査技術を実践する能力を有するとともに、臨床検査で行われる医療工学の知識を説明できる	19 生理機能検査に必要な生理学の知識を有している		知識・理解
	20 臨床検査に必要な医用工学に関する知識を有している		知識・理解
	21 代表的な疾患と診断に必要な生理機能検査および生理機能検査所見との関連性を説明できる		知識・理解
	22 生理機能検査で必要となる機器、器具を取り扱うことができる		知識・理解
	23 患者一人ひとりに適した生理機能検査を実践できる	自分の得意分野を見つけ、個性として昇華させることができる	態度・志向性
E 臨床検査の知識をもとにチーム医療の現場に適応していくことができるとともに、社会に貢献するための基礎となる知識を有し、将来の進歩や変化に対応することができる	24 チーム医療でチームメンバーとして自分の意見を主張できる	協働作業によって新たなものを構築することができる	態度・志向性
	25 良好な人間関係を築くため、コミュニケーション・スキルを活用できる	口頭・書面によるコミュニケーション・プレゼンテーションの能力を有する	汎用的技能
	26 臨床検査医学および臨床検査技術の発展の基礎となる科学的問題を説明することができ、改善に向けての論議ができる	獲得した資質・能力を総合的に活用し、自らが立てた課題にそれらを適用することで解決することができる	統合的な学習経験と創造的思考力
	27 科学的な根拠を基盤として環境衛生の保全、食品の衛生管理について説明できる	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理することで解決できる	汎用的技能
	28 地域における疾病予防、健康増進、プライマリケアについて説明できる	他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる	態度・志向性
	29 患者、医療従事者の安全管理、院内感染対策について説明できる	実社会の出来事について自ら学び、吸収することができる	汎用的技能

カリキュラムマップ

科目区分		科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【臨床検査学科2022年度入学生】修得目標 レベル1：A～E／レベル2：1～2 9																													
					A							B							C						D					E				
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
基礎分野	化学Ⅰ	必修	1年									○																						
	化学Ⅱ	必修	1年									○																						
	生命科学Ⅰ	必修	1年									○																						
	生命科学Ⅱ	必修	1年									○																						
	医療基礎論	必修	1年	○																											○	○		
	医学概論	必修	1年	○																											○	○		
	化学実験	必修	1年									○																						
	生命科学実験	必修	1年									○																						
	英語	必修	1年								○	○																						
	情報科学	必修	1年			○	○					○	○																					
ヒューマンコミュニケーション	必修	1年		○	○																								○	○				
医療社会学	必修	1年		○	○	○	○	○			○																					○		
専門科目	人体の構造と機能	必修	1年									○	○	○											○							○		
	ライフデザイン演習Ⅰ	必修	1年		○	○	○	○	○			○																○	○	○				
	生理解査学Ⅰ	必修	1年									○	○	○	○								○	○	○	○	○							
	微生物検査学総論	必修	1年									○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○			○	○	○	○	
基礎分野	医学英語	必修	2年								○	○																						
	生理学実習	必修	2年																				○	○	○	○	○				○			
	病理検査学Ⅰ	必修	2年									○	○	○	○	○		○	○		○	○												
	病理検査学実習Ⅰ	必修	2年		○					○		○	○	○	○	○		○	○		○	○								○				
	病理学	必修	2年									○	○	○	○	○		○	○		○	○												
	生化学	必修	2年									○	○	○	○																○			
	生化学実習	必修	2年									○	○	○																				
	ライフデザイン演習Ⅱ	必修	2年		○	○	○	○	○			○																○	○	○				
	解剖・病理学実習	必修	2年		○						○		○	○	○	○		○	○	○	○	○												
	臨床検査総論（実習含む）	必修	2年		○	○				○		○	○	○	○	○		○	○		○	○											○	
専門科目	血液検査学Ⅰ	必修	2年									○	○	○	○			○	○		○	○												
	生化学検査学Ⅰ	必修	2年									○	○	○	○			○	○		○	○												
	微生物検査学Ⅰ	必修	2年									○	○	○	○	○		○	○	○	○	○								○	○			
	微生物学実習	必修	2年									○	○	○	○			○	○	○	○	○								○	○			
	免疫検査学	必修	2年									○	○	○	○		○	○	○	○	○	○									○			
	免疫検査学実習	必修	2年									○	○	○	○			○	○		○	○												
	輸血・移植免疫検査学Ⅰ	必修	2年									○	○	○	○			○	○		○	○												
	生理解査学Ⅱ	必修	2年									○	○	○	○								○	○	○	○	○				○			
	検査機器学	必修	2年																				○	○	○	○								
	薬理学	必修	2年										○	○	○	○																		
基礎分野	小論文概論	自由	3年		○	○	○	○			○	○																						
	公衆衛生学	必修	3年		○	○	○	○	○																									
	医用工学概論	必修	3年																															
	医用工学概論実習	必修	3年																															
	認知症検査学	必修	3年		○	○	○	○	○			○		○									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	臨床栄養学	必修	3年										○	○	○	○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ライフデザイン演習Ⅲ	必修	3年		○	○	○	○	○			○																	○	○	○	○	○	
	臨床病態学	必修	3年										○	○	○	○																		
	寄生虫検査学（実習含む）	必修	3年									○	○	○	○	○		○	○	○		○									○			
	血液検査学Ⅱ	必修	3年									○	○	○	○			○	○	○		○	○											
専門科目	血液検査学実習	必修	3年								○	○	○	○			○	○	○		○	○												
	病理検査学Ⅱ	必修	3年									○	○	○	○			○	○	○		○	○											
	病理検査学実習Ⅱ	必修	3年									○	○	○	○			○	○	○		○	○											
	病理検査学実習Ⅱ	必修	3年		○							○	○	○	○	○		○	○	○		○	○											
	遺伝子・染色体検査学（実習含む）	必修	3年									○	○	○	○			○	○	○		○												
	生化学検査学Ⅱ（放射線科学含む）	必修	3年									○	○	○	○			○	○	○		○												
	生化学検査学実習	必修	3年									○	○	○	○			○	○	○		○												
	輸血・移植免疫検査学Ⅱ	必修	3年									○	○	○	○			○	○	○		○	○											
	輸血・移植免疫検査学実習	必修	3年									○	○	○	○			○	○	○		○	○											
	生理解査学Ⅲ（画像検査学含む）	必修	3年									○	○	○	○								○	○	○	○	○							
専門科目	生理解査学Ⅳ	必修	3年									○	○	○	○								○	○	○	○	○							
	生理解査学実習	必修	3年									○	○	○	○								○	○	○	○	○							
	臨床検査総合管理学	必修	3年														○	○																
	関係法規・保健医療福祉概論	必修	3年		○	○			○	○																								
	臨床検査特論Ⅰ	必修	3年		○			○	○	○			○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○				○	○	○	
	微生物検査学Ⅱ	必修	3年									○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○				○	○	○	
	微生物検査学実習	必修	3年									○	○	○	○	○		○	○	○	○	○								○	○			
	医療安全管理学（実習含む）	必修	3年										○	○																			○	
	健康食品学	自由	3年										○	○	○	○	○															○		
	健康食品関係法規学	自由	3年										○	○	○	○	○															○		
ライフデザイン演習Ⅳ	必修	4年		○	○	○	○	○			○																○	○	○					
病態解析演習	必修	4年										○	○	○	○	○															○			
臨地実習	必修	4年			○							○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○		
臨床検査特論Ⅱ	必修	4年						○	○			○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
細胞検査士特論	自由	4年									○						○																	
特別研究	自由	4年									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

カリキュラムマップ

科目区分	科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【1年共通科目2022年度入学生】修得目標 レベル1：A～E／レベル2：1～29																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
				A							B							C							D					E																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
基礎分野	チーム医療論	選択	1年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									

主な学修内容(2022 年度入学生)

1) 1 学年

化学、生命科学、医用数学、英語などの基礎教養分野の必修科目（実験を含む）とともに、さまざまな分野から科目を選択して履修し、幅広い見識を高めることを目標とする。また必修科目である「医療基礎論」と「医学概論」は、両科目とも、将来医療人として必要な基礎知識や心構えを教育することに重点が置かれている。両科目に重複する内容項目も少なくないが、同じ内容項目であっても、講義する教員によって物の見方や考え方が異なるものであるということを実感し、大学における専門教育とは、高校時代までの学習とは違って、必ずしも答えは一つとは限らないことを、この機会に銘記しておいて貰いたい。教員ごとの講義内容の相違点や類似点を把握して、自分の力で主体的に捉え直す訓練が大切である。必修科目である「生理検査学Ⅰ」では、臨床検査に必要な体のしくみと機能について、「人体の構造と機能」では、人体を構成する器管、組織、細胞の正常の形態と機能について学ぶ。基本的な人体のしくみや働きを学ぶことは2年時の専門基礎科目、専門科目を理解する上で重要である。2年次の専門科目に興味をもって取り組むうえで必要となる土台を築くのが1年次の学習のポイントとなる。

2) 2 学年

「病理検査学Ⅰ」、「生化学」、「病理学」などの専門基礎分野と臨床検査学の第一段階として「臨床検査総論」、「血液検査学Ⅰ」、「生化学検査学Ⅰ」、「微生物検査学Ⅰ」、「免疫検査学」、「生理検査学Ⅱ」、「検査機器学」などの専門分野の必修科目（実習を含む）を履修する。まず正常なヒトの臓器別の形態と機能を十分に理解し記憶するとともに、これら臓器の連携した働きの上に生命の営みが成り立っていることを理解する。また、「生化学」、「病理学」といった従来の基礎医学的内容をしっかりと学ぶことにより、「生化学検査学Ⅰ」、「微生物検査学Ⅰ」、「免疫検査学」などの専門分野にも入りやすくなる。そしてさらに、臨床に即した検査学的内容へと進んでいく上で必要となる土台を築くのが2学年の学習のポイントとなる。とくに前期において自らの到達度をよく認識し、疑問点を早期に解決しながら、後期のより発展的内容と実習に対応できるように準備していく。実習では、講義で学んだ知識を整理し、実践的な手技を身に付ける。このほか、「医学英語」では臨床検査技師として必要とされる英語力の基礎を学ぶ。

3) 3 学年

2年次に履修した専門基礎分野をさらに発展させて、「臨床病態学」、「寄生虫検査学」、「血液検査学Ⅱ」、「病理検査学Ⅱ」、「遺伝子・染色体検査学」、「生化学検査学Ⅱ」、「生理検査学Ⅲ」、「臨床検査総合管理学」など、実地臨床に求められる専門分野の必修科目（実習を含む）を履修する。3学年では基礎医学をゆっくりと修得する時期であるという意識ではなく、より実践的な臨床検査学的事項を、将来の専門性を意識して学ぶ気持ちが大事である。3学年までに各人が修得した知識・技能が臨床検査学の理解度を決定する。1、2学年の学習状況の良否が各自のその後の学習効果に大きく影響することになるので、より高度な臨床的内容を理解する能力を身につけるよう心がけるべきである。

4) 4 学年

3 年生までに履修した科目の総仕上げの時期であり、グループごとに分かれて実習病院で臨地実習を行なう。臨地実習においては臨床検査の現場で必要となる知識・技能だけでなく、医療従事者に求められる社会性・倫理性、さらに自己管理能力を身につけることも大切である。「臨床検査特論Ⅱ」では国家試験に向けての準備を行う。また余裕のある学生のために細胞検査士特論コース（ただし本学の細胞検査士特論コースを履修しても、日本臨床細胞学会による細胞検査士資格認定試験の受験資格を卒業と同時に得られるものではない）と特別研究コースの自由選択科目も設ける。

授業科目履修一覧表 (2022年度入学生)

第1学年

	授業科目名	単位数	科目責任者	履修方法
基	化学Ⅰ	2	渡 部 正 彦	12科目19単位 必修
	化学Ⅱ	2	渡 部 正 彦	
	生命科学Ⅰ	2	大 石 昇	
	生命科学Ⅱ	2	大 石 昇	
	医療基礎論	1	福 田 晃 子	
	医学概論	1	増 山 里 枝 子	
	化学実験	1	渡 部 正 彦	
	生命科学実験	1	大 石 昇	
	英語	2	齋 藤 智 恵	
	情報科学	1	難波純也・中村肇	
	ヒューマンコミュニケーション	2	増山里枝子・宮田佳奈	
	医療社会学	2	神 田 知 江 美	
	チーム医療論	1	楯 直 子	
礎	コンタクトレンズの基礎	1	佐 々 木 翔	2科目4単位 以上選択
	新薬発見のケーススタディー	1	青 山 晃 治	
	医療界のワーク・ライフ学	1	大 久 保 由 美 子	
	夢の薬物送達システム (DDS)	1	丸 山 一 雄	
	医療統計学	2	鈴 木 明 日 香	
	ヘルスケアエデュケーション	2	高 柳 妙 子	
	社会と医療	2	皆 吉 淳 平	
	医療とボランティア	2	西 原 三 佳	
	医療経済学	2	岩 崎 淳	
	基礎医療法学	2	大 滝 恭 弘	
	生命と物質のサイエンス	2	大 胡 恵 樹	
	地域健康管理学入門	2	渡 邊 清 高	
	災害からの復活と公衆衛生	2	加 藤 美 生	
	世界に羽ばたく医療人	2	河 内 正 治	
	TOEIC対策英語	2	西 本 公 一	
分	ヘルス・コミュニケーション	2	橋 本 章 子	
	医療数理科学入門	2	森 川 馨	
	グラフィック基礎	2	恵 晋 一	
	アカデミック・イングリッシュ	2	山 村 朋 子	
	イングリッシュ・コミュニケーション	2	齋 藤 智 恵	
	多文化社会論	2	齋 藤 智 恵	
	日本国憲法	2	大 滝 恭 弘	
	医療心理学	2	田 代 信 久	
	臨床心理学	2	田 代 信 久	
	健康スポーツ	1	中村雅年・津坂佳代	
	健康スポーツ	1	中村雅年・津坂佳代	
	健康スポーツ	1	中村雅年・津坂佳代	
	健康スポーツ	1	中村雅年・津坂佳代	
専門基礎 分野	人体の構造と機能	2	鈴 木 幸 一	1科目2単位必修
専門分野	ライフデザイン演習Ⅰ	1	松 村 充	3科目5単位必修
	生理検査学Ⅰ	2	崎 原 こ と え	
	微生物検査学総論	2	鈴 木 幸 一	
第1学年履修単位数合計				30単位

授業科目履修一覧表 (2022年度入学生)

第2学年

	授業科目名	単位数	科目責任者	履修方法
基礎分野	医学英語	1	咲 間 妙 子	1科目1単位 必修
専門基礎分野	生理学実習	1	崎 原 こ と え	6科目11単位 必修
	病理検査学Ⅰ	2	宮 田 佳 奈	
	病理検査学実習Ⅰ	1	宮 田 佳 奈	
	病理学	4	望 月 眞	
	生化学	2	赤 間 剛	
	生化学実習	1	赤 間 剛	
専門分野	ライフデザイン演習Ⅱ	1	松 村 充	13科目21単位 必修
	解剖・病理学実習	1	望 月 眞	
	臨床検査総論（実習含む）	2	藤 原 孝 記	
	血液検査学Ⅰ	2	福 田 晃 子	
	生化学検査学Ⅰ	2	後 藤 真 里	
	微生物検査学Ⅰ	2	松 村 充	
	微生物学実習	1	松 村 充	
	免疫検査学	2	黒 田 雅 顕	
	免疫検査学実習	1	黒 田 雅 顕	
	輸血・移植免疫検査学Ⅰ	2	藤 原 孝 記	
	生理検査学Ⅱ	2	咲 間 妙 子	
	検査機器学	2	黒 田 雅 顕	
	薬理学	1	中 木 敏 夫	
第2学年履修単位数合計				33単位

授業科目履修一覧表 (2022年度入学生)

第3学年

	授業科目名	単位数	科目責任者	履修方法
基礎分野	小論文概論	1	加藤 健 司	1科目1単位 自由選択
専門基礎分野	公衆衛生学	2	後藤 一 雄	5科目7単位 必修
	医用工学概論	2	咲間妙子・崎原ことえ	
	医用工学概論実習	1	咲間妙子・崎原ことえ	
	認知症検査学	1	増山 里 枝 子	
	臨床栄養学	1	貝原 奈 緒 子	
専門分野	ライフデザイン演習Ⅲ	1	松 村 充	20科目35単位 必修
	臨床病態学	2	望 月 眞	
	寄生虫検査学（実習含む）	2	松 村 充	
	血液検査学Ⅱ	2	福 田 晃 子	
	血液検査学実習	1	福 田 晃 子	
	病理検査学Ⅱ	2	宮 田 佳 奈	
	病理検査学実習Ⅱ	1	宮 田 佳 奈	
	遺伝子・染色体検査学（実習含む）	2	後藤 一 雄	
	生化学検査学Ⅱ（放射線科学含む）	2	赤 間 剛	
	生化学検査学実習	1	後藤 真 里	
	輸血・移植免疫検査学Ⅱ	1	藤 原 孝 記	
	輸血・移植免疫検査学実習	1	藤 原 孝 記	
	生理検査学Ⅲ（画像検査学含む）	2	増山 里 枝 子	
	生理検査学Ⅳ	1	増山 里 枝 子	
	生理検査学実習	2	咲間妙子・崎原ことえ	
	臨床検査総合管理学	4	黒 田 雅 顕	
	関係法規・保健医療福祉概論	1	咲 間 妙 子	
	臨床検査特論Ⅰ	2	鈴 木 幸 一	
	微生物検査学Ⅱ	2	松 村 充	
	微生物検査学実習	1	松 村 充	
	医療安全管理学（実習含む）	2	松 村 充	
	健康食品学	1	貝原 奈 緒 子	2科目2単位 自由選択
	健康食品関係法規学	1	松 村 充	
第3学年履修単位数合計				42単位

授業科目履修一覧表 (2022年度入学生)

第4学年

	授業科目名	単位数	科目責任者	履修方法
専門分野	ライフデザイン演習Ⅳ	1	松 村 充	4科目20単位 必修
	病態解析演習	1	望 月 眞	
	臨地実習	12	増山里枝子・黒田雅顕	
	臨床検査特論Ⅱ	6	滝 川 一	
	細胞検査士特論	4	宮 田 佳 奈	2科目8単位 自由選択
	特別研究	4	藤 原 孝 記	
第4学年履修単位数合計				20単位

卒業に必要な修得単位数	125単位
-------------	-------

進級および卒業について（2022 年度入学生）

進 級

1. 進級の判定は、学年末に開かれる会議において行われる。
2. 2 学年への進級要件は、1 年次の基礎分野の必修科目 19 単位および選択科目 4 単位以上、専門基礎分野の必修科目 2 単位、専門分野の必修科目 5 単位、合計 30 単位以上を修得していること。
3. 3 学年への進級要件は、2 年次の基礎分野の必修科目 1 単位、専門基礎分野の必修科目 11 単位、専門分野の必修科目 21 単位、合計 33 単位（1 年次、2 年次合計 63 単位以上）を修得していること。
4. 4 学年への進級要件は、3 年次の専門基礎分野の必修科目 7 単位、専門分野の必修科目 35 単位、合計 42 単位（1 年次、2 年次、3 年次合計 105 単位以上）を修得していること。

卒 業

1. 4 年以上在学し、卒業に必要な単位を修得することにより、学年末に開かれる教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学士(医療技術学)の学位が授与される。
2. 卒業要件は、基礎分野の必修科目 20 単位および選択科目 4 単位以上、合計 24 単位以上、専門基礎分野の必修科目 20 単位、専門分野の必修科目 81 単位、総合計 125 単位以上を修得していること。

臨地実習の履修条件

基礎分野、専門基礎分野、専門分野の 3 年次までに開講されるすべての必修科目および規定数以上の選択科目、合計 105 単位以上を修得または修得見込みであること。

臨床検査学科履修要項

〔2016～2021 年度入学生〕

カリキュラムマップ	臨 14
主な学修内容	臨 16
授業科目履修一覧表	臨 18
進級および卒業について	臨 22
臨地実習の履修条件	臨 22

カリキュラムマップ

科目区分	科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【臨床検査学科2019年度～2021年度入学生】ディプロマ・ポリシー				
				1 医療の基礎となる医学・薬学・倫理学・社会学の基本的知識を説明できる。	2 臨床検査の基礎となる自然科学の基本的知識を説明できる。	3 臨床検査で行われる生体材料の検査を実施することができ、そのための専門知識や技術を説明できる。	4 生理機能検査技術を実施する能力を有するとともに、臨床検査で行われる医療工学の知識を説明できる。	5 臨床検査の知識をもとにチーム医療の環境に適合していくことができるとともに、社会に貢献するための基礎となる知識を有し、将来の進歩や変化に対応することができる。
基礎分野	化学Ⅰ	必修	1年		○			
	化学Ⅱ	必修	1年		○			
	生命科学Ⅰ	必修	1年		○			
	生命科学Ⅱ	必修	1年		○			
	医用数学	必修	1年		○			
	医療基礎論	必修	1年	○				
	医学概論	必修	1年	○				
	化学実験	必修	1年		○			
	生命科学実験	必修	1年		○			
	英語	必修	1年	○				
	情報科学	必修	1年		○			
専門科目	ヒューマンコミュニケーション	必修	1年					○
	医療社会学	必修	1年	○				
	人体の構造と機能	必修	1年		○			
	臨床生理学Ⅰ	必修	1年				○	
基礎分野	微生物学総論	必修	1年		○			
	統計学	必修	2年		○			
	医学英語	必修	2年	○				
専門科目	解剖学実習	必修	2年	○				
	生理学実習	必修	2年				○	
	組織細胞学	必修	2年			○		
	組織細胞学実習	必修	2年			○		
	病理学	必修	2年		○			
	生化学	必修	2年		○			
	生化学実習	必修	2年			○		
	病理検査学実習	必修	2年			○		
	臨床検査総論	必修	2年			○		
	臨床検査総論実習	必修	2年					
	血液情報解析学	必修	2年			○		
	臨床化学Ⅰ	必修	2年			○		
	臨床微生物検査学Ⅰ	必修	2年			○		
	微生物検査学実習	必修	2年			○		
	免疫検査学Ⅰ	必修	2年			○		
	免疫検査学Ⅱ	必修	2年			○		
	臨床生理学Ⅱ	必修	2年				○	
	臨床病理学Ⅰ	必修	2年			○		
	検査機器学	必修	2年				○	
	薬理学	選択	2年		○			
	分析化学	選択	2年		○			
基礎分野	実験動物学	選択	2年			○		
	小論文概論	自由	3年					○
	公衆衛生学	必修	3年	○				
専門科目	病理学特論	必修	3年		○			
	臨床化学概論	必修	3年			○		
	医用電子工学	必修	3年				○	
	医用電子工学実習	必修	3年				○	
	ヒューマンエラーと危機管理学	必修	3年					○
	チーム医療演習	必修	3年					○
	臨床病理学Ⅱ	必修	3年			○		
	寄生虫検査学（実習含む）	必修	3年			○		
	血液検査学	必修	3年			○		
	血液検査学実習	必修	3年			○		
	臨床細胞学	必修	3年			○		
	臨床細胞学実習	必修	3年			○		
	遺伝子検査学	必修	3年			○		
	遺伝子検査学実習	必修	3年			○		
	放射線科学	必修	3年		○			
	臨床化学Ⅱ	必修	3年			○		
	臨床化学実習	必修	3年			○		
	免疫検査学実習	必修	3年			○		
	臨床生理学Ⅲ（画像検査学含む）	必修	3年				○	
	生理検査学実習	必修	3年				○	
	検査管理学	必修	3年					○
	関係法規・保健医療福祉概論	必修	3年					○
	臨床検査特論Ⅰ	必修	3年			○	○	
	臨床微生物検査学Ⅱ	必修	3年			○		
	臨床微生物検査学実習	必修	3年			○		
	医療安全管理学（実習含む）	必修	3年					○
	健康食品学	自由	3年	○				
	健康食品関係法規学	自由	3年	○				
専門科目	病態解析演習	必修	4年			○	○	
	臨地実習	必修	4年					○
	臨床検査特論Ⅱ	必修	4年			○	○	
	細胞検査士特論	自由	4年			○		
	特別研究	自由	4年					○

カリキュラムマップ

科目区分	科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【臨床検査学科2019年度～2021年度入学生】ディプロマ・ポリシー				
				1 医療の基礎となる医学・医学・倫理学・社会学の基本的知識を説明できる。	2 臨床検査の基礎となる自然科学の基本的知識を説明できる。	3 臨床検査で行われる生体材料の検査を実施することができ、そのための専門知識や技術を説明できる。	4 生理機能検査技術を実施する能力を有するとともに、臨床検査で行われる医療工学の知識を説明できる。	5 臨床検査の知識をもとにチーム医療の現場に適応していくことができるとともに、社会に貢献するための基礎となる知識を有し、将来の進歩や変化に対応することができる。
基礎分野	生命倫理	選択	1年	○				
	ヘルスケアエデュケーション	選択	1年	○				
	医療心理学	選択	1年	○				
	臨床心理学	選択	1年	○				
	社会と医療	選択	1年	○				
	医療とボランティア	選択	1年					○
	医療経済学	選択	1年	○				
	基礎医療法学	選択	1年	○				
	健康スポーツ	選択	1年	○				
	日本国憲法	選択	1年	○				
	TOEIC対策英語	選択	1年	○				
	生命と物質のサイエンス	選択	1年		○			
	チーム医療論	選択	1年					○
	医療界のワーク・ライフ学	選択	1年	○				
	コンタクトレンズの基礎	選択	1年		○			
	医療数理学入門	選択	1年		○			
	地域健康管理学入門	選択	1年					○
	新薬発見のケーススタディー	選択	1年		○			
	災害からの復活と公衆衛生	選択	1年	○				
	夢の薬物送達システム（DDS）	選択	1年		○			
	世界に羽ばたく医療人	選択	1年	○				
	グラフィック基礎	選択	1年		○			
	アカデミック・イングリッシュ	選択	1年	○				
	イングリッシュ・コミュニケーション	選択	1年	○				
	ヘルス・コミュニケーション	選択	1年	○				
	多文化社会論	選択	1年	○				
	音楽	選択	1年	○				
	研究倫理	選択	1年					○
	プレホスピタルケア概論	選択	1年	○				

※2018年度以前入学者は、入学時に配付された履修要項に記載のカリキュラムマップで、ディプロマ・ポリシーと科目との関連を確認してください。

主な学修内容(2016～2021 年度入学生)

1) 1 学年

化学、生命科学、医用数学、英語などの基礎教養分野の必修科目（実験を含む）とともに、さまざまな分野から科目を選択して履修し、幅広い見識を高めることを目標とする。また必修科目である「医療基礎論」と「医学概論」は、両科目とも、将来医療人として必要な基礎知識や心構えを教育することに重点が置かれている。両科目に重複する内容項目も少なくないが、同じ内容項目であっても、講義する教員によって物の見方や考え方が異なるものであるということを実感し、大学における専門教育とは、高校時代までの学習とは違って、必ずしも答えは一つとは限らないことを、この機会に銘記しておいて貰いたい。教員ごとの講義内容の相違点や類似点を把握して、自分の力で主体的に捉え直す訓練が大切である。必修科目である「臨床生理学Ⅰ」では、臨床検査に必要な体のしくみと機能について、「人体の構造と機能」では、人体における正しい形態と機能、生体を構成する成分と物質、その合成と分解の機序などを学ぶ。基本的な人体のしくみや働きを学ぶことは2年時の専門基礎科目、専門科目を理解する上で重要である。2年次の専門科目に興味をもって取り組むうえで必要となる土台を築くのが1年次の学習のポイントとなる。

2) 2 学年

「組織細胞学」、「生化学」、「病理学」などの専門基礎分野と臨床検査学の第一段階として「臨床検査総論」、「血液情報解析学」、「臨床化学Ⅰ」、「臨床微生物検査学Ⅰ」、「免疫検査学Ⅰ・Ⅱ」、「臨床生理学Ⅱ」、「検査機器学」などの専門分野の必修科目（実習を含む）を履修する。まず正常なヒトの臓器別の形態と機能を十分に理解し記憶するとともに、これら臓器の連携した働きの上に生命の営みが成り立っていることを理解する。また、「生化学」、「病理学」といった従来の基礎医学的内容をしっかりと学ぶことにより、「臨床化学Ⅰ」、「臨床微生物検査学Ⅰ」、「免疫検査学Ⅰ・Ⅱ」などの専門分野にも入りやすくなる。そしてさらに、臨床に即した検査学的内容へと進んでいく上で必要となる土台を築くのが2学年の学習のポイントとなる。とくに前期において自らの到達度をよく認識し、疑問点を早期に解決しながら、後期のより発展的内容と実習に対応できるように準備していく。実習では、講義で学んだ知識を整理し、実践的な手技を身に付ける。このほか、「医学英語」では臨床検査技師として必要とされる英語力の基礎を、「統計学」では検査データを理解するための基本的事項を学ぶ。

3) 3 学年

2年次に履修した専門基礎分野をさらに発展させて、「臨床病理学Ⅱ」、「寄生虫検査学」、「血液検査学」、「臨床細胞学」、「遺伝子検査学」、「放射線科学」、「臨床化学Ⅱ」、「臨床生理学Ⅲ」、「検査管理学」など、実地臨床に求められる専門分野の必修科目（実習を含む）を履修する。3学年では基礎医学をゆっくりと修得する時期であるという意識ではなく、より実践的な臨床検査学的事項を、将来の専門性を意識して学ぶ気持ちが大事である。3学年までに各人が修得した知識・技能が臨床検査学の理解度を決定する。1、2学年の学習状況の良否が各自のその後の学習効果に大きく影響することになるので、より高度な臨床的内容を理解する能力を身につけるよう心がけるべきである。

4) 4 学年

3 年生までに履修した科目の総仕上げの時期であり、グループごとに分かれて実習病院で臨地実習を行なう。臨地実習においては臨床検査の現場で必要となる知識・技能だけでなく、医療従事者に求められる社会性・倫理性、さらに自己管理能力を身につけることも大切である。「臨床検査特論Ⅱ」では国家試験に向けての準備を行う。また余裕のある学生のために細胞検査士特論コース（ただし本学の細胞検査士特論コースを履修しても、日本臨床細胞学会による細胞検査士資格認定試験の受験資格を卒業と同時に得られるものではない）と特別研究コースの自由選択科目も設ける。

第1学年

※1 2019年度入学生より ※2 2017年度入学生より ※3 2016年度入学生までは「医療数理学入門Ⅰ」 ※4 2018年度入学生までは「夢のDDS」
※5 2018年度入学生までは「医療界の男女共同参画社会の構築とキャリアデザイン」 ※6 2018年度以前に修得した場合は2単位

授業科目履修一覧表 (2016～2021年度以降入学生)

第2学年

	授業科目名	単位数	科目責任者	履修方法
基礎分野	統計学	1	松 浦 正 明	2科目2単位 必修
	医学英語	1	咲 間 妙 子	
専門基礎分野	解剖学実習	1	望 月 眞	7科目12単位 必修
	生理学実習	1	崎 原 こ と え	
	組織細胞学	2	宮 田 佳 奈	
	組織細胞学実習	1	宮 田 佳 奈	
	病理学	4	望 月 眞	
	生化学	2	赤 間 剛	
	生化学実習	1	赤 間 剛	
専門分野	病理検査学実習	1	望 月 眞	12科目21単位 必修
	臨床検査総論	2	藤 原 孝 記	
	臨床検査総論実習	1	藤 原 孝 記	
	血液情報解析学	2	福 田 晃 子	
	臨床化学Ⅰ	2	後 藤 真 里	
	臨床微生物検査学Ⅰ	2	松 村 充	
	微生物検査学実習	1	松 村 充	
	免疫検査学Ⅰ	2	黒 田 雅 顕	
	免疫検査学Ⅱ	2	藤 原 孝 記	
	臨床生理学Ⅱ	2	咲 間 妙 子	
	臨床病理学Ⅰ	2	望 月 眞	
	検査機器学	2	黒 田 雅 顕	
	薬理学	2	中 木 敏 夫	1科目2単位 以上選択
	分析化学	2	後 藤 真 里	
	実験動物学	2	後 藤 一 雄	
第2学年履修単位数合計				37単位

臨床検査

授業科目履修一覧表 (2016～2021年度以降入学生)

第3学年

	授業科目名	単位数	科目責任者	履修方法
基礎分野	小論文概論	1	加 藤 健 司	1科目1単位 自由選択
専門基礎分野	公衆衛生学	4	後 藤 一 雄	7科目13単位 必修
	病理学特論	1	望 月 眞	
	臨床化学概論	1	只 野 智 昭	
	医用電子工学	2	咲間妙子・崎原ことえ	
	医用電子工学実習	1	咲間妙子・崎原ことえ	
	ヒューマンエラーと危機管理学	2	松 村 充	
	チーム医療演習	2	黒田雅顕・増山里枝子	
専門分野	臨床病理学Ⅱ	2	望 月 眞	20科目33単位 必修
	寄生虫検査学(実習含む)	2	松 村 充	
	血液検査学	2	福 田 晃 子	
	血液検査学実習	1	福 田 晃 子	
	臨床細胞学	2	宮 田 佳 奈	
	臨床細胞学実習	1	宮 田 佳 奈	
	遺伝子検査学	2	後 藤 一 雄	
	遺伝子検査学実習	1	後 藤 一 雄	
	放射線科学	2	富 沢 比 呂 之	
	臨床化学Ⅱ	2	赤 間 剛	
	臨床化学実習	2	後 藤 真 里	
	免疫検査学実習	1	藤 原 孝 記	
	臨床生理学Ⅲ(画像検査学含む)	2	増 山 里 枝 子	
	生理検査学実習	2	咲間妙子・崎原ことえ	
	検査管理学	2	黒 田 雅 顕	
	関係法規・保健医療福祉概論	1	咲 間 妙 子	
	臨床検査特論Ⅰ	2	鈴 木 幸 一	
	臨床微生物検査学Ⅱ	2	松 村 充	
	臨床微生物検査学実習	1	松 村 充	
	医療安全管理学(実習含む)	1	松 村 充	
	健康食品学	2	貝 原 奈 緒 子	2科目3単位 自由選択
	健康食品関係法規学	1	松 村 充	
第3学年履修単位数合計				46単位

授業科目履修一覧表 (2016～2021年度以降入学生)

第4学年

	授業科目名	単位数	科目責任者	履修方法
専門分野	病態解析演習	1	望 月 眞	3科目14単位 必修
	臨地実習	7	増山里枝子・黒田雅顕	
	臨床検査特論Ⅱ	6	滝 川 一	
	細胞検査士特論	4	宮 田 佳 奈	2科目8単位 自由選択
	特別研究	4	藤 原 孝 記	
第4学年履修単位数合計				14単位

卒業に必要な修得単位数	128単位
-------------	-------

進級および卒業について（2016～2021 年度入学生）

進 級

1. 進級の判定は、学年末に開かれる会議において行われる。
2. 2 学年への進級要件は、1 年次の基礎分野の必修科目 21 単位および選択科目 4 単位以上、専門基礎分野の必修科目 2 単位、専門分野の必修科目 4 単位、合計 31 単位以上を修得していること。
3. 3 学年への進級要件は、2 年次の基礎分野の必修科目 2 単位、専門基礎分野の必修科目 12 単位、専門分野の必修科目 21 単位および選択科目から 2 単位以上、合計 37 単位以上（1 年次、2 年次合計 68 単位以上）を修得していること。
4. 4 学年への進級要件は、3 年次の専門基礎分野の必修科目 13 単位、専門分野の必修科目 33 単位、合計 46 単位（1 年次、2 年次、3 年次合計 114 単位以上）を修得していること。

卒 業

1. 4 年以上在学し、卒業に必要な単位を修得することにより、学年末に開かれる教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学士(医療技術学)の学位が授与される。
2. 卒業要件は、基礎分野の必修科目 23 単位および選択科目 4 単位以上、合計 27 単位以上、専門基礎分野の必修科目 27 単位、専門分野の必修科目 72 単位および選択科目 2 単位以上、合計 74 単位以上、総合計 128 単位以上を修得していること。

臨地実習の履修条件

基礎分野、専門基礎分野、専門分野の 3 年次までに開講されるすべての必修科目および規定数以上の選択科目、合計 114 単位以上を修得または修得見込みであること。

スポーツ医療学科 救急救命士コース履修要項

修得目標・カリキュラムマップ	救 2
主な学修内容	救 6
授業科目履修一覧表	救 8
進級および卒業について	救 10
臨床実習の履修条件	救 10
救急救命士国家試験受験資格について	救 11
コース変更について	救 11

修得目標 スポーツ医療学科救急救命士コース

学科の修得目標		全学の修得目標	4要素
レベル1	レベル2		
A 救急救命士に求められる倫理に関する基礎的知識を有している	1 生命倫理の4つの原則を理解し、病院前救護の現場活動をそれらの原則に当てはめて説明できる		知識・理解
	2 救急救命士の職業倫理を理解し、説明できる		知識・理解
	3 リビングウィル（生前意思）とアドバンスディレクティブ（事前意思）を理解し、心肺蘇生を中止する場合の標準的対応について説明できる		知識・理解
	4 人文科学、社会科学、自然科学に関する幅広い知識を理解した上で専門知識の学びを進める	人文科学、社会科学、自然科学について幅広い関心と知識を有する	知識・理解
	5 言語、文化、宗教、法的制度の異なる人々について理解し、救急活動中に注意すべき点を説明できる	多文化・異文化に関する知識をもって物事を判断することができる	知識・理解
B 救急救命士として地域社会に貢献する意欲を有している	6 保健医療制度、社会保障、社会福祉の仕組みと現状を理解し、病院前救護に関わる問題点を議論できる	常に情報を収集し、それらを基に自分なりの考えを発信できる	汎用的技能
	7 医療従事者の資格や身分を定めた医師法、救急救命士法などの身分法を理解し、救急救命士が行う医療行為について説明できる		知識・理解
	8 救急医療体制およびメディカルコントロールの概念を理解し、説明できる		知識・理解
	9 自分が理想とする救急救命士像に必要なスキルを検討し、それらを獲得するための学修プランを自ら計画し、実行できる	自律・自立して学修できる	態度・志向性
	10 救急救命士の資格を活かせる職業を理解し、自分の希望する進路先を決定することができる	自分の得意分野を見つけ、個性として昇華させることができる	態度・志向性
C 病院前救護活動で考慮すべき安全管理の知識や技術を有している	11 病院前救護活動中に必要な安全管理を理解し、実習で実践できる	修得した知識・技術で自分の力として行動し、その結果に責任を持つ	態度・志向性
	12 病院前救護の現場におけるインシデントとアクシデントについて理解し、症例検討を通じて重大な事故の予防、事故への対応原因の究明、再発防止について議論できる	実社会の出来事について自ら学び、吸収することができる	汎用的技能
	13 病院前救護の現場における感染予防策と感染防御を理解し、実習で実践できる		汎用的技能
D 病院前救護に必要なチームとしての協調性とリーダーシップを有している	14 救急救命士に求められるコミュニケーションスキルを獲得する		知識・理解
	15 傷病者の特性に応じた接遇とコミュニケーションを理解し、実習で実施できる		態度・志向性
	16 シミュレーション訓練において、班単位で独自の活動プロトコルを形成できる		態度・志向性
	17 病院前救護におけるリーダーシップについて理解し、シミュレーション訓練でリーダーとして活動方針を示し、メンバーの行動を誘導できる	他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる	態度・志向性
	18 我が国の救急医療体制を理解し、チーム医療における救急救命士の役割を説明できる	協働作業によって新たなものを構築することができる	態度・志向性
E 病院前救護に必要な医学的知識・技術を修得し、その専門性を探究し続ける能力を有している	19 人体のしくみとはたらきについて説明できる		知識・理解
	20 病院前救護の現場で遭遇する代表的な内因性疾患および外因性傷病について理解し、説明できる		知識・理解
	21 内因性疾患および外因性傷病、集団災害に対する現場活動を理解し、シミュレーション訓練を通して実践できる	多様な情報を収集・分析して適正に判断し、効果的に活用できる	汎用的技能
	22 実習で経験した臨床現場の症例を学内で発表し、議論できる	口頭・書面によるコミュニケーション・プレゼンテーションの能力を有する	汎用的技能
	23 実習での経験と授業で学んだこととの相違点を発見し、その理由を調査・分析して説明できる	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理することで解決できる	汎用的技能
	24 海外のパラメディックの活動について理解し、日本の救急救命士制度との違いを説明できる	海外との交流を積極的に行う姿勢を有する	態度・志向性
	25 病院前救護で行われる根拠に基づく医療（EBM）について理解し、実習で経験した症例を基に、課題を発見し研究できる	獲得した資質・能力を総合的に活用し、自らが立てた課題にそれらを適用することで解決することができる	統合的な学習経験と創造的思考力

カリキュラムマップ

科目区分	科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【スポーツ医療学科救急救命士コース2022年度入学生】修得目標 レベル1：A～E／レベル2：1～2 5																								
				A					B					C					D					E				
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
基礎分野	英語	必修	1年																	○								
	ライフデザイン演習Ⅰ	必修	1年		○							○	○							○								
	ライフデザイン演習Ⅱ	必修	3年									○	○															
	解剖学Ⅰ	必修	1年																	○								
	解剖学Ⅱ	必修	1年																	○								
	生理学Ⅰ	必修	1年																	○								
	生理学Ⅱ	必修	2年																	○								
	情報科学	必修	1年				○																					
	ヒューマンコミュニケーション	必修	1年													○	○											
	医療社会学	必修	1年	○		○				○	○									○								
	生命科学	必修	1年																		○							
	公務員教養Ⅰ	選択	2年				○																					
公務員教養Ⅱ	選択	2年				○																						
国際事情Ⅰ	自由	1年						○																	○			
国際事情Ⅱ	自由	1年						○																	○			
専門科目	衛生学・公衆衛生学	必修	2年						○																			
	薬理学Ⅰ	必修	2年																	○								
	薬理学Ⅱ	必修	3年																	○								
	病理学	必修	2年																	○								
	生化学Ⅰ	必修	1年																	○								
	生化学Ⅱ	必修	2年																	○								
	微生物学	必修	2年																	○								
	救急医学総論Ⅰ	必修	1年																		○							
	救急医学総論Ⅱ	必修	1年																		○							
	救急処置概論	必修	1年		○						○											○		○				
	救急処置総論	必修	2年																		○		○					
	内科系医学Ⅰ	選択	1年																	○								
	内科系医学Ⅱ	選択	1年																		○		○					
	内科系医学Ⅲ	選択	2年																		○							
	内科系医学Ⅳ	選択	2年																	○								
	内科系医学Ⅴ	選択	3年																		○		○					
	外科系医学Ⅰ	選択	2年																		○							
	外科系医学Ⅱ	選択	3年																		○							
	小児科学Ⅰ	選択	2年																		○							
	小児科学Ⅱ	選択	3年																			○		○				
	産婦人科学	選択	2年																		○							
	整形外科Ⅰ	選択	2年																		○							
	整形外科Ⅱ	選択	3年																		○							
	脳外科学Ⅰ	選択	2年																		○							
	脳外科学Ⅱ	選択	3年																		○		○					
	精神医学	選択	2年																		○							
	放射線医学	選択	2年																	○								
	救急処置各論Ⅰ	選択	2年																		○							
	救急処置各論Ⅱ	選択	2年																			○						
	救急処置各論Ⅲ	選択	2年																			○		○				
	救急処置各論Ⅳ	選択	3年																				○					
	救急処置各論Ⅴ	選択	3年																			○						
	救急処置各論Ⅵ	選択	3年																			○						
	救急処置各論Ⅶ	選択	3年																			○						
	救急処置各論Ⅷ	選択	3年																			○		○				
	救急救命特論Ⅰ	選択	4年																	○	○	○						
救急救命特論Ⅱ	選択	4年																	○	○	○							
臨床実習Ⅰ（シミュレーション）	選択	1～2年														○	○	○	○			○						
臨床実習Ⅱ（シミュレーション）	選択	2年														○	○	○	○			○						
臨床実習Ⅲ（シミュレーション）	選択	3年														○	○	○	○			○						
臨床実習Ⅳ（シミュレーション）	選択	3年														○	○	○	○			○						
臨床実習Ⅴ（シミュレーション）	選択	4年														○	○	○	○			○						
臨床実習Ⅵ（救急車同乗実習）	選択	3～4年										○	○	○		○	○							○	○			
臨床実習Ⅶ（病院実習）	選択	3～4年														○							○	○				

科目区分	科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【1年共通科目2022年度入学生】修得目標 レベル1：A～E／レベル2：1～2 5																								
				A					B					C					D					E				
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
基礎分野	チーム医療論	選択	1年				○												○									
	コンタクトレンズの基礎	選択	1年				○																					
	新薬発見のケーススタディー	選択	1年				○																					
	医療界のワーク・ライフ学	選択	1年				○																					
	夢の薬物送達システム（DDS）	選択	1年				○																					
	医療統計学	選択	1年				○																					
	ヘルスクエアエデュケーション	選択	1年				○																					
	社会と医療	選択	1年				○																					
	医療とボランティア	選択	1年				○																					
	医療経済学	選択	1年				○																					
	基礎医療法学	選択	1年				○																					
	生命と物質のサイエンス	選択	1年				○																					
	地域健康管理学入門	選択	1年				○																					
	災害からの復活と公衆衛生	選択	1年				○																					
	世界に羽ばたく医療人	選択	1年				○																			○		
	TOEIC対策英語	選択	1年				○																					
	ヘルス・コミュニケーション	選択	1年				○																					
	医療数理科学入門	選択	1年				○																					
	グラフィック基礎	選択	1年				○																					
	アカデミック・イングリッシュ	選択	1年				○																				○	
	イングリッシュ・コミュニケーション	選択	1年				○																				○	
多文化社会論	選択	1年				○																						
日本国憲法	選択	1年				○																						
医療心理学	選択	1年				○																						
臨床心理学	選択	1年				○																						
健康スポーツ	選択	1年				○																						
生命倫理	選択	1年				○																						

カリキュラムマップ

科目区分	科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【スポーツ医療学科救急救命士コース2019～2021年度入学生】ディプロマ・ポリシー				
				1 プロフェッショナルリズムの高い素養を有している。	2 救急救命に係る倫理観を持ち、傷病者中心の救急救命活動をチームとして行える協調性とリーダーシップについて説明できる。	3 医療領域の基礎となる自然科学・医学的知識を説明できる。	4 病院前救急救護活動において、迅速・的確な総合判断・技術力を発揮するために必要な医学的知識、救急救命処置技術、救急搬送法を説明できる。	5 病院前救護分野において、地域社会に貢献する強い意欲を有している。
基礎分野	英語	必修	1年	○				
	ライフデザイン演習Ⅰ	必修	1年					○
	ライフデザイン演習Ⅱ	必修	3年					○
	解剖学Ⅰ	必修	1年			○		
	解剖学Ⅱ	必修	1年			○		
	生理学Ⅰ	必修	1年			○		
	生理学Ⅱ	必修	2年			○		
	情報科学	必修	1年	○				
	ヒューマンコミュニケーション	必修	1年		○			○
	医療社会学	必修	1年	○				○
専門科目	生命科学	必修	1年			○		
	公務員教養Ⅰ	選択	2年					○
	公務員教養Ⅱ	選択	2年					○
	衛生学・公衆衛生学	必修	2年				○	○
	薬理学Ⅰ	必修	2年			○		
	薬理学Ⅱ	必修	3年			○		
	病理学	必修	2年			○		
	生化学Ⅰ	必修	1年			○		
	生化学Ⅱ	必修	2年			○		
	微生物学	必修	2年			○		
	救急医学総論Ⅰ	必修	1年				○	
	救急医学総論Ⅱ	必修	1年				○	
	救急処置概論	必修	1年				○	
	救急処置総論	必修	2年				○	
	内科系医学Ⅰ	選択	1年				○	
	内科系医学Ⅱ	選択	1年				○	
	内科系医学Ⅲ	選択	2年				○	
	内科系医学Ⅳ	選択	2年				○	
	内科系医学Ⅴ	選択	3年				○	
	外科系医学Ⅰ	選択	2年				○	
	外科系医学Ⅱ	選択	3年				○	
	小児科学Ⅰ	選択	2年				○	
	小児科学Ⅱ	選択	3年				○	
	産婦人科学	選択	2年				○	
	整形外科Ⅰ	選択	2年				○	
	整形外科Ⅱ	選択	3年				○	
	脳外科学Ⅰ	選択	2年				○	
	脳外科学Ⅱ	選択	3年				○	
	精神医学	選択	2年				○	
	放射線医学	選択	2年				○	
	救急処置各論Ⅰ	選択	2年				○	
	救急処置各論Ⅱ	選択	2年				○	
	救急処置各論Ⅲ	選択	2年				○	
	救急処置各論Ⅳ	選択	3年				○	
	救急処置各論Ⅴ	選択	3年				○	
	救急処置各論Ⅵ	選択	3年				○	
	救急処置各論Ⅶ	選択	3年				○	
	救急処置各論Ⅷ	選択	3年				○	
	救急救命特論Ⅰ	選択	4年				○	
	救急救命特論Ⅱ	選択	4年				○	
	臨床実習Ⅰ（シミュレーション）	選択	1～2年		○		○	
	臨床実習Ⅱ（シミュレーション）	選択	2年		○		○	
	臨床実習Ⅲ（シミュレーション）	選択	3年		○		○	
	臨床実習Ⅳ（シミュレーション）	選択	3年		○		○	
	臨床実習Ⅴ（シミュレーション）	選択	4年		○		○	
	臨床実習Ⅵ（救急車同乗実習）	選択	3～4年				○	○
	臨床実習Ⅶ（病院実習）	選択	3～4年				○	○

カリキュラムマップ

科目区分	科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【スポーツ医療学科救急救命士コース2019～2021年度入学生】ディプロマ・ポリシー				
				1 プロフェッショナルリズ ムの高い素養を有して いる。	2 救急救命に係る倫理観 を持ち、傷病者中心の 救急救命活動をチーム として行える協調性と リーダーシップについ て説明できる。	3 医療領域の基礎となる 自然科学・医学的知識 を説明できる。	4 病院前救急救護活動に おいて、迅速・的確な 総合判断・技術力を発 揮するために必要な医 学的知識、救急救命処 置技術、救急搬送法を 説明できる。	5 病院前救護分野におい て、地域社会に貢献す る強い意欲を有してい る。
基礎分野	生命倫理	選択	1年		○			
	医療統計学	選択	1年	○				
	ヘルスケアエデュケーション	選択	1年	○				
	医療心理学	選択	1年	○				
	臨床心理学	選択	1年	○				
	社会と医療	選択	1年		○			
	医療とボランティア	選択	1年		○			○
	医療経済学	選択	1年		○			
	基礎医療法学	選択	1年		○			
	健康スポーツ	選択	1年	○				
	日本国憲法	選択	1年		○			
	TOEIC対策英語	選択	1年	○				
	生命と物質のサイエンス	選択	1年			○		
	チーム医療論	選択	1年		○			
	医療界のワーク・ライフ学	選択	1年		○			
	コンタクトレンズの基礎	選択	1年			○		
	医療数理学入門	選択	1年	○				
	地域健康管理学入門	選択	1年					○
	新薬発見のケーススタディー	選択	1年			○		
	災害からの復活と公衆衛生	選択	1年					○
	夢の薬物送達システム（DDS）	選択	1年			○		
	世界に羽ばたく医療人	選択	1年					○
	グラフィック基礎	選択	1年			○		
	アカデミック・イングリッシュ	選択	1年	○				
	イングリッシュ・コミュニケーション	選択	1年	○				
	ヘルス・コミュニケーション	選択	1年		○			
	多文化社会論	選択	1年	○				
	音楽	選択	1年	○				
	研究倫理	選択	1年		○			

※2018年度以前入学者は、入学時に配付された履修要項に記載のカリキュラムマップで、ディプロマ・ポリシーと科目との関連を確認してください。

主な学修内容

1) 1 学年

1 年次は救急救命士に必要な幅広い見識を得るための科目が配置されている。医療従事者に求められる倫理観は基礎分野の「生命科学」、「医療社会学」を中心に学ぶ。人間関係構築に必要なコミュニケーションスキル、協調性、リーダーシップ、チーム医療の概念は基礎分野の「ヒューマンコミュニケーション」で学ぶ。内因性疾患、外因性傷病の症候や病態を理解するために不可欠である人体のしくみとはたらきを理解するために基礎分野の「解剖学Ⅰ・Ⅱ」、「生理学Ⅰ」、専門基礎分野の「救急医学総論Ⅰ・Ⅱ」、「救急処置概論」、専門分野の「内科系医学Ⅰ・Ⅱ」を履修する。後期から始まる「臨床実習Ⅰ」は、上記で学修した内容をスキルトレーニングで修得する場である。また、1 年次から自身の将来像を描き、それを就職に繋げる行動力を醸成するために「ライフデザイン演習Ⅰ」を配置する。

2) 2 学年

2 年次は1 年次に引き続き、人体のしくみとはたらきを理解するために、基礎分野から「生理学Ⅱ」、専門基礎分野から「薬理学Ⅰ」、「病理学」、「生化学Ⅱ」、「微生物学」を履修する。さらに2 年次から病院前救護の現場で遭遇する内因性疾患、外因性傷病について学ぶ専門分野の科目が多くなる。「内科系医学Ⅲ・Ⅳ」、「外科系医学Ⅰ」、「脳外科学Ⅰ」などで学修した内容を、「臨床実習Ⅱ」のシミュレーショントレーニングで経験することで理解の深化を図る。また、自身が描く将来のライフデザインにおいて、消防職員をはじめとした“公務員”を目指す学生は、基礎分野から「公務員教養Ⅰ・Ⅱ」を履修し、公務員試験において実施される教養試験と論文の対策を行うことが望ましい。

3) 3 学年

3 年次は2 年次で学んだ専門分野の学習を発展させると同時に、自身が描く将来のライフデザインを確実なものにする時期である。内因性疾患、外因性傷病に対する“臨床推論”を学ぶために「内科系医学Ⅴ」、「外科系医学Ⅱ」などの専門分野の科目を履修する。「臨床実習Ⅲ・Ⅳ」では、緊急度・重症度が高い傷病者、心肺停止傷病者に対する救急救命処置（特定行為）を行うシミュレーショントレーニングを主に行う。夏期（8 月）、春期（2 月～3 月）には「臨床実習Ⅵ」（救急車同乗実習）と「臨床実習Ⅶ」（病院実習）がある。実際の救急医療の現場を経験することで、今まで学修してきた救急救命士に必要な医学的知識・技術のみならず、生命倫理、接遇、チーム医療、安全管理の意義を理解する。また、最終学年を控え、卒業後の進路を明確にするための「ライフデザイン演習Ⅱ」を配置する。

4) 4 学年

4 年次は 3 年次までに履修した科目の総仕上げの時期であり、救急救命士国家試験合格を目標として準備する。また、公務員採用試験をはじめとした就職活動と重なる時期であるため、自分の描くライフデザインに沿って主体的に行動することが求められる。「臨床実習Ⅴ」では 3 年次までの実習で行ってこなかった特殊疾患（産婦人科、小児・高齢者、中毒、感染症など）に対する現場活動を修得する。また、シミュレーショントレーニングで使用する教材（シナリオ等）を学生自身で作成し、内因性疾患、外因性傷病、集団災害に対する現場活動の理解を深めると同時にシミュレーショントレーニングの設計を経験する。「救急救命特論Ⅰ・Ⅱ」では国家試験対策として主に模擬試験の実施および問題の解説を中心に行う。

授業科目履修一覧表

基礎分野（必修）

項目	科目	1年	2年	3年	4年	備考
外国語	英語 *	2				22単位 必修
文章表現	ライフ・ザ・イン演習Ⅰ *	2				
	ライフ・ザ・イン演習Ⅱ			2		
解剖学	解剖学Ⅰ	2				
	解剖学Ⅱ	2				
生理学	生理学Ⅰ	2				
	生理学Ⅱ		2			
	情報科学 *	2				
	ヒューマンコミュニケーション *	2				
	医療社会学	2				
	生命科学	2				

*通年科目

専門基礎分野（必修）

項目	科目	1年	2年	3年	4年	備考
衛生学・公衆衛生学	衛生学・公衆衛生学		2			22単位 必修
薬理学	薬理学Ⅰ		2			
	薬理学Ⅱ			2		
病理学	病理学		2			
生化学	生化学Ⅰ	2				
	生化学Ⅱ		2			
微生物学	微生物学		2			
救急医学総論	救急医学総論Ⅰ	2				
	救急医学総論Ⅱ	2				
救急処置	救急処置概論	2				
	救急処置総論		2			

基礎分野（選択）

項目	科目	1年	2年	3年	4年	備考
	※1 チーム医療論	1				10単位 以上選択
	コンタクトレンズの基礎	1				
	新薬発見のケーススタディー	1				
	※2 医療界のワーク・ライフ学	1				
	※3 夢の薬物送達システム(DDS)	1				
	医療統計学	2				
	ヘルスケアエデュケーション	2				
	社会と医療	2				
	医療とボランティア	2				
	医療経済学	2				
	基礎医療法学	2				
	生命と物質のサイエンス	2				
	地域健康管理学入門	2				
	災害からの復活と公衆衛生	2				
	世界に羽ばたく医療人	2				
	TOEIC対策英語	2				
	ヘルス・コミュニケーション	2				
	医療数理学入門	2				
	グラフィック基礎	2				
	アカデミック・イングリッシュ	2				
	イングリッシュ・コミュニケーション	2				
	※4 多文化社会論	2				
	日本国憲法	2				
	医療心理学	2				
	臨床心理学	2				
	健康スポーツ	1				
	生命倫理	2				
	公務員教養Ⅰ		2			
	公務員教養Ⅱ		2			
	国際事情Ⅰ					
	国際事情Ⅱ					

※1 2018年度以前に修得した場合は2単位

※2 2018年度入学生までは「医療界の男女共同参画社会の構築とキャリアデザイン」

※3 2018年度入学生までは「夢のDDS」

※4 2019年度入学生より

専門分野（選択）

項目	科目	1年	2年	3年	4年	備考
内科学	内科系医学Ⅰ	2				48単位 以上選択
	内科系医学Ⅱ	2				
	内科系医学Ⅲ		2			
	内科系医学Ⅳ		2			
	内科系医学Ⅴ			2		
外科学	外科系医学Ⅰ		2			
	外科系医学Ⅱ			2		
小児科学	小児科学Ⅰ		2			
	小児科学Ⅱ			2		
産婦人科学	産婦人科学		2			
整形外科	整形外科Ⅰ		2			
	整形外科Ⅱ			2		
脳外科学	脳外科学Ⅰ		2			
	脳外科学Ⅱ			2		
精神医学	精神医学		2			
放射線医学	放射線医学		2			
救急処置	救急処置各論Ⅰ		2			
	救急処置各論Ⅱ		2			
	救急処置各論Ⅲ		2			
	救急処置各論Ⅳ			2		
	救急処置各論Ⅴ			2		
	救急処置各論Ⅵ			2		
	救急処置各論Ⅶ			2		
	救急処置各論Ⅷ			2		
総合講義	救急救命特論Ⅰ				4	
	救急救命特論Ⅱ				4	
臨床実習	臨床実習Ⅰ(シミュレーション)		3			
	臨床実習Ⅱ(シミュレーション)		3			
	臨床実習Ⅲ(シミュレーション)			4		
	臨床実習Ⅳ(シミュレーション)			4		
	臨床実習Ⅴ(シミュレーション)				3	
	臨床実習Ⅵ(救急車同乗実習)			3		
	臨床実習Ⅶ(病院実習)			5		

国際事情Ⅰ・国際事情Ⅱについて

春期休暇や夏期休暇に実施する2週間～3週間のホリデー留学に参加し、所定の成績を修めた者には、単位が付与されます。留学についてはその都度、掲示などでお知らせします。2週間の場合は2単位、3週間以上の場合は4単位が認定されます。（国際事情Ⅰ 2単位、国際事情Ⅱ 2単位）

共通専門分野（選択）

共通専門分野（選択）は八王子キャンパスで開講されます。

項目	科目	1年	2年	3年	4年	備考
	臨床スポーツ医学（外科系）Ⅰ		2			
	臨床スポーツ医学（外科系）Ⅱ		2			
	臨床スポーツ医学（外科系）Ⅲ			2		
	臨床スポーツ医学（内科系）Ⅰ			2		
	臨床スポーツ医学（内科系）Ⅱ			2		
	検査・測定と評価Ⅰ		2			
	検査・測定と評価Ⅱ			2		
	測定評価実習				1	
	アスレティックトレーナー概論	2				
	スポーツコンディショニング論Ⅰ		2			
	スポーツコンディショニング論Ⅱ		2			
	スポーツコンディショニング論Ⅲ		2			
	スポーツコンディショニング論Ⅳ			2		
	スポーツコンディショニング実習				1	
	アスレティックリハビリテーション概論	2				
	アスレティックリハビリテーションⅠ			2		
	アスレティックリハビリテーションⅡ			2		
	アスレティックリハビリテーションⅢ				2	
	アスレティックリハビリテーションⅣ				2	
	アスレティックトレーナー実践演習Ⅰ				2	
	アスレティックトレーナー実践演習Ⅱ				2	
	スポーツ栄養学Ⅰ			2		
	スポーツ栄養学Ⅱ			2		
	スポーツ現場実習Ⅰ		1			
	スポーツ現場実習Ⅱ			1		
	スポーツ現場実習Ⅲ			1		
	スポーツ現場実習Ⅳ			1		
	総合実習Ⅰ			1		
	総合実習Ⅱ			1		
	ジョギング・ウォーキング	2				
	スポーツクラブ運営論Ⅰ			2		
	スポーツクラブ運営論Ⅱ			2		
	トレーニング実習			1		
	健康と心理Ⅰ		2			
	健康と心理Ⅱ		2			
	体育原理	2				
	体育経営管理学	2				
	スポーツ人類学			2		
	スポーツ情報論Ⅰ	2				
	スポーツ情報論Ⅱ	2				
	スポーツ倫理学		2			
	スポーツ史		2			
	スポーツ運動学（運動方法学を含む）	2				
	精神保健	2				
	学校保健（学校安全等を含む）	2				
	救急処置法		2			
	スポーツ方法実習（陸上競技）Ⅰ		1			
	スポーツ方法実習（陸上競技）Ⅱ		1			
	スポーツ方法実習（水泳）Ⅰ		1			
	スポーツ方法実習（水泳）Ⅱ		1			
	スポーツ方法実習（柔道）Ⅰ		1			
	スポーツ方法実習（柔道）Ⅱ		1			
	スポーツ方法実習（剣道）Ⅰ		1			
	スポーツ方法実習（剣道）Ⅱ		1			
	スポーツ方法実習（ラグビー）		1			
	スポーツ方法実習（バスケッボール）		1			
	スポーツ方法実習（体操）Ⅰ		1			
	スポーツ方法実習（体操）Ⅱ		1			
	スポーツ方法実習（スキー）		1			
	スポーツ方法実習（ハレーボール）		1			
	スポーツ方法実習（レクリエーション）		1			
	スポーツ方法実習（ダンス）		1			
	スポーツ方法実習（野外活動）		1			

基礎分野
（選択）
専門分野
（選択）
の余剰単位
と合わせて
22単位
以上選択

項目	科目	1年	2年	3年	4年	備考
	授業指導法（陸上競技）			2		
	授業指導法（体操）			2		
	授業指導法（水泳）			2		
	授業指導法（柔道）			2		
	授業指導法（剣道）			2		
	授業指導法（球技系）			2		
	小児保健Ⅰ			2		
	小児保健Ⅱ			2		
	予防医学		2			
	養護概説	2				
	健康教育学Ⅰ	2				
	健康教育学Ⅱ	2				
	免疫学		2			
	薬理概論			2		
	看護学Ⅰ	2				
	看護学Ⅱ		2			
	看護学Ⅲ		2			
	看護実習Ⅰ		1			
	看護実習Ⅱ			1		
	栄養学（食品学を含む）	2				
	スポーツ体力学		2			
	運動処方	2				
	運動処方Ⅱ			2		
	運動処方演習				1	
	フィットネス概論	2				
	エプロビクタンスエクササイズ概論	2				
	エプロビクタンスエクササイズ実習Ⅰ		1			
	エプロビクタンスエクササイズ実習Ⅱ		1			
	レクリエーション指導（理論）		2			
	レクリエーション指導演習		2			
	障害者スポーツ論			2		
	環境衛生工学			2		
	産業労働心理学		2			
	労働関係法令Ⅰ			2		
	労働関係法令Ⅱ			2		
	憲法特講Ⅰ		2			
	憲法特講Ⅱ		2			
	基礎法学Ⅰ		2			
	基礎法学Ⅱ		2			
	民法Ⅰ		2			
	民法Ⅱ		2			
	行政法Ⅰ		2			
	行政法Ⅱ		2			
	労働法Ⅰ		2			
	労働法Ⅱ		2			
	経済法Ⅰ			2		
	経済法Ⅱ			2		
	現代法の諸問題Ⅰ			2		
	現代法の諸問題Ⅱ			2		
	消防法と予防行政Ⅰ		2			
	消防法と予防行政Ⅱ		2			
	消防法と予防行政Ⅲ		2			
	消防法と予防行政Ⅳ		2			
	スポーツ産業論Ⅰ	2				
	スポーツ産業論Ⅱ	2				
	アメリカ型スポーツ経営Ⅰ		2			
	アメリカ型スポーツ経営Ⅱ		2			
	ヨーロッパ型スポーツ経営Ⅰ		2			
	ヨーロッパ型スポーツ経営Ⅱ		2			

実習科目については、定員等の関係で履修できないものもあります。

卒業に必要な単位数

科目群		最低修得単位数	備考
基礎分野	必修	22	
	選択	10	余剰単位は、共通専門分野へ算入する
専門基礎分野	必修	22	
専門分野	選択	48	余剰単位は、共通専門分野へ算入する
共通専門分野	選択	22	
卒業要件		124	

進級および卒業について

進 級

1. 進級の判定は、学年末に開かれる会議において行われる。
2. 2 学年への進級要件は、基礎分野の必修科目 18 単位、専門基礎分野の必修科目 8 単位を修得していること。
※2 年生への進級が不合格となった場合、解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰおよび専門基礎分野の必修科目に関しては、合格した科目であっても次年度に再聴講をしなければならない。成績については再評価をする。
3. 3 学年への進級要件は、基礎分野の必修科目 20 単位、専門基礎分野の必修科目 20 単位を修得していること。
4. 4 学年への進級要件は、基礎分野の必修科目 22 単位、専門基礎分野の必修科目 22 単位を修得していること。

卒 業

1. 4 年以上在学し、卒業に必要な単位を修得することにより、学年末に開かれる教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学士(スポーツ医療学)の学位が授与される。
2. 卒業要件は、基礎分野の必修科目 22 単位および選択科目 10 単位以上、専門基礎分野の必修科目 22 単位、専門分野の選択科目 48 単位以上、共通専門分野の選択科目 22 単位以上、総合計 124 単位以上を修得していること。なお、基礎分野の選択科目および専門基礎分野の選択科目の余剰単位は、共通専門分野へ算入する。

臨床実習の履修条件

(2019 年度入学生まで)

「臨床実習Ⅵ」および「臨床実習Ⅶ」を履修するためには、2 年次後期までに配当されている救急救命士国家試験受験資格の科目をすべて修得していること。

(2020 年度以降入学生)

1. 「臨床実習Ⅲ」、「臨床実習Ⅳ」、「臨床実習Ⅵ」、「臨床実習Ⅶ」を履修するためには、2 年次後期までに配当されている救急救命士国家試験受験資格の科目をすべて修得していること
2. 「臨床実習Ⅳ」を履修するためには、「臨床実習Ⅲ」を修得していること。「臨床実習Ⅴ」を履修するためには、「臨床実習Ⅳ」を修得していること。

救急救命士国家試験受験資格について

救急救命士国家試験受験資格を取得するためには、下表の科目をすべて修得する必要がある。

科目	単位	科目	単位
解剖学Ⅰ	2	脳外科学Ⅰ	2
解剖学Ⅱ	2	脳外科学Ⅱ	2
生理学Ⅰ	2	精神医学	2
生理学Ⅱ	2	放射線医学	2
衛生学・公衆衛生学	2	救急処置総論	2
薬理学Ⅰ	2	救急処置各論Ⅰ	2
薬理学Ⅱ	2	救急処置各論Ⅱ	2
病理学	2	救急処置各論Ⅲ	2
生化学Ⅰ	2	救急処置各論Ⅳ	2
生化学Ⅱ	2	救急処置各論Ⅴ	2
微生物学	2	救急処置各論Ⅵ	2
救急医学総論Ⅰ	2	救急処置各論Ⅶ	2
救急医学総論Ⅱ	2	救急処置各論Ⅷ	2
内科系医学Ⅰ	2	救急救命特論Ⅰ	4
内科系医学Ⅱ	2	救急救命特論Ⅱ	4
内科系医学Ⅲ	2	臨床実習Ⅰ(シミュレーション)	3
内科系医学Ⅳ	2	臨床実習Ⅱ(シミュレーション)	3
内科系医学Ⅴ	2	臨床実習Ⅲ(シミュレーション)	4
外科系医学Ⅰ	2	臨床実習Ⅳ(シミュレーション)	4
外科系医学Ⅱ	2	臨床実習Ⅴ(シミュレーション)	3
小児科学Ⅰ	2	臨床実習Ⅵ(救急車同乗実習)	3
小児科学Ⅱ	2	臨床実習Ⅶ(病院実習)	5
産婦人科学	2		
整形外科Ⅰ	2		
整形外科Ⅱ	2		

コースの変更について

救急救命士コースにおいて、進路変更等の理由により健康スポーツコースへの変更を志願した場合、教授会の議を経て、学長が許可することがある。

1. コース変更の対象者は、救急救命士コースの学生のみとし、変更時期は各学年の始めとする。
2. コース変更を志願する者は、前年度3月初旬の指定された期日までに必要書類を提出し、3月末日までに所定の手続きを完了しなければならない。
3. コース変更が許可された場合、既に修得した専門基礎分野及び専門分野の単位は、原則として健康スポーツコースの専門分野（選択）の単位として認定される。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.